

2022年9月

OPEX®

GEMINI

Gemini オペレータマニュアル

9416900OM-JA

改訂版 22-01

使用説明書の原文の翻訳



Gemini™ Right-Speed™ スキャン技術



警告

本機を操作または保守点検する前に、本マニュアルをよくお読みください。
参考用に最新版を保管しておいてください。

© 2022 OPEX® Corporation

無断複写・複製・転載を禁ず。本書は、OPEX が、お客様、パートナー、およびディーラー用として提供するものです。これらの資料のいかなる部分も OPEX Corporation による書面での明確な事前の同意なしに、使用目的以外に、再製、出版、あるいはデータベースまたは情報検索システムに格納することはできません。

OPEX へのお問い合わせ

技術サポート :

OPEX テクニカル サポート
835 Lancer Drive
Moorestown, NJ 08057 USA

南北アメリカ : 1 800.673.9288 - または - 856.727.1950

ヨーロッパ、中東、アフリカ : +1 800.673.9288

オーストラリア : +1 800.945247

Service@opex.com

製品のモデル名と製造番号を用意します ([「本機のモデル/シリアル番号の位置」\(22 ページ\)](#) をご参照)。

その他のお問い合わせ :

OPEX[®] Corporation
305 Commerce Dr.
Moorestown, NJ 08057-4234 USA
電話 : +1 856.727.1100
Fax : +1 856.727.1955
<https://www.opex.com/>

本書における誤記載や不明確な点などに関しては、以下の OPEX テクニカルライターまで電子メールでご連絡ください。
GroupDMATechWriters@opex.com

opexservice.com の Web サイト関連の問題については、OPEX Web 開発者 (dshelp@opex.com) に電子メールでお問い合わせください。

改訂履歴

改訂番号	日付	変更内容（青い文字をクリックすると、対象ページに移動します）
2022-01	2022年9月27日	初版

目次

第 1 章

はじめに

1.1. 本書について	10
1.1.1. マニュアルのナビゲーション補助	10
1.2. 安全メッセージ表記規則	11
1.3. 安全ガイドライン	12
1.3.1. 安全上のご注意	12
1.3.2. 人間工学に基づいた作業方法	13

第 2 章

概要

2.1. 主制御部とシステムコンポーネント	16
2.2. 本機のモデル/シリアル番号の位置	22
2.3. Gemini システムコンポーネント	23
2.3.1. ソフトウェア	23
2.4. 仕様	24
2.4.1. 環境仕様	26
2.5. Gemini 設置面積	27

第 3 章

操作

3.1. システムの電源を入れ、CertainScan を起動する	30
3.2. CertainScan オペレータアカウント	32
3.3. CertainScan にログインする	33
3.4. CertainScan メインインターフェイス	34
3.5. ジョブを選択して CertainScan 実行画面を起動する	35
3.6. ジョブ実行画面	38
3.6.1. 実行画面の各種ボタン	39
3.6.2. 実行画面プレビュー画像のアイコン	40

3.7. 実行画面表示ビュー	42
3.8. 画像ビューア機能	53
3.9. 情報ウィンドウの選択	55
3.9.1. Additional Information Windows (他の情報)ウィンドウ	57
3.10. アイテムの作成	58
3.10.1. 傾き	59
3.10.2. アイテムをスキャンする	59
3.11. ジョブの実行とアイテムのスキャン	60
3.11.1. Stack Feeding (アイテム積み重ねフィード)	60
3.12. オペレータアカウントの管理	61
3.12.1. 新規オペレータの追加	63
3.12.2. ジョブへのグループ別アクセス	64

第4章 ジョブの実行

4.1. 概要	71
4.2. ルール化されたジョブとルール化されていないジョブ	71
4.3. ページタイプの割り当て	72
4.4. ページタイプのロック	73
4.5. ページサブタイプ	74
4.6. オペレータ/ジョブアイコンのサイズ	75
4.7. 画質の調整	77
4.7.1. 読み込みパラメータの調整画面のボタン	77
4.8. アイテムの再スキャン	79
4.9. バッチからアイテムを削除する	80
4.10. 新しいバッチを開始する	81
4.11. アイテムとセット/トランザクションの無効化	82
4.12. スキャン中のバッチの編集	84
4.13. 複数バッチの中断と再開	85
4.13.1. CertainScan に搭載されているバッチエディタ	86
4.13.2. バッチを閉じる	87
4.14. CertainScan 遅延ジョブ	88
4.14.1. ページタイプ選択ボタン	88

4.14.2. 実行画面のサムネイル	89
4.15. 再スキャンフィーダー	91
4.15.1. スキャナの一時停止と再スキャンフィーダーの使用	91
4.15.2. スキャン中止時の再スキャンフィーダーの使用	93
4.16. マルチフィード検出(MFD)	94
4.16.1. スキャン中の MFD 無効化	94
4.16.2. スキャナの一時停止と MFD の無効化	95
4.16.3. スキャン中止時の MFD フィーダー経路の使用	95
4.17. ID Assist	96
4.17.1. ID Assist を使用する	96
4.18. マルチスロット ID Assist	97
4.19. Key Assist	99
4.20. 紙詰まりを解消する	100
4.21. トレイから文書を取り出す	102

第 5 章 メンテナンス

5.1. タッチスクリーンモニターの較正	104
5.2. プリンタカートリッジの取り外し/交換	105
5.2.1. バックプリンタカートリッジの取り外し/交換	105
5.2.2. フロントプリンタカートリッジの取り外し/交換	107
5.3. トレイ	108
5.4. スキャナの清掃	109
5.4.1. コンベアと搬送アセンブリ	109
5.4.2. コンタクトイメージセンサー(CIS)	110
5.4.3. フィードアセンブリ	111

第 6 章 統計とバッチ出力 ファイル拡張子

6.1. Gemini の統計情報	114
6.1.1. 統計レポートの作成	114
6.1.2. General Information(一般情報)	116

6.1.3. 全体的なシステム性能評価	117
6.1.4. Performance Details (パフォーマンスの詳細)	118
6.1.5. リジェクト条件	119
6.1.6. 詰まった回数	122
6.1.7. Stops (停止)	129
6.2. バッチ出力ファイル拡張子	131
6.2.1. 拡張子:	131

(このページは意図的に白紙にしています)

1

1. はじめに

1.1. 本書について	10
1.1.1. マニュアルのナビゲーション補助	10
1.2. 安全メッセージ表記規則	11
1.3. 安全ガイドライン	12
1.3.1. 安全上のご注意	12
1.3.2. 人間工学に基づいた作業方法	13

Gemini

オペレータマニュアル

1.1. 本書について



警告

本機を使用する前に、この章をよくお読みください。

本書には、OPEX Gemini スキャナに関する情報、操作手順、安全関連コンポーネントについての情報が掲載されています：

- 安全情報、安全上の問題、注意事項
- 主要コンポーネントの識別および機能
- システム仕様
- 簡単なメンテナンスと清掃

本書の情報は、Gemini オペレータを対象としています。オペレータは装置の電源を入れて作業を開始し、コンベア上にアイテムを配置します。また、簡単なメンテナンスを実行することもできます。

本書は機器の設計変更を反映するため、またはエラーを修正するために更新されます（アイテムの改訂履歴の詳細が記載された表は、[3 ページ](#)で確認できます）。参照用に、必ず最新の電子版マニュアルを保持してください。最新リリースは PDF 形式で www.opexservice.com からダウンロードできます。

1.1.1. マニュアルのナビゲーション補助

本マニュアルは、主にタブレット端末で使用するよう設計されています。ナビゲーションを向上させるために、マニュアルには青い下線が付いたリンクが記載されており、これをクリックまたはタップすると特定のページや Web アドレスに直接アクセスできます。また、[「目次」](#)内のすべての項目と PDF ファイルのサイドバーにあるブックマークをクリックまたはタップすると特定のページに直接移動できます。最適なパフォーマンスを得るため、必ず最新版の Adobe[®] Acrobat Reader[®]* をお使いください。

*Adobe および Acrobat Reader は Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

1.2. 安全メッセージ表記規則

本書では、特定の手順や状況に関連する安全上の問題について警告するため、以下の表記規則を使用します。本書を読んで機器を操作するときは、以下の表記規則にご注意ください：



危険

回避しない場合は、死亡または重傷を招く危険な状況を指します。この警告表示の使用は最も極端な状況に限定されます。



警告

回避しない場合は死亡または重傷を招く可能性がある危険な状況を指します。



注意

回避しない場合は軽度または中程度の傷害を招く可能性がある状況を指します。

注記

物的損害に関連するメッセージなど、危険に関連する内容ではないが重要とみなされる情報を指します。

1.3. 安全ガイドライン

本章は、OPEX 機器の操作やメンテナンスに関するさまざまな安全上の問題について説明することを目的とし、この機器を扱う際に守らなければならない安全上のガイドラインを説明します。

注意：本書では、Gemini スキャナの操作方法について説明します。違うモデルやオプション機能をお持ちの場合は、本書を読み続ける前に該当する製品のマニュアルを参照してください。

1.3.1. 安全上のご注意



警告

本機の操作または保守を行う際は、損傷を避けるため本書に記載された安全ガイドラインに必ず従ってください。これらの注意事項に従わない場合、重傷や装置の損傷を招く可能性があります。

- AC 電源に接続する場合は注意が必要です。電源に接続している限り、装置の作動状態を問わず電流が流れている可能性があります。注意を怠ると、感電や死亡事故をまねく危険があります。
- 装置内部に流れ落ちるおそれがあるため、スキャナ上に飲み物や液体を置かないでください。
- 剥き出しの可動部に巻き込まれる可能性があるため、装置に異物を近づけないでください。Gemini の可動部に、異物が詰まったり、異物による破損が生じたりする可能性があります。また、手、髪、衣服、装飾品などを可動部に近づけないでください。
- 作動中は本機の清掃をしないでください。ベルトやローラーなどの可動部は、布などを使って掃除しないでください。布などの素材を可動部に使用すると、機械の破損や重度の人身事故につながる恐れがあります。
- 本機に付着した紙屑や埃を取り除くために、可燃性の高圧エアースプレー缶を使わないでください。
- 電源が入っている間は、本機を移動させないでください。移動時は、予めコンセントを電源をから抜いてください。

1.3.2. 人間工学に基づいた作業方法

反復運動を繰り返す業務では、作業方法を検討することが重要です。スキャナを操作する際は、常に適切な操作手順に従ってください。椅子とスキャナの使用や調節方法については、使用説明書に従ってください。誤った手順で使用すると、重傷を負う可能性があります。Gemini スキャナは、95%以上のユーザーが安全に操作できるように設計されています。本機を操作するのに十分な身長がない方や、本書に記載されている推奨手順を実行できない方は、本機の操作を避けるか、あるいは操作時間を制限する必要があります。

リスクを軽減するために、以下の提案に従ってください。

- 体の姿勢を真直ぐに維持し、椅子にもたれかからないようにして座っている間は、胴体と太ももの角度を常に 90 度近くに保つこと
- 椅子やスキャナの高さを調整し、腕を体の横に付け、両足を床に平らに置いた状態で肘が作業面の高さとはほぼ等しくなるようにすること
- 胴体がスキャナ作業面の前端に触れるように椅子の位置を調整し、この姿勢を妨げるような肘掛け付きの椅子は使用しないこと
- 処理中によく触る部分への手の動きを最小限にするように、タッチスクリーンの位置を調整すること
- 頻繁に使用するピックアップエリアや、頻繁にタッチするタッチスクリーンのボタンは、腕を大きく伸ばしたり、姿勢を変えたりしなくても簡単に手が届くよう調整すること
- 座る角度をときどき変え、可能であれば作業内容に変化をつけて反復動作中に短い休憩を入れられるようにすること
- 1 回のシフトに 8 時間以上本機を操作することは避けます。

労働災害を完全に防ぐ方法はありませんが、Gemini を操作する際に上記の提案を実践していただければ、快適性と安全性は確実に向上します。本機はユーザーのことを念頭に置いて設計されています。適切な方法で使用すれば、快適にご利用いただけます。

(このページは意図的に白紙にしています)

2. 概要

2.1. 主制御部とシステムコンポーネント	16
2.2. 本機のモデル/シリアル番号の位置	22
2.3. Gemini システムコンポーネント	23
2.3.1. ソフトウェア	23
2.4. 仕様	24
2.4.1. 環境仕様	26
2.5. Gemini 設置面積	27

Gemini

オペレーターマニュアル

2.1. 主制御部とシステムコンポーネント

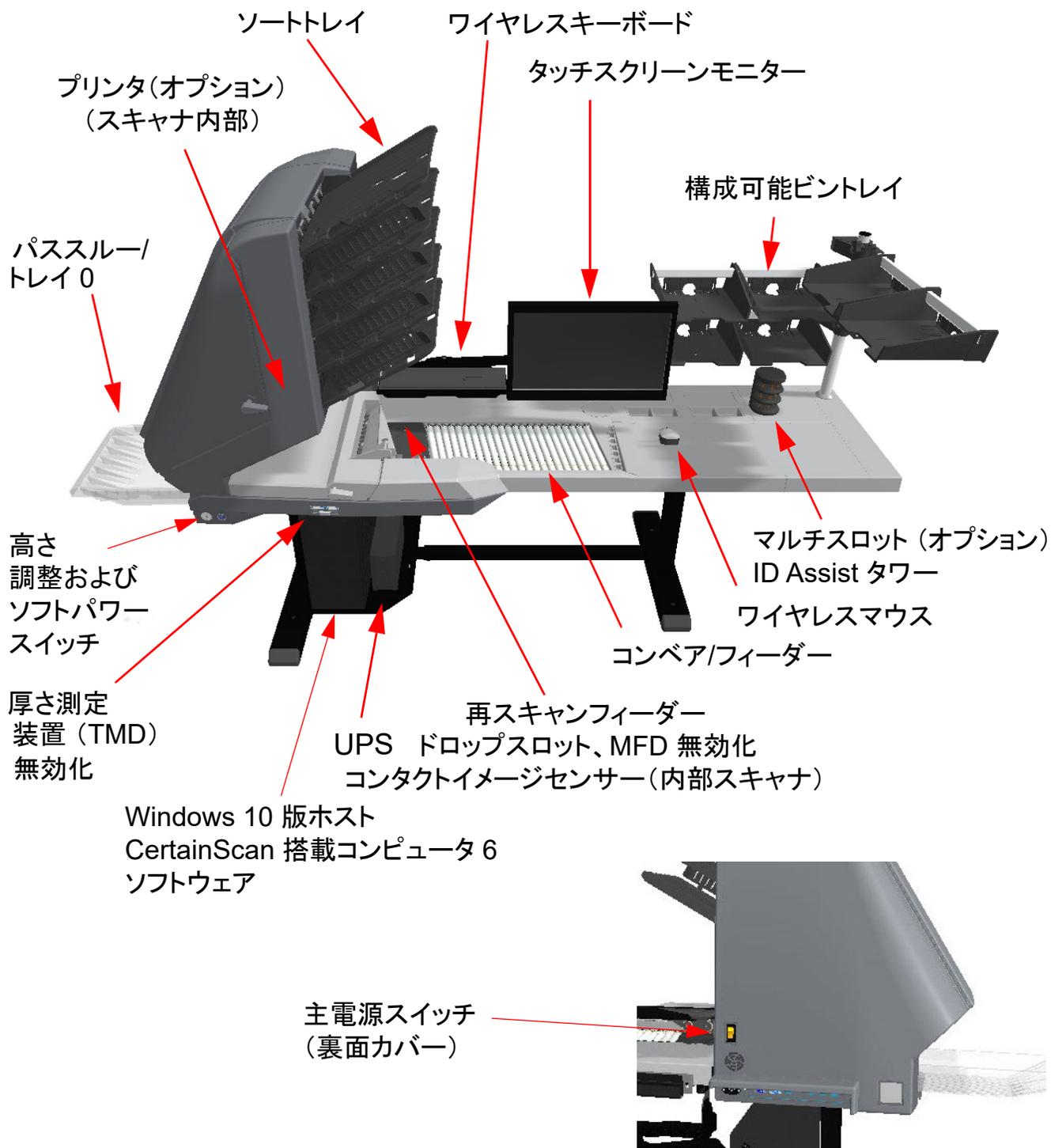


図 2-1 : 主制御部と各コンポーネント

以下の一覧では、Gemini スキャナの多くの制御とコンポーネントについて説明しています。 [図 2-1 ページ 16](#) を参照してください。

主電源スイッチ メイン電源スイッチは裏面カバーにあります。これが Gemini スキャナの主電源です。オンの場合は、ソフト電源ボタンを使用して Gemini スキャナのオン / オフを切り替えます。

高さ調整 Gemini の高さを上下させるために使用します (図 2-2)。作業面の高さ調整範囲 : 最大 68.834 ~ 103.124 cm (27.1 ~ 40.6 インチ)。

ソフト電源スイッチ メイン電源がオンの時に、このボタンを使用して Gemini スキャナのオン / オフを切り替えます (図 2-2)。メイン電源がオンになると、このボタンが赤色に点灯します。このボタンが青色に点灯するまで長押しすると、Gemini スキャナの電源がオンであることを示します。もう一度長押しすると、Gemini スキャナはオフになります (赤色で点灯)。メイン電源スイッチで Gemini の電源を切ります。

注意 : ボタンを押し続け、ランプが赤色に点滅した時は、メイン電源がオンになっていないことを示します。



図 2-2 : 高さ調整とソフト電源スイッチ

UPS (停電時作動用電源装置) サイト電源が喪失した場合、UPS はコンピュータとモニターに電力を供給し、通常のコンピュータ機能でスキャンしたバッチの保存、CertainScan からのログアウト、通常のプロセスによるコンピュータのシャットダウンを可能にします。スキャナのプラグは、UPS ではなく壁の AC 電源に差し込んでください。

注意 : UPS ソフトウェアの PowerChute は、オペレータがシャットダウンしない場合、コンピュータを自動的にシャットダウンします。

ホストコンピュータ 64ビット版の Windows 10 搭載 PC に、OPEX の独自機能を多く備えた CertainScan 6.0（ホストソフトウェア）が搭載されています。

タッチスクリーンモニター タッチスクリーンモニターを使用すると、オペレータはキーボードを使用せずに確実にスキヤンのオン/オフを行ってジョブを実行できます。

ワイヤレスキーボードとマウス（トレイ付属） キーボードとマウスは、ジョブの設定や他のソフトウェアとの使用に使用します。

コンベア アイテムがフィーダーに入る前にアイテムの端を揃える傾斜したローラーシステムです。

フィーダー フィーダーは、個々のアイテムを送信するか、スタックから一番上のアイテムを分離して、スキヤナにフィードします。

フィーダードロップスロットの再スキヤン 拒否されたアイテムまたは自動フィーダが給紙できないアイテムを、オペレータがスキヤナに（一度に1つずつ）給紙できるようにする独立した給紙パスです。

コンタクトイメージセンサー CIS（コンタクトイメージスキヤナ）は、スキヤナを通して送られてくるアイテムのイメージを読み込みます。スキヤン機構内の下部に1つ、上部に1つあります。

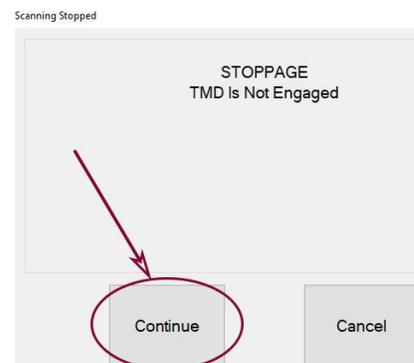
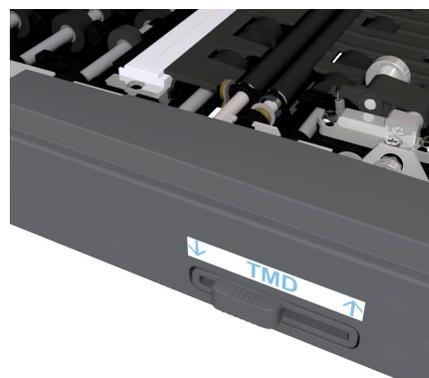
ソートトレイ スキヤンされたアイテムは、出カトレイのジョブで構成されたとおりに並べ替えられます。Gemini スキヤナには、プログラム可能な5つの出カトレイと、大きなアイテムや繊細なアイテムを仕分けるためのパススルートレイ（トレイ0）が追加されています。

マルチフィード検出（MFD）無効化ボタン MFD 無効化ボタンを使用すると、厚い部分や付箋が付いているアイテムをスキヤンする時のマルチフィード検出を無効にすることができます。

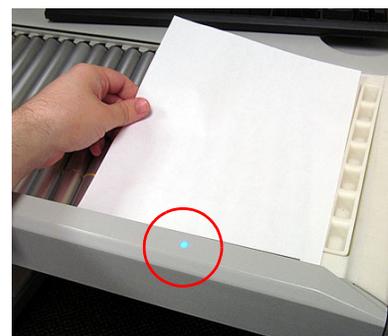


厚さ測定装置 (TMD) の無効化 厚さ測定装置を外すと、開いた紙の通り道ができるので、大きくて繊細なアイテムの処理に最適です。レバーを右（上矢印の位置）にスライドさせると、厚さ測定装置が外れます。ジョブに TMD が必要な場合は、オペレータに TMD が取り付けられていないことを示すプロンプトが表示され、オペレータは以下のいずれかを実行する必要があります。

- **Continue (続行)** をクリックして、その部分を上書きします。または
- レバーを左（下矢印の位置）にスライドさせて TMD を取り付け、**Continue (続行)** をクリックします。



ID Assist インジケータ ID Assist が設定されたジョブを実行すると、青色の ID Assist インジケータが点灯します。また、オペレータが ID Assist を起動すると LED が短時間消え、ID Assist がアクティブになったことを知らせます。



マルチスロット ID Assist (オプション) このオプションにより、タワーあたり最大 9 種類の機能を実行できます。この機能は、タワーの 3 個の投入口でアイテムをスワイプする方法により決定されます。1 台のスキヤナーで最大 2 つのタワーを使用することができ、合計 18 種類の機能を使用することができます。

外付け画像キャプチャ装置（オプション） Gemini でスキャンできない画像は、カメラに利用可能なオプションのポールと取り付けアームを使い、これでアイテムの画像をキャプチャして直接バッチに挿入できます。

注意： このオプションにはカメラが含まれません。



前部監査トレイルプリンタ（オプション） アクセスドアがあるトレイ 1 の下にあります（図 2-3 を参照）。



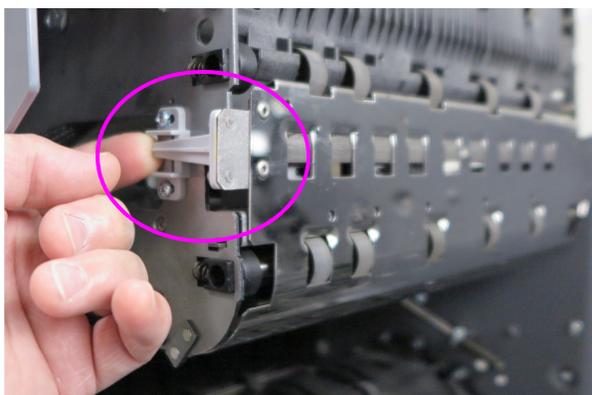
タブを押してアクセスドアを開く



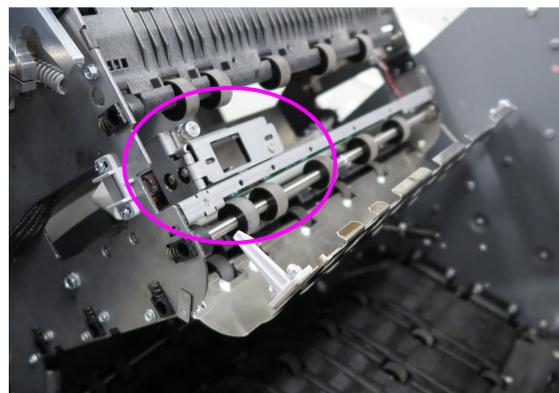
フロントプリンタ

図 2-3 : 前部監査トレイルの位置

後部監査トレイルプリンタ（オプション） アクセスパネル付きのバック搬送
にあります（図 2-4 を参照）。



タブを上げてアクセスパネルを開く



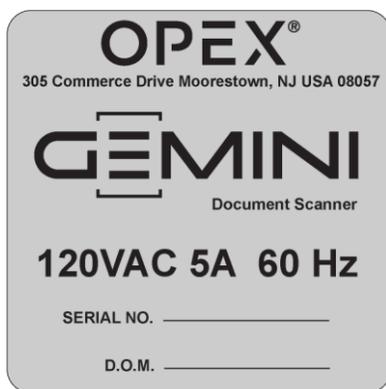
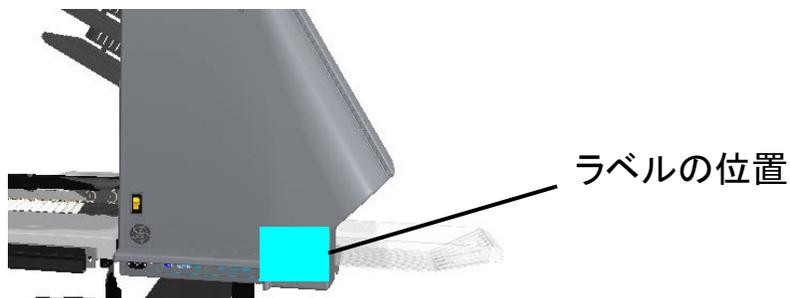
バックプリンタにアクセスするために開いたパネル

図 2-4 : 後部監査トレイルの位置

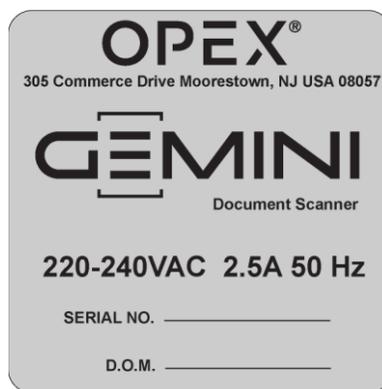
2.2. 本機のモデル / シリアル番号の位置

OPEX 技術サポートにお問い合わせの際は、担当技術者に参照シリアル番号（図 2-5）を伝えられるよう、あらかじめ本機のモデル / シリアルラベルをご確認ください。

お問い合わせ先の詳細については、[2 ページ](#)をご覧ください。



9411375 (US|CA)



9411376 (EU|UK)

図 2-5 : モデル / シリアルラベル

2.3. Gemini システムコンポーネント

Gemini は、Windows 10 版ホストコンピューターに OPEX のソフトウェアをインストールして装置の機能を制御し、オペレータにグラフィカルユーザーインターフェイスを提供しています。アイテムはジョブとページタイプの設定に応じてスキャンされます。スキャナは MICR や OCR の情報を取り込み、監査証跡を印刷し、ジョブごとに設定された指定のトレイに振り分けます。

2.3.1. ソフトウェア

Gemini では、次の 2 つのソフトウェアアプリケーションを使用してスキャナを制御します。

CertainScan : 設定されたジョブを選択して実行するためのオペレータ インターフェイスと、ジョブの設定、ページタイプの設定、オペレータのメンテナンス、OPEX スキャナの管理を担当する管理者用のインターフェイスです。

- **ジョブ** : ジョブとは全てのスキャン作業を定義したものです。ジョブは、ページタイプの選択とジョブパラメータ（バッチ、イメージキャプチャ、仕分けなど）の定義によって設定されます。実行するジョブを選択すると、スキャンされたアイテムは、自動的にジョブのページタイプと照合され、すべてのメタデータが設定通りに取り込まれます。
- **ページタイプ** : ページタイプとは、スキャンするアイテムの種類（フォルダ、書類、小切手、封筒など）を表すために使用される用語です。ページタイプは、修飾子とパラメータ（バーコード、MICR、マーク検出など）を定義することで設定されます。ページタイプを設定して保存すると、ジョブの設定時に選択できるようになります。
- **アイテム仕分け** : CertainScan では、スキャン時に 4 つのレベルのアイテム仕分けが可能です。アイテム仕分けに使う用語は、選択した CertainScan 顧客タイプに基づいています。
 - サービスデスク用語 : Batch (バッチ) > Set (セット) > Group (グループ) > Page (ページ)
 - 入金処理条件 : Batch (バッチ) > Transaction (トランザクション) > Group (グループ) > Page (ページ)

INtime コントローラ : このソフトウェアはバックグラウンドで動作し、CertainScan の初回起動時に起動します。INtime はスキャナに関連するすべての機械的機能を制御します。INtime コントローラにアクセスする必要はありません。CertainScan の使用時は、INtime を閉じないでください。

2.4. 仕様

表 2-1: Gemini の仕様

アイテムのフィード	<ul style="list-style-type: none">• 大容量自動フィード• 連続給紙• 東フィード• ドロップ / スキャン給紙• 再スキャンフィード
対応可能なアイテム	<ul style="list-style-type: none">• 高さ : 5.08 ~ 30.48 cm (2.0 ~ 12.0 インチ) 長さ : 8.89 ~ 64.77 cm (3.5 ~ 25.5 インチ) <i>i</i>• 仕分けされた用紙の厚さ : 0.003 ~ 0.012 インチ (0.008 cm x 0.03 cm)• スルーパス用紙の厚さ : 0.008 ~ 0.16 cm (0.003 ~ 0.062 インチ)
スキャン速度	300 dpi 時最大 240 ppm (レターサイズ) / 245 ppm (A4 サイズ) @300 dpi
インライン認識	OCR、OMR、バーコード、原稿タイプ ID
メディア検出	マルチフィード (複数ページの重なり)、長さ、傾き、厚さ、封筒などの検出
アイテム仕分け	<ul style="list-style-type: none">• プログラム可能な収納トレイ (計 5 個)• プログラム可能なストレートパス (厚紙 / 繊細なアイテム用) 収納トレイ (1 個)
1 日あたりの デューティサイクル	無制限
物理寸法	高さ : 165.1 ~ 197.104 cm (65 ~ 77.6 インチ)。 幅 : 233.68 cm (92 インチ)、+ パススルートレイ用 25.4 cm (10 インチ) 奥行き : 80.772 cm (31.8 インチ)
作業面の高さ範囲	68.834 ~ 103.124 cm (27.1 ~ 40.6 インチ)。

表 2-1: Gemini の仕様 (続き)

重量	208.652 kg (460 ポンド)
電気的特性	<ul style="list-style-type: none"> • 米国 : AC 120 V 60Hz 5A • EU : AC 220 ~ 240 V 50Hz 2.5A
ラインコード	IEC 電源コード、プラグ、6 フィート
電源	600 ワット、2050 BTU/ 時
電気規格	UL/ANSI-62368-1、CAN/CSA STDC22.2 No. 62368-1、IEC 62368-1
標準ソフトウェア	CertainScan®6.0 64 ビットホストソフトウェア、 INTime® 6.4、APC® Powerchute® パーソナルエディ ション、OPEX 標準バーコードパッケージ、 Microsoft® Windows 10 Pro® 64 ビット
標準機能	<ul style="list-style-type: none"> • 自動ページ分類 • 自動傾き補正 • 自動エンベロープ検出 • 超音波マルチフィード検出器 (7 台) • 600 dpi 読み込み • 厚いアイテムも仕分け可能 • プログラム可能な仕分けトレイ (計 5 個) • 混合アイテムに対応 • 22 インチのタッチスクリーンディスプレイ • ワイヤレスキーボードとマウス • TMD (厚さ測定装置) • ドロップスロット / リフィーダ • スキャナ作業面の電力高さ調整 • 自動スタック検知付きフィーダ

表 2-1: Gemini の仕様 (続き)

オプション機能	<ul style="list-style-type: none"> • CertainScan® Edit™ • CertainScan® Transform™ • CertainScan® Monitor • 外付けデジタルキャプチャ装置 • MICR+ (米国のみ) • 1D および 2D バーコード • ScanLink API • *VRS® テクノロジー (*VRS は、Kofax, Inc. の登録商標です) • KeyAssist™ • バンカーズボックスカート • マルチスロット ID Assist (有線およびワイヤレス) • 参照 ID • 監査証跡グラフィックプリンタ (前面と背面) • Process Link API
---------	--

注意: オプションの詳細については、営業担当者にお問い合わせください。

2.4.1. 環境仕様

行政機関の承認	UL、CE、FCC
音響ノイズエミッション	スタンバイ = 最大 44 dBA 動作時 = 最大 69 dBA
動作温度	59° ~ 95°F (15° ~ 35°C)
湿度	15% ~ 76% RH

2.5. Gemini 設置面積

図 2-6 に、Gemini の物理的な寸法を示します。

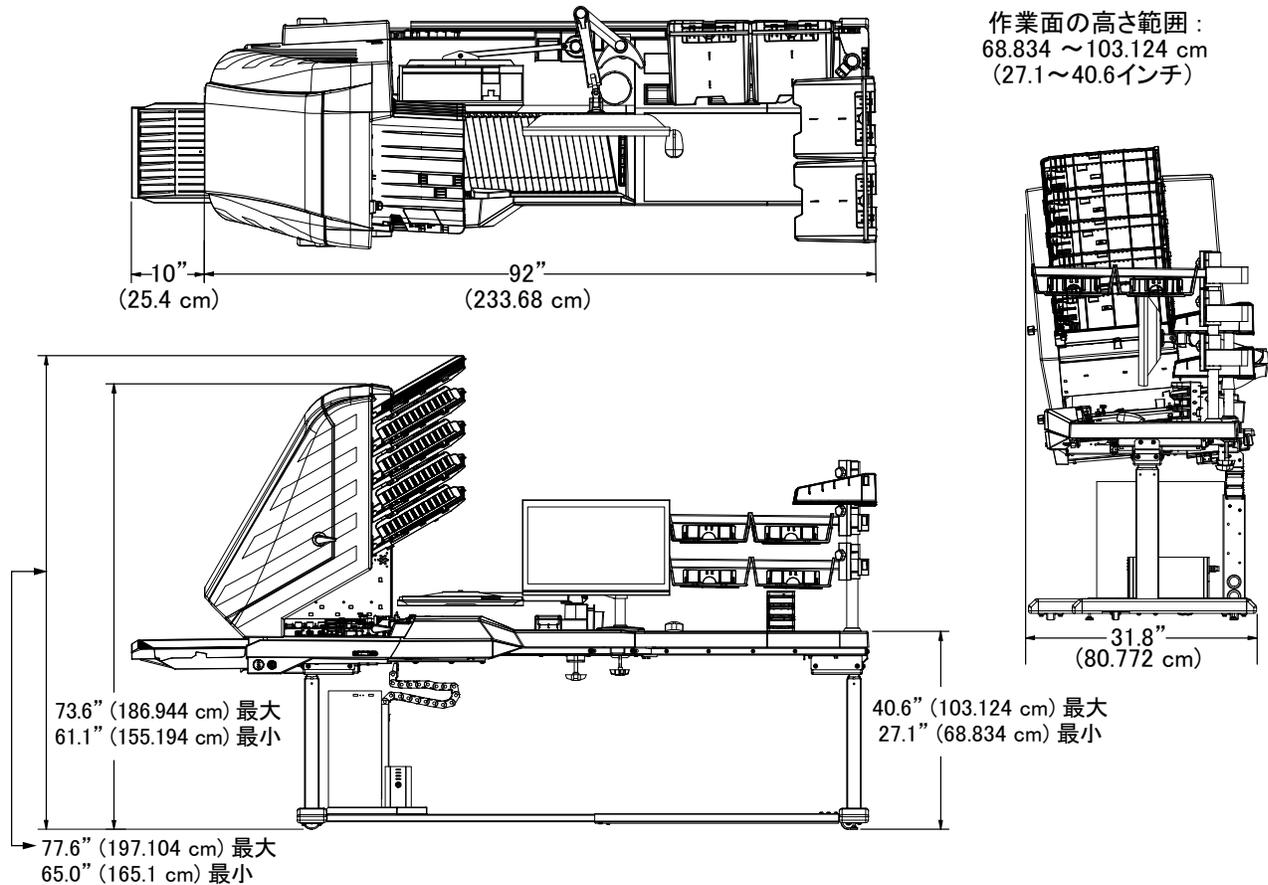


図 2-6 : Gemini 設置面積

(このページは意図的に白紙にしています)

3

3. 操作

3.1. システムの電源を入れ、CertainScan を起動する	30
3.2. CertainScan オペレータアカウント.....	32
3.3. CertainScan にログインする.....	33
3.4. CertainScan メインインターフェイス.....	34
3.5. ジョブを選択して CertainScan 実行画面を起動する	35
3.6. ジョブ実行画面.....	38
3.6.1. 実行画面の各種ボタン.....	39
3.6.2. 実行画面プレビュー画像のアイコン	40
3.7. 実行画面表示ビュー.....	42
3.8. 画像ビューア機能	53
3.9. 情報ウィンドウの選択.....	55
3.9.1. Additional Information Windows (他の情報)ウィンドウ.....	57
3.10. アイテムの作成	58
3.10.1. 傾き.....	59
3.10.2. アイテムをスキャンする.....	59
3.11. ジョブの実行とアイテムのスキャン	60
3.11.1. Stack Feeding (アイテム積み重ねフィード).....	60
3.12. オペレータアカウントの管理	61
3.12.1. 新規オペレータの追加	63
3.12.2. ジョブへのグループ別アクセス.....	64

Gemini

オペレータマニュアル

3.1. システムの電源を入れ、CertainScan を起動する

1. UPS、モニター、コンピュータの電源を入れます。ローカルネットワークアクセスに設定されていない場合、Windows はログインのプロンプト表示なしで起動します。設定されている場合、ユーザー名とパスワードで Windows にログインします。

注意：コンピュータの最初の電源投入時に、CertainScan が自動的に起動し、オペレータログイン画面が開きます。

2. スキャナの主電源スイッチをオンにします（図 3-1）。スキャナ前面のソフト電源ボタンを押したままにし、ボタンが青色に変わったら放します。

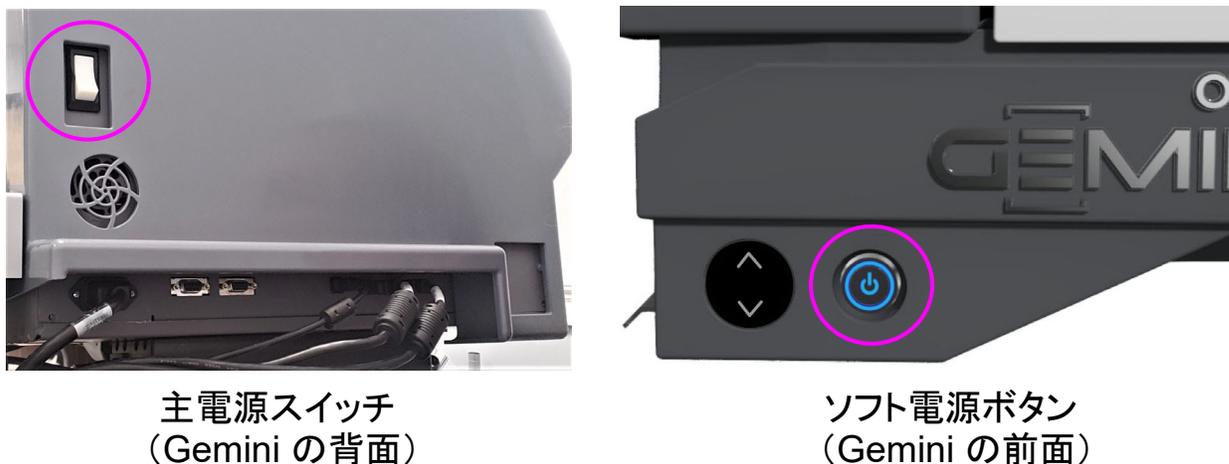


図 3-1 : 電源を入れる

3. デスクトップ上の CS アイコン（図 3-2）をダブルクリックして、CertainScan を起動します。



図 3-2 : CertainScan のアイコン

4. オペレータがログインするための CertainScan メイン画面が表示されます (図 3-3)。

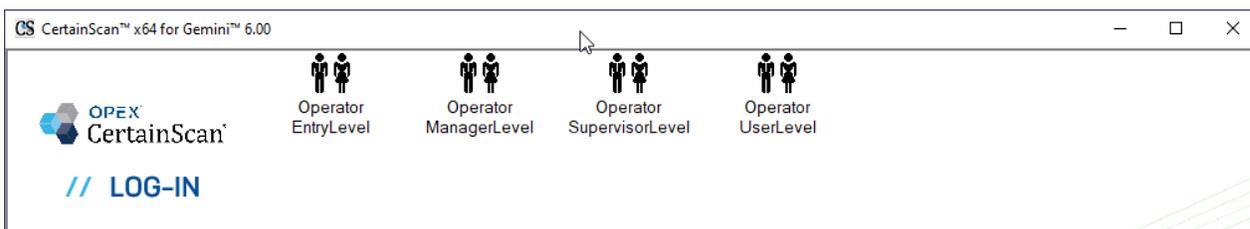


図 3-3 : CertainScan メインログイン

注意：オペレータアイコンのサイズは、システムパラメータの設定によって決まり、マネージャーレベルのオペレータが選択できません (図 3-4)。詳細については、[「オペレータ/ジョブアイコンのサイズ」\(75 ページ\)](#) を参照してください。

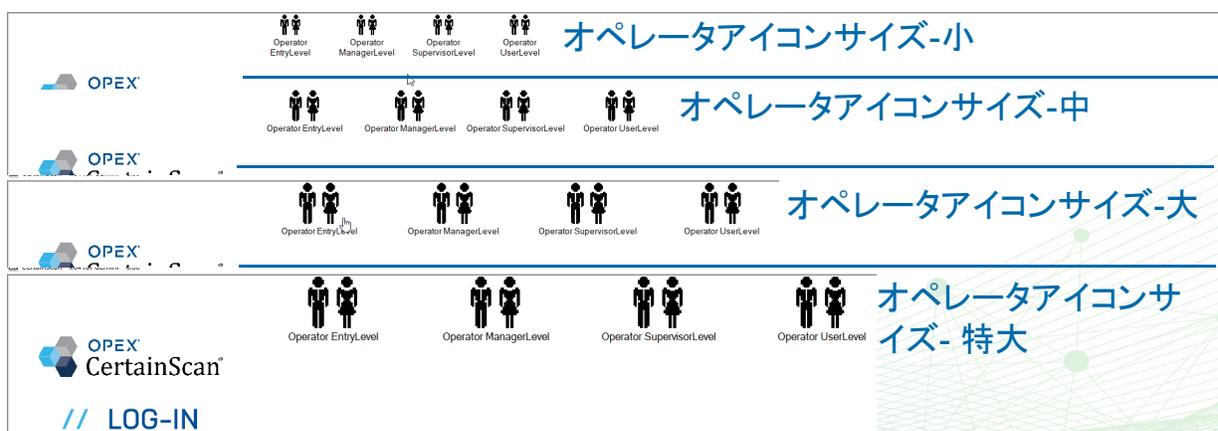


図 3-4 : オペレータアイコンサイズの例

3.2. CertainScan オペレータアカウント

CertainScan には 4 つのオペレータアカウントがデフォルトで用意されています。各オペレータアカウントでは、CertainScan の機能や設定に対する権限が異なり、「Entry Level」が最低レベル、「Manager Level」が最高レベルとなります。これらのデフォルトアカウントはパスワードを必要とせず、そのままの形式でスキャナを操作できます。しかし、セキュリティの観点から、OPEX はユーザーごとにパスワードで保護された固有のオペレータアカウントを作成し、各ユーザーに適切なオペレータレベルを設定した上で、デフォルトの 4 つのアカウントを削除することをお勧めします。

Entry Level (初心者レベル) : ジョブを実行するためのメインレベルのアクセスです。

User Level (ユーザーレベル) : ジョブの実行、バッチ・ジョブの再開、ジョブの編集、および統計レポートの作成を行うメイン・レベルのアクセス権。

Supervisor Level (担当者レベル) : バッチ番号のリセット、ユーティリティへのアクセス、制限されたシステムセットアップレベルのアクセスなど、エントリレベルおよびユーザーレベルのオペレータとしてのすべてのメインレベルアクセス。担当者は初心者、ユーザー、担当者のオペレータアカウントを作成できます。

Manager Level (マネージャーレベル) : マネージャーレベルのアカウントは、CertainScan レベル全てにアクセスできます。管理者は初心者、ユーザー、担当者、管理者のオペレータアカウントを作成できます。また、マネージャーレベルには、ジョブ設定へのアクセスも含まれます。

3.3. CertainScan にログインする

1. オペレータアカウントをクリックして選択します
2. パスワードを入力します（図 3-5）。
3. **OK** を押します。

注意： デフォルトのオペレータアカウントが表示されず、ユーザーアカウントを所有していない場合は、Gemini 管理者に問い合わせてください。

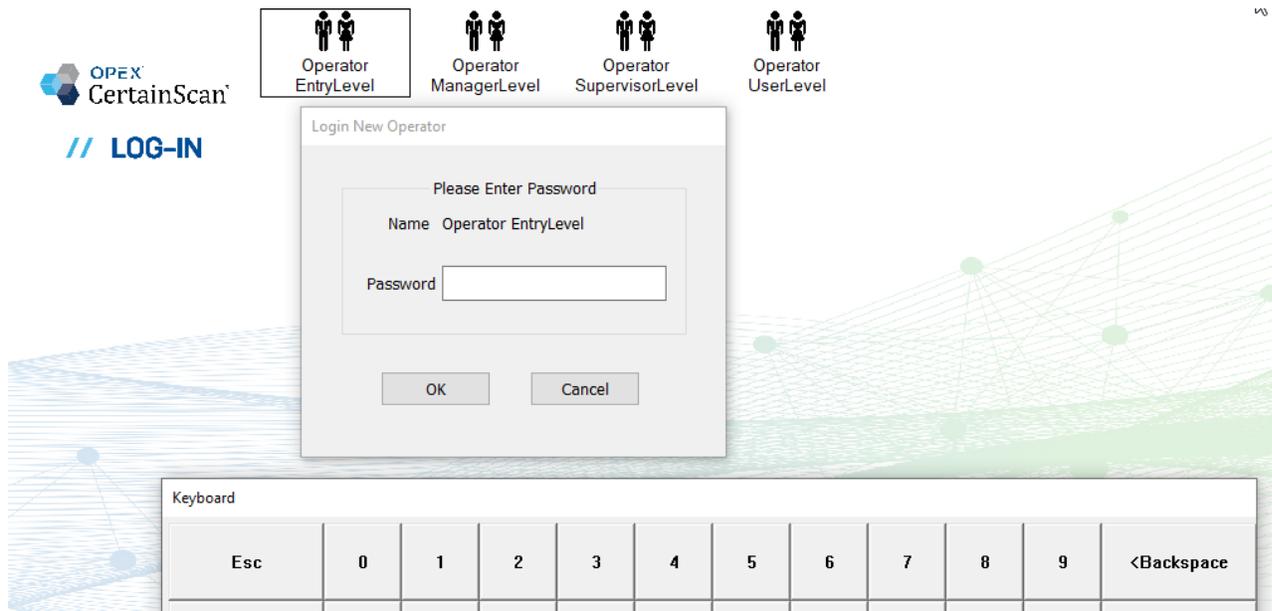


図 3-5 : パスワードの入力

3.4. CertainScan メインインターフェイス

メインインターフェイス画面（図 3-6）は、下記の 4 つのセクションに分かれています。なお、マネージャーレベルのログインでは、すべてのメニュー選択カテゴリと機能が表示されます。

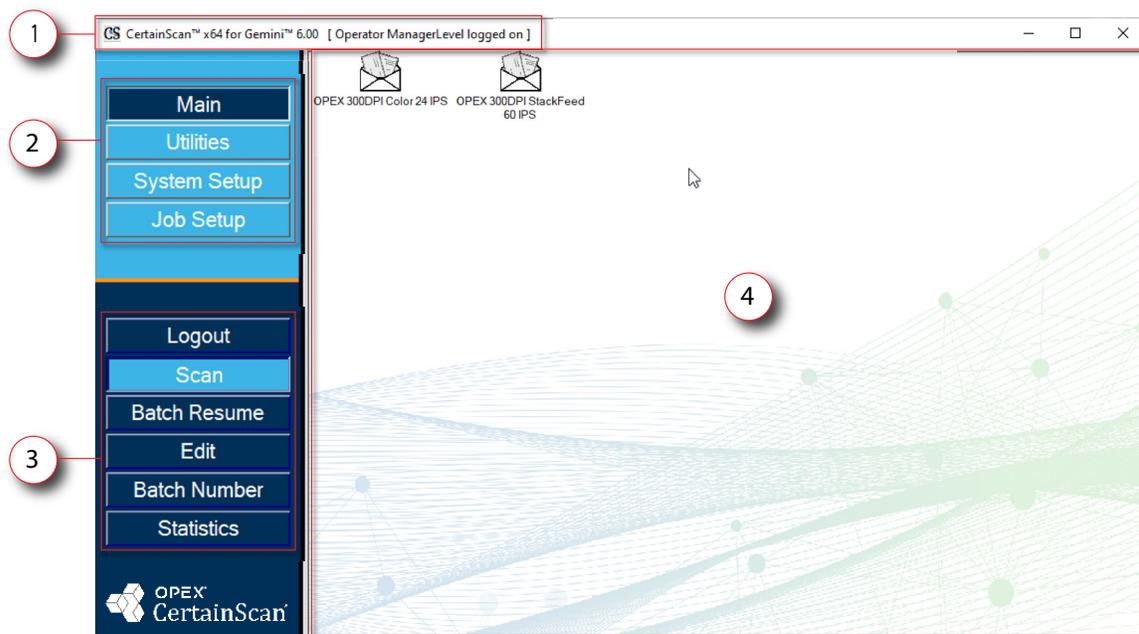


図 3-6 : CertainScan メインインターフェイスのディスプレイ

1. **タイトルバー** : 現在のオペレータの CertainScan のバージョンと名前が表示されます。
2. **メニュー選択** : オペレータのレベルに応じてカテゴリを選択できます。メインカテゴリはログアウトとスキャン機能を持つ全オペレータが利用できます。他のカテゴリを選択すると、そのカテゴリの機能が以下のセクションに表示されます。
3. **メニュー選択した機能** : 選択したカテゴリの機能が表示されます。
4. **メインディスプレイ** : 実行するジョブを表示します。これは、ジョブを実行する時の実行画面で、CertainScan 機能を設定する時の設定を表示します。また、2 つのデフォルトの OPEX ジョブが含まれます
 - **OPEX 300DPI Color 24 IPS**: シングルフィード、表と裏のカラーキャプチャのためのジョブ
 - **OPEX 300DPI StackFeed 60 IPS**: 高速スタックフィード、フロントおよびバックカラーの読み込みジョブ。

3.5. ジョブを選択して CertainScan 実行画面を起動する

メイン画面のジョブをクリックして、実行画面を開きます。デフォルトの OPEX ジョブを図 3-7 に示します。通常、カスタムジョブは設定時にここに表示されます。

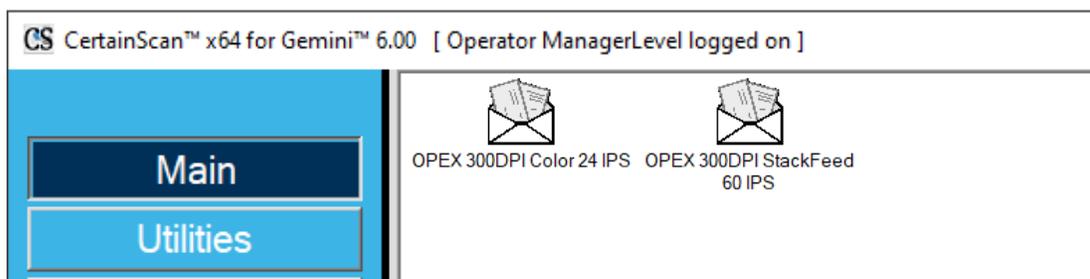


図 3-7 : メイン画面

注意 : ジョブアイコンのサイズは、システムパラメータの設定によって決まります。マネージャーレベルのオペレータが選択することができます (図 3-4)。詳細については、[「オペレータ/ジョブアイコンのサイズ」\(75 ページ\)](#) を参照してください。

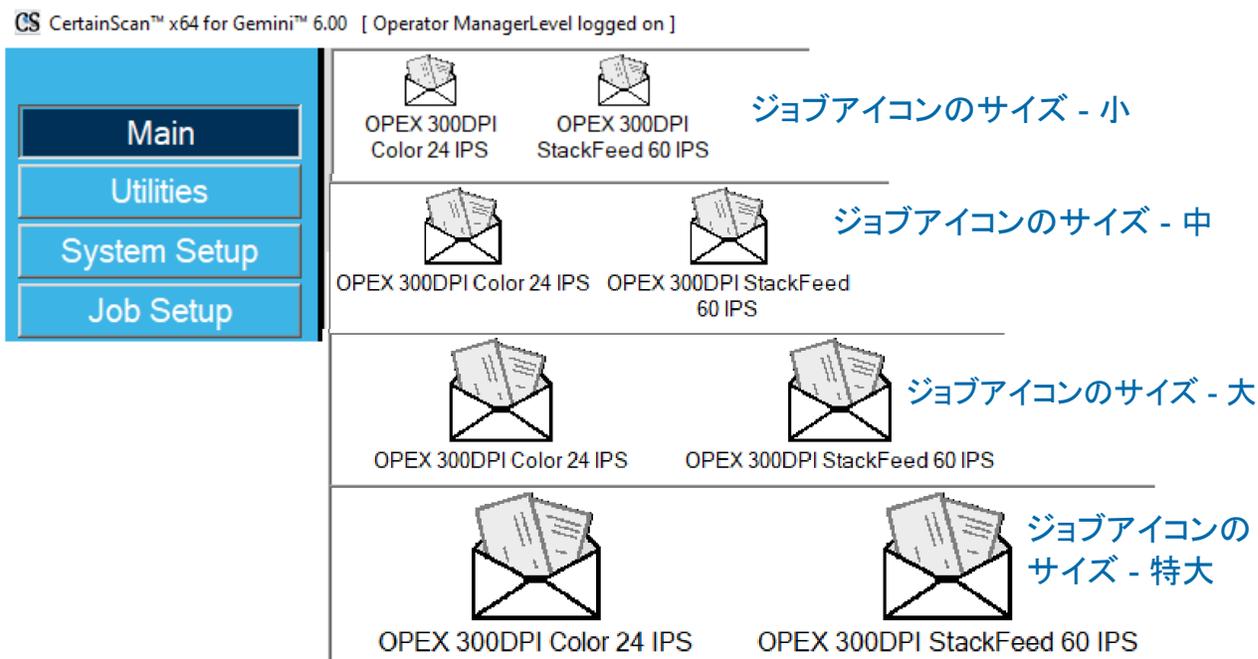


図 3-8 : ジョブアイコンサイズの例

実行するために選択したジョブに基づいて、以下に表示される画面は、Run（実行）画面か、Job Type（ジョブタイプ）や Process and Receive Dates（処理日および受入日）を選択する画面のいずれかです。

- 実行画面：ジョブのページタイプが表示されたら、**Go（開始）** ボタンをクリックしてスキャンを開始します。バッチデータの入力は不要です（図 3-9）。

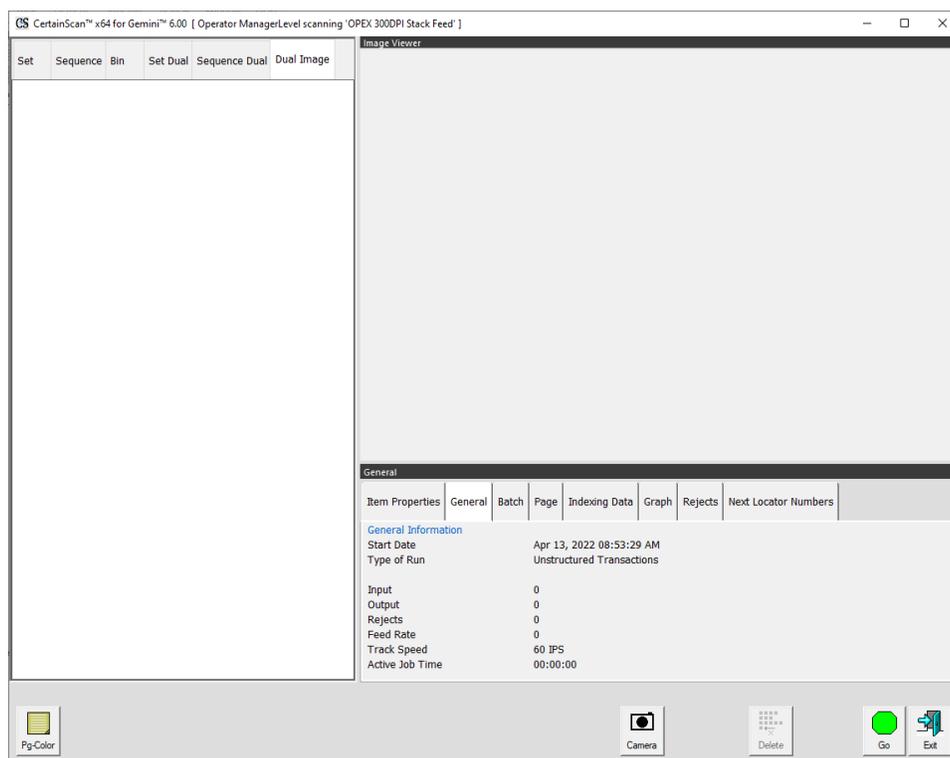


図 3-9 : 実行画面

- ジョブタイプ、処理日、受信日の変更を促すプロンプトが表示され、オペレータがジョブタイプまたは処理日を選択する必要があります。選択後、**OK** ボタンをクリックして続行します（図 3-10）。

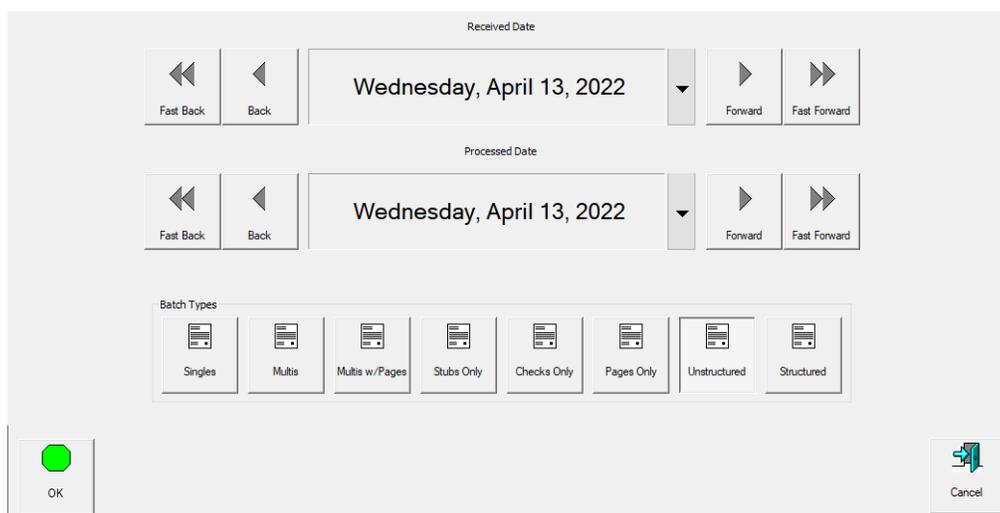


図 3-10 : 処理日と受入日の入力を要求

- カスタムバッチ ID オペレータ入力: オペレータはジョブに設定された選択肢を、手動で入力または選択するように求められます。入力または選択した後、**OK** ボタンをクリックして続行します。

注意: バッチ ID をジョブ（図 3-11）で設定する際に、実行画面で **Go**（開始）をクリックするとこの画面が表示されます。

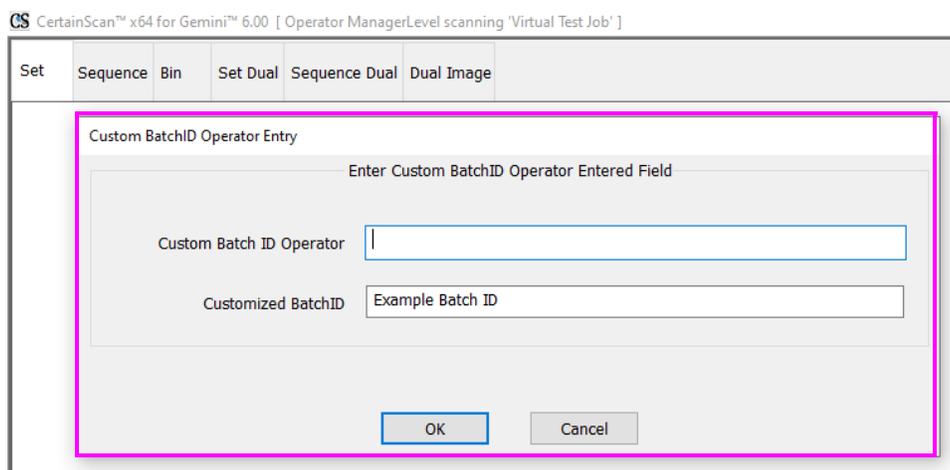


図 3-11 : オペレータに入力を促すプロンプト

注意: ファイル名には次の文字や記号を使用できません。
"/\ [] ; | = , + * ? < > .

3.6. ジョブ実行画面

新しいジョブを開くと、実行画面の下のページタイプと、スキャンを開始するための **Go** (開始) ボタンが表示されます。図 3-12 の例は、ジョブ実行中に実行画面がどのように表示されるかを示しています。

1. スキャンしたアイテムのビューを表示します。選択項目のヘッダーを右クリックします。
2. バッチビューア：表示ビューに応じてスキャンされたアイテムのサムネイル画像です。
3. 選択したジョブに応じたページタイプです。
4. 画像を拡大表示します。選択したサムネイルを拡大または縮小します。
5. 回転およびフィルタボタンです。
6. 選択したサムネイルの拡大画像を別画面で表示するイメージビューアです ([「実行画面プレビュー画像のアイコン」\(40 ページ\)](#) も参照)。
7. スキャンしたジョブの情報ウィンドウ選択項目のヘッダーを右クリックします。
8. ジョブ操作ボタン

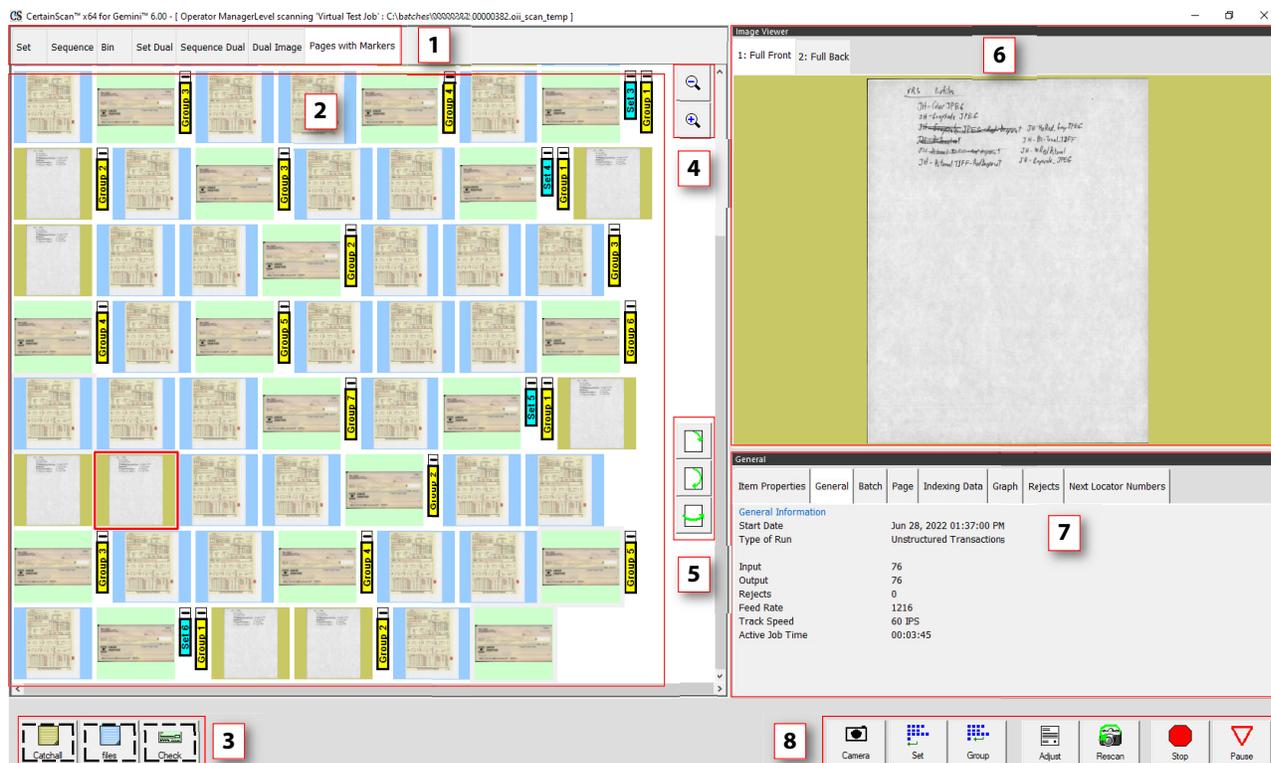


図 3-12 : 実行画面

3.6.1. 実行画面の各種ボタン

設定したジョブに応じて、実行画面にボタンが表示されます。一部のボタンは、有効化されていないと使用できません。

表 3-1: 実行画面の各種ボタン

	このボタンを押すと、スキャナが起動します。
	Page Type（ページタイプ）ボタンは、現在のジョブに割り当てるページタイプを指定します。ボタンの使用方法はジョブ設定によって異なります。
	Rotate（回転）は、選択したアイテムの画像を回転させます。3個のボタンは、90度時計回り、180度時計回り、表裏反転にそれぞれ対応します。
	Filter（フィルタ）ボタンを押すと、CertainScan Editの使用時に編集する必要があるアイテムのみを表示できます。
	サムネイル画面で空白画像を非表示にするには、このボタンを押します。
	Adjust（調整）は、Capture Parameters（読み込みパラメータ）ウィンドウから設定を変更し、画質を上げることができます。
	Rescan（再スキャン）ボタンは、以前にスキャンされた画像を新しい画像で置き換えます。
	Delete（削除）は、バッチからアイテムを削除します。これはスキャナが停止している時だけ使用できます。
	Void（無効）は、選択したアイテムやセットを無効にします。
	Set/Transaction（セット / トランザクション）を開始 / 終了します。
	Group（グループ）を開始 / 終了します。
	New Batch（新規バッチ）を開始します。
	Action（アクション）ボタンを押すと、Rescan（再スキャン）、New Batch（新規バッチ）、Void（無効化）の各ボタンにアクセスできます。Action（アクション）ボタンは、Rescan（再スキャン）、New Batch（新規バッチ）、Void（無効化）の各ボタンが2つ以上有効になっている場合にのみ使用できます。

表 3-1: 実行画面の各種ボタン (続き)

	Camera (カメラ) ボタンは、外部カメラで撮影した画像を、2 枚までバッチに挿入できます。
	Pause (一時停止) は、装置を一時停止します。このボタンを押すと、Resume (再開) ボタンが表示されます。
	Resume (再開) は、スキャンを再開します。このボタンを押すと、Pause (一時停止) ボタンが表示されます。
	Stop (停止) は、装置を停止します。現在のバッチまたはセットは終了されません。
	Close (閉じる) は、現在のバッチを閉じます。バッチを閉じる確認メッセージが表示されます。
	Exit (終了) は、現在のジョブを終了して実行画面を閉じます。

3.6.2. 実行画面プレビュー画像のアイコン

特定の条件下では、画像がすぐに入手できない場合、CertainScan はサムネイル画像の代わりに表 3-2 に掲載されたアイコンの 1 つを表示することがあります ([ページ 38](#) も参照)。

注意 : CertainScan または Edit でバッチを開くと、同じアイコンのサブセットが表示されます。表示の有無は、最後の列に記載されます。

表 3-2: 実行画面のサムネイルとプレビュー画像アイコン

アイコン	Description (説明)	CertainScan Edit に表示されるか?
	空白画像 - バッチの画像データにより、画像が空白だと判断されました。	はい
	スニペット (小片画像) メタデータなし - 画像情報がバッチに保存されませんでした。これはページタイプから設定されました。	はい

表 3-2: 実行画面のサムネイルとプレビュー画像アイコン (続き)

アイコン	Description (説明)	CertainScan Edit に表示されるか?
	処理中 - 画像は準備中です。ほとんどの場合、スキャン作業中であるためです。	表示されません
	画像が保存されない - 画像にはメタデータはありますが、画像ファイルはありません。ページタイプが、この画像をディスクに保存しないように設定されています。	はい
	スニペット (小片画像) がスキャン可能範囲外 - この画像は、アイテムの一部であるという設定がなされています。ただし、バッチ出力の画像を引用したところ、指定された領域はアイテム端の完全な外側にあることが判明しました。このため、画像はディスクに保存されません。	はい
	画像が存在しない - ディスクからの画像の読み込みに失敗しました。要求はタイムアウトしていないので、保存先のディスクが停止しているか接続が切断されている可能性があります。	はい
	画像のタイムアウト - ディスクからの画像の読み込みを試みましたが、要求がタイムアウトになりました。ネットワークがビジー状態であるか、ホストが他のアイテムをディスクに書き込み中である可能性があります。	はい
	システムがビジー - 画像はキャッシュされていませんが、システムがビジー状態であるため、ディスクからの読み取りを実行できませんでした。システムがビジー状態でないときに実行されます。ホストソフトウェアがスキャン中か、スキャンした画像を書き込み中である可能性があります。	表示されません

3.7. 実行画面表示ビュー

スキャンを開始する前に、実行画面でのスキャンしたアイテムの表示方法を選択できます。表示ビューのヘッダーのあたりを右クリックして、ヘッダーで表示する表示ビューのチェックを入れるか、またはチェックを外します。顧客タイプが「サービスデスク」と「入金処理」のどちらに設定されているかによって、アイテム仕分け用の2つのどちらかの表示ビュー名前付けスキームが表示されます（図 3-13）。

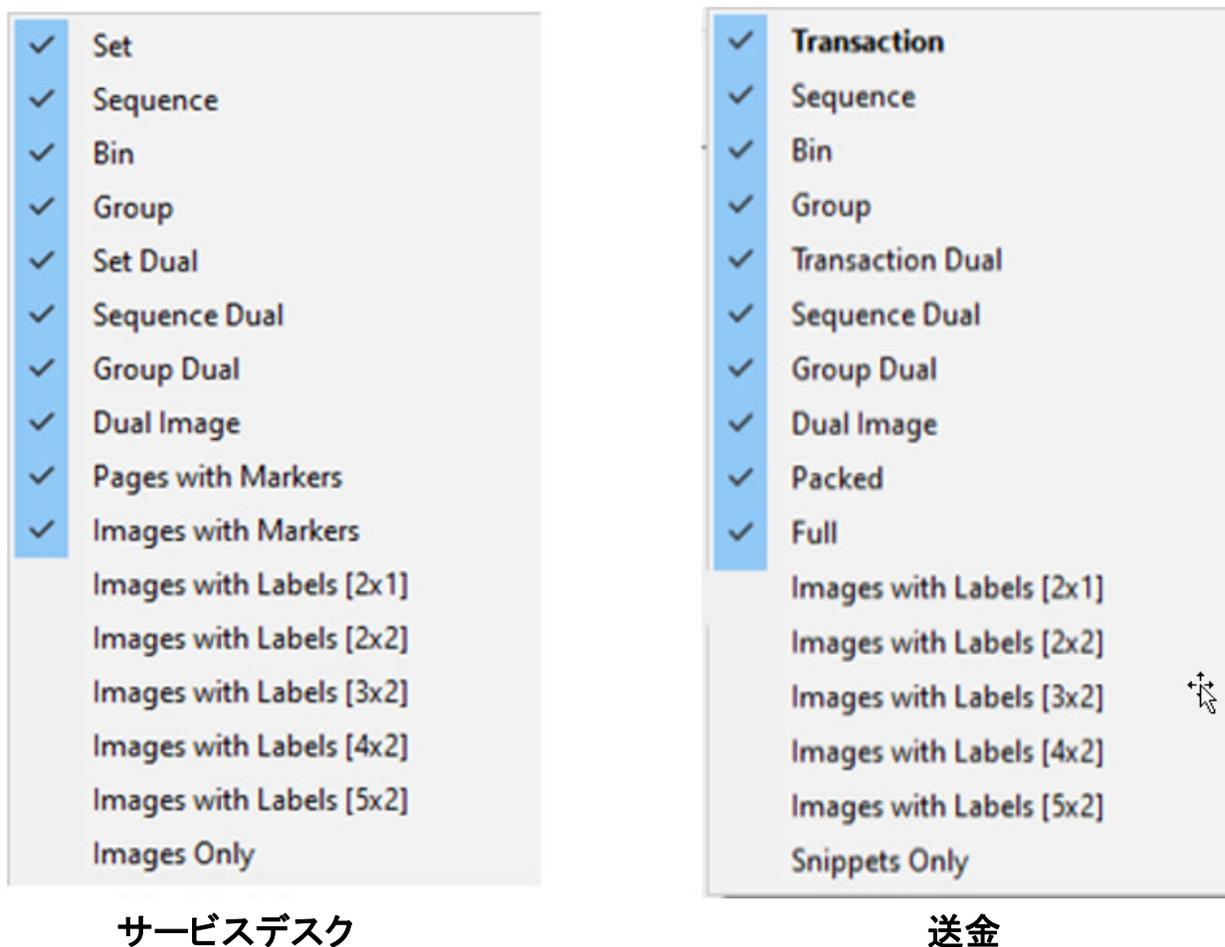


図 3-13 : 顧客タイプの説明的な名前

注意： マネージャーレベルのアクセス権があるオペレータは、System Setup (システム設定) → System (システム) → User Interface Settings (UI 設定) からアイテム仕分けの説明的な名前の顧客タイプを設定できます。

利用可能な表示ビューは表 4 にリストされています。各表示ビューのスクリーンキャプチャ例が提示されます。各表示ビューの横にあるリンクをクリックすると、詳細な説明が表示されます。

Table 4: 実行画面表示ビュー

Set/Transaction (セット / トランザクション) 表示 (ページ 44 を参照)。	Group Dual (グループ二面) 表示 (ページ 48 を参照)。
Sequence (スキャン順) の表示 (ページ 44 を参照)。	Dual Image (二面の画像) 表示 (ページ 48 を参照)。
Bin (トレイ順) の表示 (ページ 45 を参照)。	Pages with Markers (マーカー付きページ) 表示 (ページ 49 を参照)。
Group (グループ) 表示 (ページ 45 を参照)。	マーカー付き画像 / フルビュー (ページ 50 をご参照)
Set/Transaction Dual (セット / トランザクション毎の二面) 表示 (ページ 46 を参照)。	Images with Labels (ラベル付き画像) 表示 (ページ 51 を参照)。
Sequence Dual (スキャン順二面) 表示 (ページ 47 を参照)。	Images Only (画像のみ) 表示 (ページ 52 を参照)。

セットまたはトランザクション（顧客タイプが入金処理用に設定された場合）
 スキャンされたすべてのページがスキャン順に左から右に一行に表示され、
 その後に次のセットが表示されます。1 ページごとに、サムネイルが 1 枚表
 示されます。サムネイル数が 6 枚以上になると、最初に表示されるサムネ
 イルページの左側にスクロールボタンが表示されます（図 3-14）。

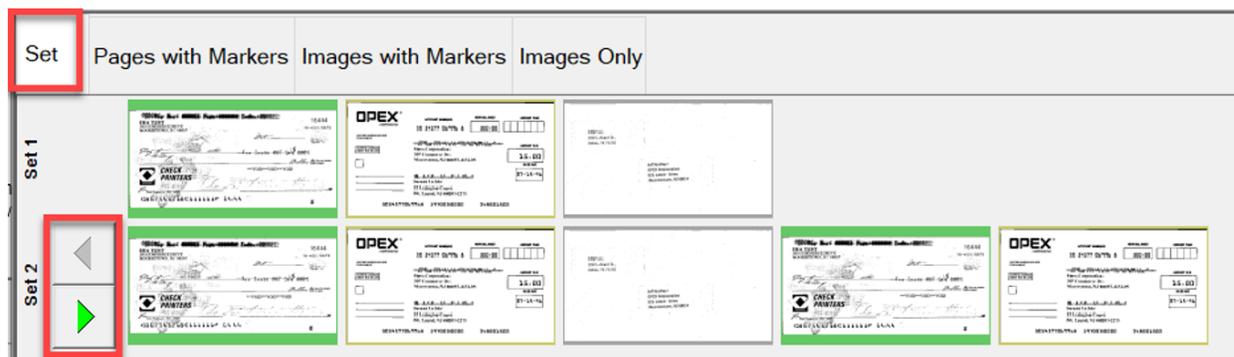


図 3-14 : Set（セット毎）の表示

シーケンス

スキャンされたすべてのページがスキャン順に左から右に一行に表示され、行の
 ヘッダーにはそれぞれのシーケンス番号が表示されます。新しい行は、5 番目の
 サムネイルの後に始まります（図 3-15）。



図 3-15 : Sequence（スキャン順）の表示

トレイ

各ページは、「ジョブ」の「ページタイプ」に割り当てられた出カトレイに仕分けされます（図 3-16）。

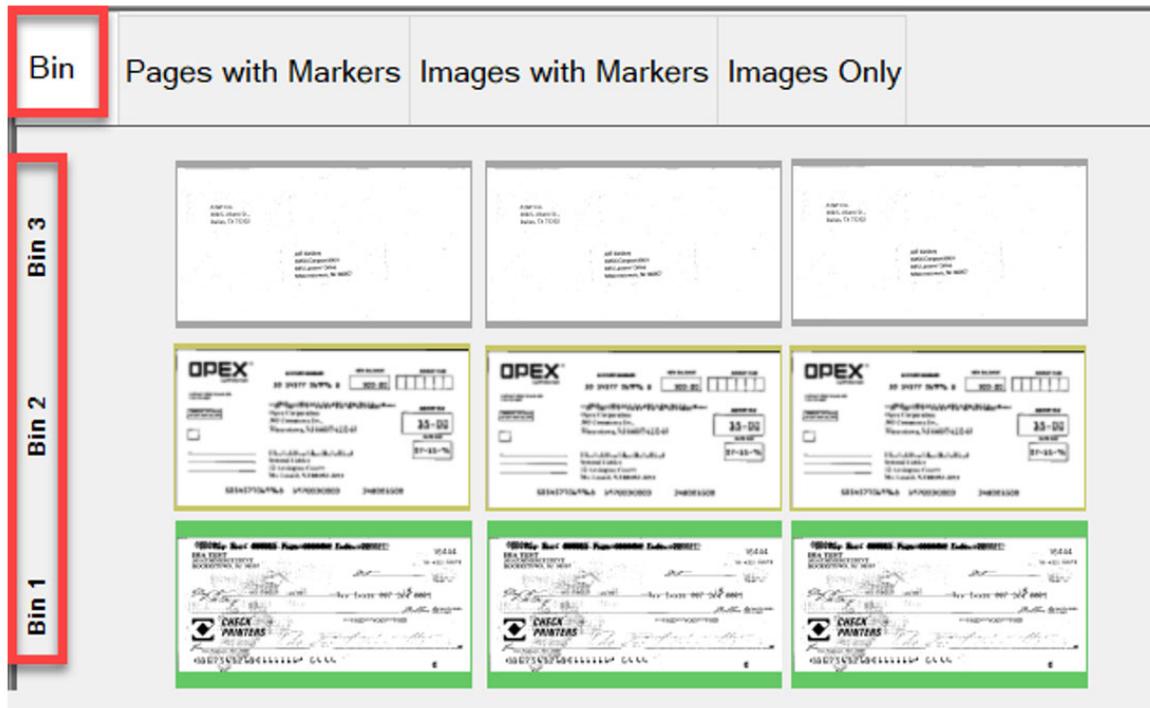


図 3-16 : Bin (トレイ) 表示

グループ

スキャンされた全ページは、左から右へスキャン順に一行に表示され、グループが存在する場合はセット内に追加されます。グループ間をスクロールするためのスクロールボタンが左側に表示されます（図 3-17）。

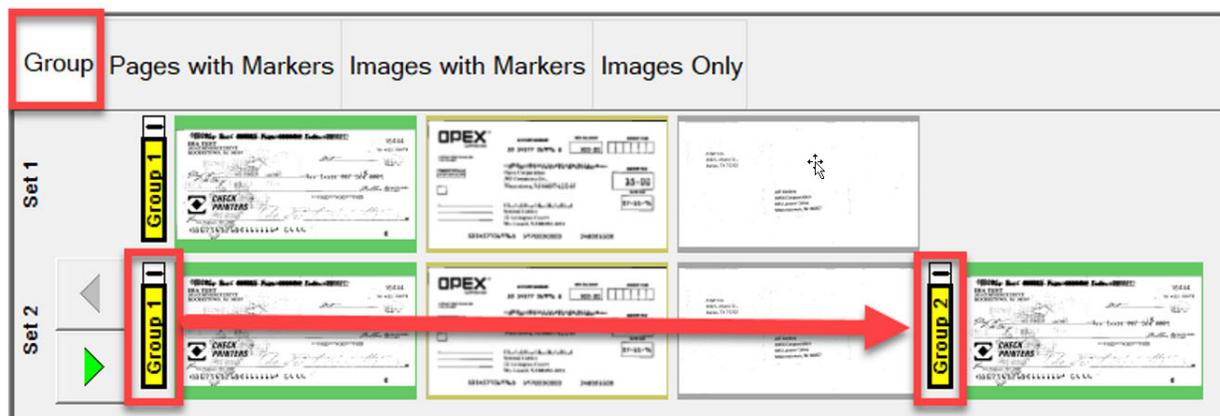


図 3-17 : Group (グループ) 表示

セットまたはトランザクション毎の二面（顧客タイプが入金処理用に設定された場合）

ページタイプが表面および裏面または 2 番目の画像に設定されている場合、表示ビューには 2 つのサムネイルが表示されます。最初の行には表面ページが表示され、その下には裏面ページや 2 番目の画像が表示されます。スキャンされた全ページは、スキャン順に左から右に表示され、行のヘッダーにはセット番号が表示されます。セット間をスクロールするためのスクロールボタンが右側に表示されます（図 3-18）。

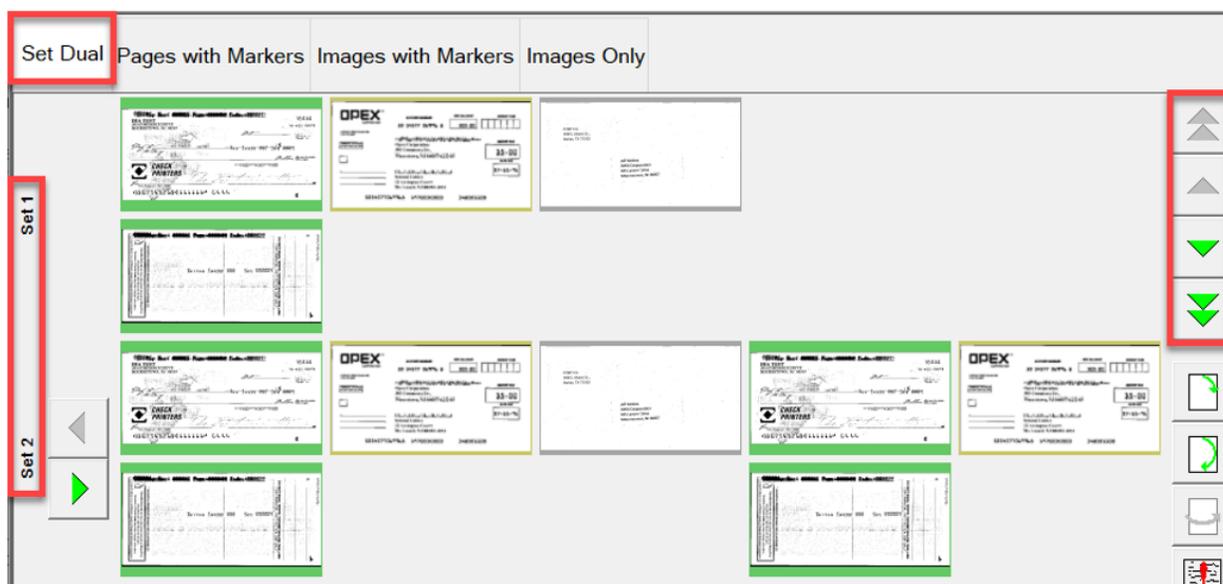


図 3-18 : Set Dual/Transaction Dual
(セット/トランザクション毎の二面) 表示

シーケンスデュアル

ページタイプが表面および裏面または 2 番目の画像に設定されている場合、表示ビューには 2 つのサムネイルが表示されます。最初の行には表面ページが表示され、その下には裏面ページや 2 番目の画像が表示されます。スキャンされた全ページは、スキャン順に左から右に表示され、行のヘッダーにはシーケンス番号が表示されます。新しい行は、5 枚目の画像を挟んで始まります。シーケンス番号間をスクロールするためのスクロールボタンが右側に表示されます（図 3-19）。

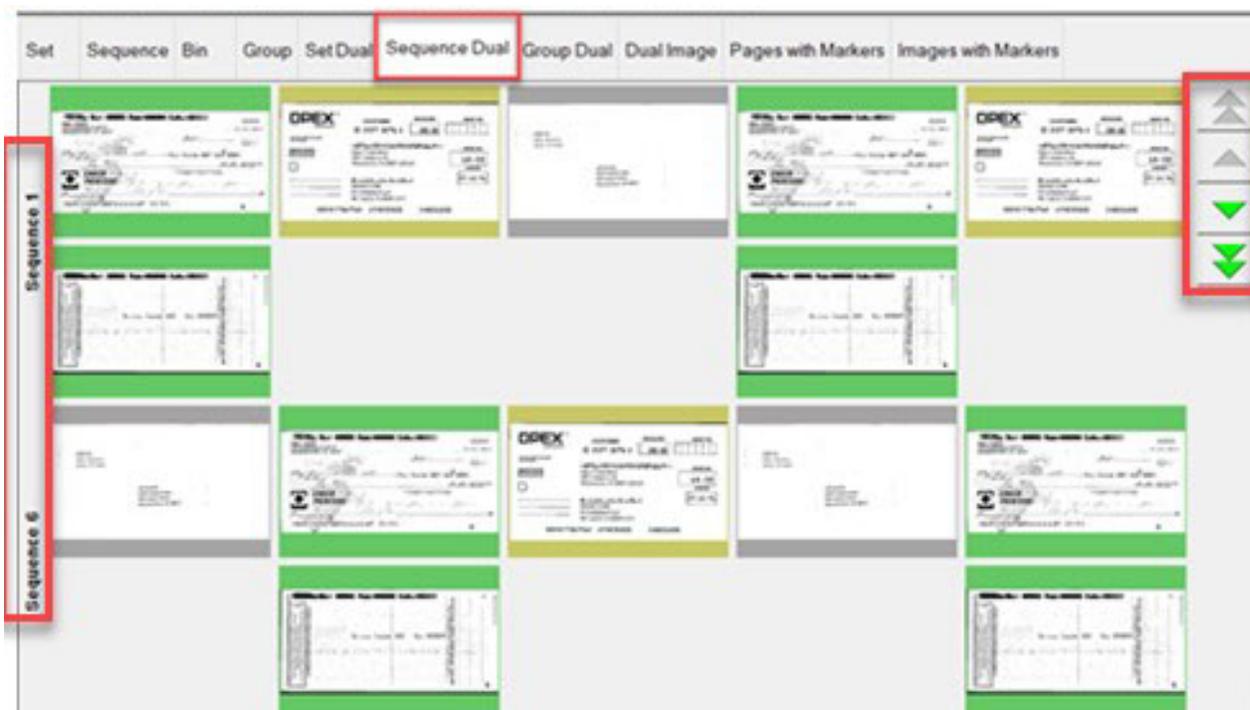


図 3-19 : Sequence Dual (スキャン順の二面) 表示

グループデュアル

ページタイプが表面および裏面または 2 番目の画像に設定されている場合、表示ビューには 2 つのサムネイルが表示されます。最初の行には表面ページが表示され、その下には裏面ページや 2 番目の画像が表示されます。スキャンされた全ページは、左から右へスキャン順に一行に表示され、グループが存在する場合はセット内に追加されます。セット内またはセット間でスクロールするためのスクロール機能が表示されます (図 3-20)。

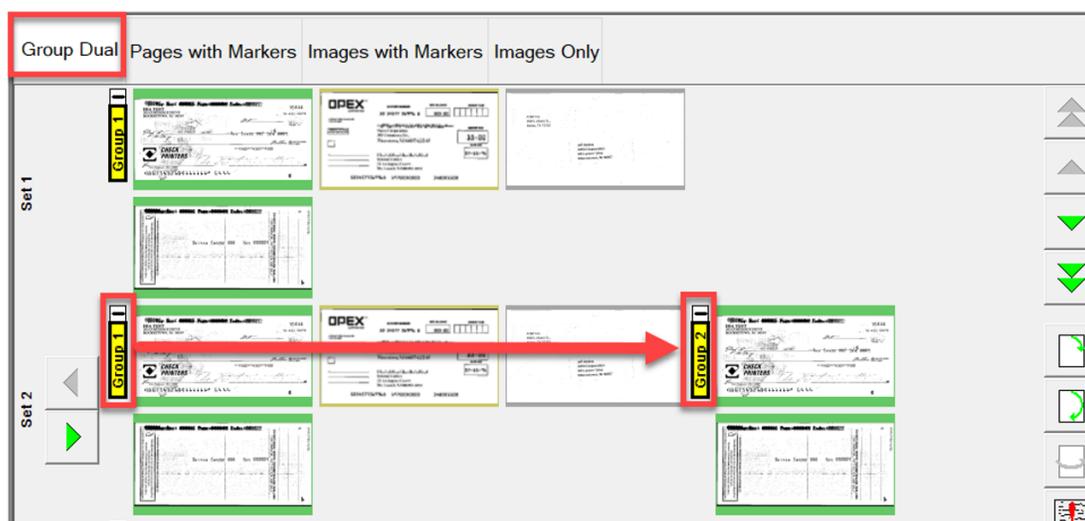


図 3-20 : Group Dual (グループ二面) 表示

デュアル画像

ジョブ設定あたりの選択された表面および裏面または 2 番目の画像を表示します。ページをスクロールするためのスクロール機能が表示されます (図 3-21)。

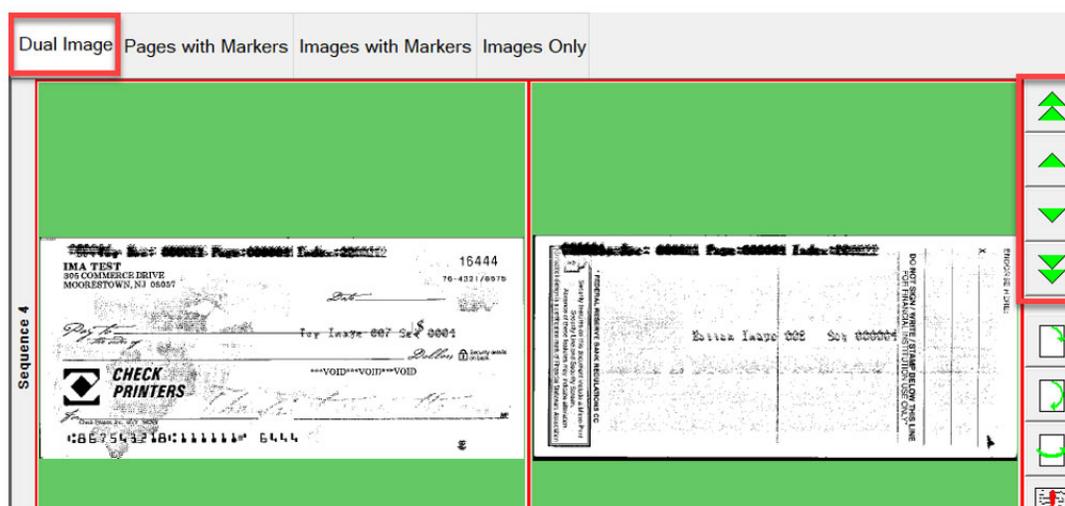


図 3-21 : Dual Image (二枚の画像) 表示

マーカー付き、または詰込み後のページ（顧客タイプが入金処理用に設定された場合）

スキャンされた全ページがスキャン順に左から右に一行に表示されます。連番が付けられたセットとグループのカラーマーカーにより、スキャンされた順番を識別します。マーカーの上にある「+」と「-」のアイコンをクリックして、セットやグループを展開または折りたためます（図 3-22）。

- 例 1：セットとグループを展開すると、各マーカーの上に「-」のアイコンが表示されます。セット内のグループページが表示されます。
- 例 2：セットを折りたたむと、セットのマーカーの上に「+」のアイコンが表示されます。グループとページは表示されません。
- 例 3：グループを折りたたむと、グループのマーカーの上に「+」のアイコンが表示されます。ページは表示されません。



図 3-22：マーカー付き、または詰込み後のページの表示

マーカー付き画像、または全画像（顧客タイプが入金処理用に設定された場合）

全ページはスキャン順に縦に表示されます。連番が付けられたセット、グループ、ページのカラーマーカーにより、スキャンされた順番を識別します。マーカーの横にある「+」と「-」のアイコンをクリックして、セット、グループ、ページを展開または折りたたみます（図 3-23）。

- 例 1：展開されたセット、グループ、ページです。「-」アイコンはマーカーの左にあります。全て表示されています。
- 例 2：セットは折りたたまれ、「+」アイコンはセットのマーカーの左に表示され、グループとページは表示されていません。
- 例 3：グループを折りたたむと、グループのマーカーの左に「+」のアイコンが表示されます。ページは表示されません。ページを折りたたむと、ページのマーカーの左に「+」のアイコンが表示されます。ページは表示されません。

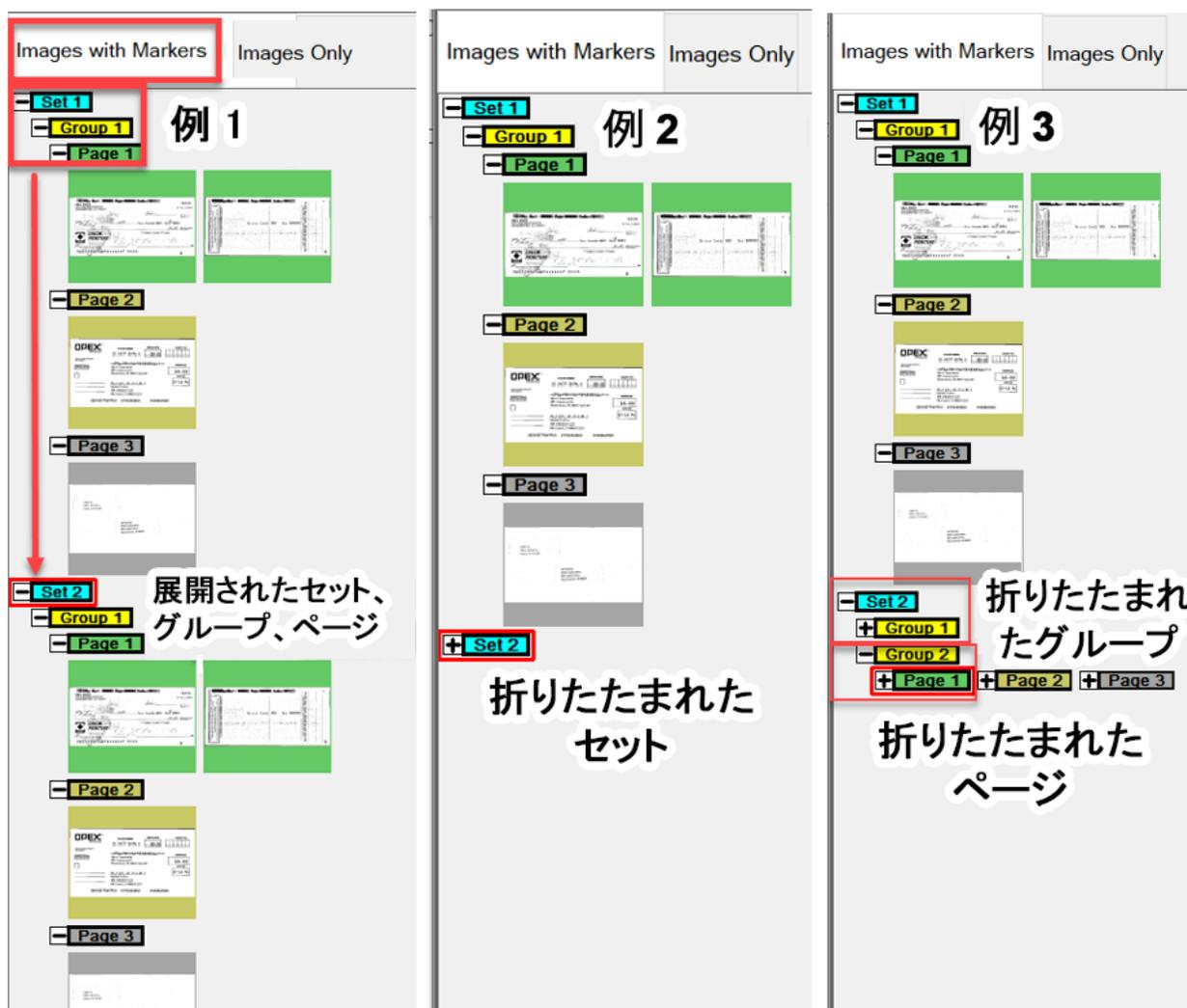


図 3-23 : マーカー付き画像、または全画像表示

Images with Labels（ラベル付き画像）表示

これらの表示ビューは、ページを列や行ごとに並べて表示します。各ページの上には、下記を表示するヘッダーラベルがあります。ページ、グループ、セット、スキャンされたシーケンス番号（図 3-24）

- ラベル付き画像 [2 x 1] : ページが 2 列 1 行で配列されます
- ラベル付き画像 [2 x 2] : ページが 2 列 2 行で配列されます
- ラベル付き画像 [3 x 2] : ページが 3 列 2 行で配列されます
- ラベル付き画像 [4 x 2] : ページが 4 列 2 行で配列されます
- ラベル付き画像 [5 x 2] : ページが 5 列 2 行で配列されます



図 3-24 : Images with Labels（ラベル付き画像）表示

画像のみ、またはスニペットのみ（顧客タイプが入金処理用に設定された場合）
全ページがスキャン順に左から右に一行に表示されます。セット、グループ、
ページのカラーマーカはありません。表示を見やすくするための拡大表示
機能が搭載されています（図 3-25）。

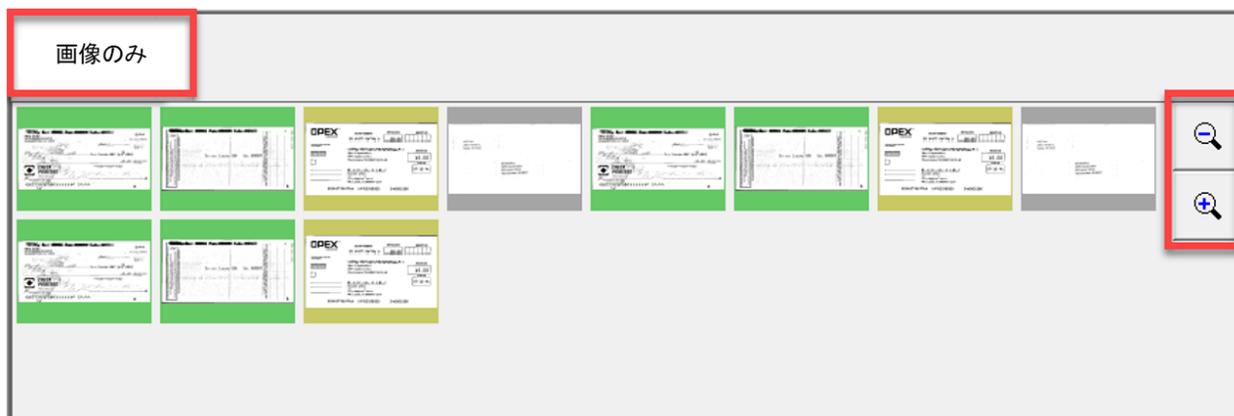


図 3-25 : 画像のみ、またはスニペットのみの表示

3.8. 画像ビューア機能

画像ビューアで、モニター上の画像をクリックまたはタッチして、全表示画面を開きます。実行画面で選択したアイテムをさらに確認するための機能ツールが表示されます（図 3-26）。

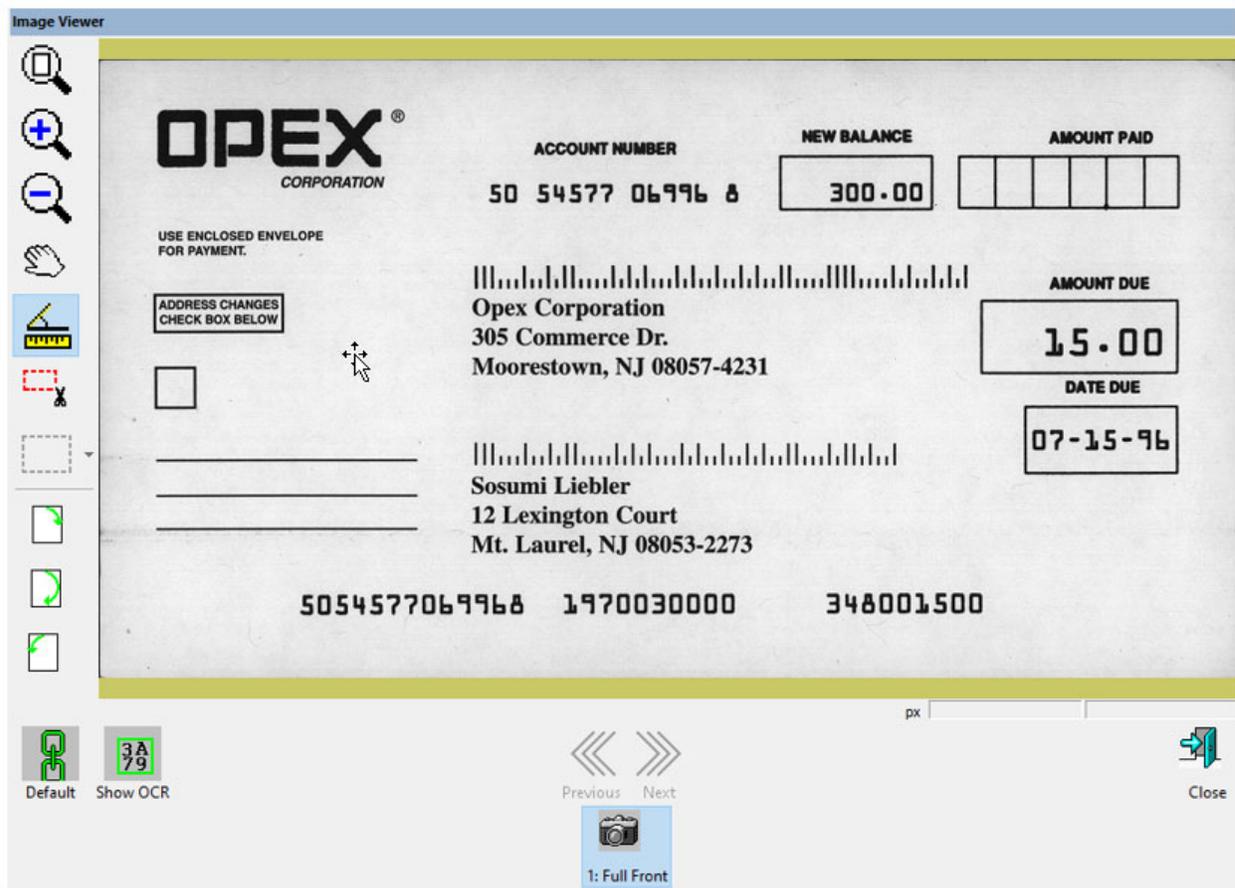
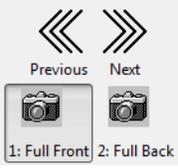


図 3-26 : 画像ビューア - 全表示画面

表 3-1: 画像ビューアのツールバー

	リセットボタンを押すと、画像が元の状態に戻ります。
 	Zoom In、Zoom Out（ズームイン、ズームアウト）ボタンは、Zoom（ズーム）画面で画像を拡大および縮小します。-ズームの中心位置を調整するには、モニター上で中心にしたい位置をタッチするか、またはマウスを使用します。キーボードのプラス（+）キーやマイナス（-）キーを使用して拡大や縮小をすることもできます。

表 3-1: 画像ビューアのツールバー (続き)

	<p>Ruler (定規) は、画像上の任意の位置から別の位置までの距離を表示します。定規ボタンをマウスでクリックし、任意の位置で左ボタンをクリックしたまま、カーソルを別の位置にドラッグします。カーソルを移動させると、正確な位置がフィールドに表示されます。</p>
	<p>トリミング、充填 / 編集、回転ボタン</p>
	<p>このボタンを有効にすると、OCR/MICR スキャンラインの指定された光学サーチ範囲が表示されます。</p>
	<p>このボタンをクリックすると、選択中の画像が現在のページタイプの Default (デフォルト) になります。</p>
	<p>Close (閉じる) ボタンをクリックすると、プレビューウィンドウが閉じます。</p>
	<p>Previous/Next (前へ / 次へ) 矢印ボタンは、バッチ間をスクロールする時に使用します。ページタイプに関連付けられた画像を表示するには、Full Front、Full Back (表面全面表示、裏面全面表示) (または Partial Front/Partial Back (表面部分表示、裏面部分表示)) ボタンを使用します。</p>

3.9. 情報ウィンドウの選択

情報ウィンドウは実行画面の右下隅に表示されます。情報ウィンドウのヘッダーエリアを右クリックします。ヘッダーエリアの選択項目を表示するためチェックを入れるか、またはチェックを外します（図 3-27）。

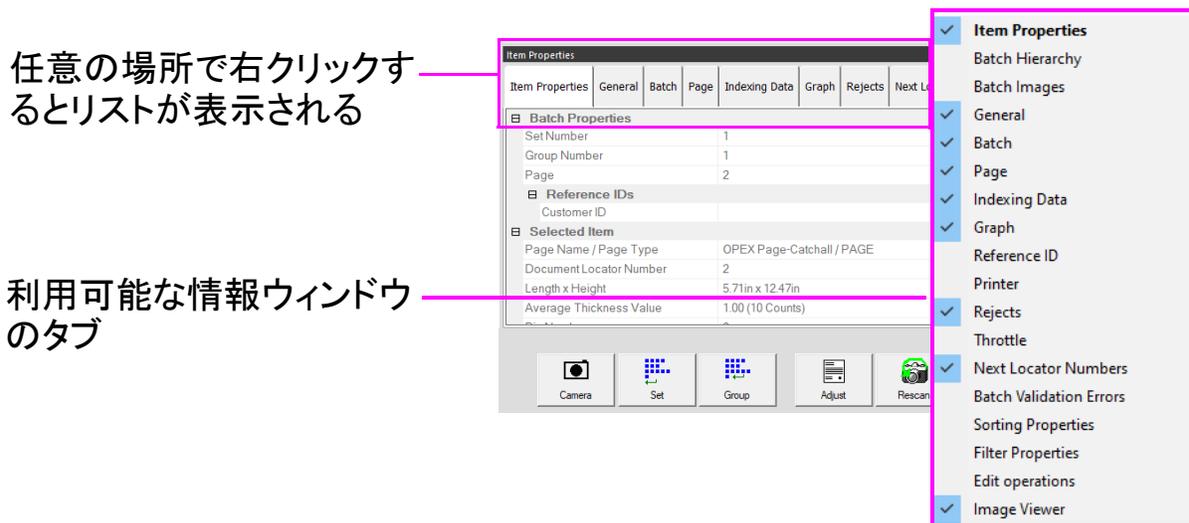


図 3-27 : 情報ウィンドウのタブを選択する

選択した顧客タイプに応じて名前が表示されます（[図 3-13 ページ 42](#)）。

情報ウィンドウでタブを選択すると、次の情報が表示されます。

- **アイテムのプロパティ**：ジョブとページの設定に応じて、選択したページまたはマーカの情報が表示されます。ヘッダー名の横にある「+」と「-」のアイコンをクリックして、情報ヘッダーを展開または折りたためます。このウィンドウは表示された一部のデータの編集にも使用できます。
- **バッチ階層**：次のバッチ構造を表示します：セット、グループ、ページのタイプヘッダー名の横にある「+」と「-」のアイコンをクリックして、境界ヘッダーを展開または折りたためます。ビューにあるアイテムをクリックすると、イメージビューアのアイテム画像が表示されます。
- **バッチ画像**：バッチ内の全ページと画像を表示します。ページの上をクリックすると、実行画面でそのページに移動し、イメージビューアに表示されます。
- **全般**：ジョブ情報を表示します。ウィンドウ内を左クリックすると、追加情報が表示されます。

- **バッチ**：バッチ情報を提供します。ウィンドウ内を左クリックすると、追加情報が表示されます。
- **ページ\用紙**：選択したページに関する情報を提供します。ウィンドウ内を左クリックすると、追加情報が表示されます。
- **インデックスデータ**：選択されたページに定義されたインデックスフィールドと、適用されたバッチ、セット、グループフィールドを提供します。このウィンドウは表示されたデータの編集にも使用できます。
- **グラフ**：1時間あたりのページ数または1時間あたりのセット数などのパフォーマンスグラフを表示します。
- **プリンタ**：監査証跡プリンタのステータスを表示します。
- **Rejects (スキャン中止数)**：スキャンジョブ中に発生する可能性のあるスキャン中止と、スキャン中止の回数を一覧表示します。
- **スロットル**：スキャン中に減速モードに切り替わると減速タブ内に通知が表示され、減速モードが有効であることがバッチ内で保留中のアイテム数と合わせて確認できます。デフォルトでは、この設定は有効になっていません。管理者のログインにより有効になります。System Setup (システム設定) → System (システム) → User Interface Settings (UI 設定)
- **次のロケータ番号**：ジョブレベルで設定され Transform で使用されるロケータ番号を表示します。
- **バッチ検証エラー**：Transform と使用してバッチ検証を実行する時のエラーのリストを表示します。エラーが修正されたら、ボックスにチェックを入れます。
- **プロパティの並べ替え**：Display view (表示ビュー) > Images Only (画像のみ) / Remittance (入金処理)、Display view (表示ビュー) > Snippets Only (スニペットのみ) スキャンした画像をもとに、実行画面に表示される画像を分類します。
- **フィルタープロパティ**：フィルタープロパティは、あらゆる種類の表示ビューで使用できます。しかし、表示ビュータイプの場合は、フィルターの種類が限定されます。フィルタータイプとドロップダウンをクリックすると、選択可能な項目が表示されます。各フィルタータイプでは、「このパラメータを無視する」がデフォルトになっています。フィルターが定義されると、真上にある Apply Filter (フィルターの適用) ボタンがアクティブになり、適用できるようになります。適用すると、表示ビュータブにも Filtered (フィルター処理済み) が表示されます。

- **編集操作**：バッチを編集する際、すべての編集操作（挿入、削除、回転など）は、バッチエディターのライブラリによって追跡され、最後から最初の順に表示されます。編集操作は元に戻すことができます。編集操作を元に戻す場合、各操作をクリックして、「Ctrl」と「Z」を同時に押します。元に戻された操作は、編集リストから削除されます。編集したバッチを保存すると、編集操作のリストは消去されます。次のバッチからは、新しい編集操作リストが始まります。
- **イメージビューア**：右上に画像を表示したくない時は、チェックを外します。情報ウィンドウは、実行画面の横にだけ表示されるようになります。

3.9.1. Additional Information Windows（他の情報） ウィンドウ

ジョブの設定方法に応じて、下記の追加情報タブを使用できます。

- **Job Information（ジョブ情報）**：ジョブの処理方法に関するオペレータへの指示が表示されます。
- **Multi-Assist（マルチアシスト）**：オプションのマルチスロット ID Assist タワーを使用するようにジョブを設定すると、タブが表示されます。ジョブにプログラムされているスロット、スワイプ方法、およびアクションに関する情報を表示します。
- **Reference IDs（参照 ID）**：ジョブに設定されている参照 ID を表示します。タブ内の値は、後続のアイテムに付与される参照 ID を表示します。また、バッチの記録方法も示します。バッチの参照 ID はバッチを閉じるまで確定されないため、それまでは参照 ID をいつでも変更できます。ただし、ページの参照 ID は、対象アイテムを再スキャンすると変更されます。
- **ScanLink**：このパネルは、実行中のジョブの ScanLink プラグインによって制御されます。プラグインが定義されていない場合は表示されません。
- **WholesaleWorks 0（ロックボックス対応の支払いシステム）**：このパネルは、ジョブの ScanLink プラグインによって制御されます。プラグインが要求すると表示されます。パネルのラベル付けもプラグインによって行われます。
- **WholesaleWorks 1（ロックボックス対応の支払いシステム）**：このパネルは、ジョブの ScanLink プラグインによって制御されます。プラグインが要求すると表示されます。パネルのラベル付けもプラグインによって行われます。

3.10. アイテムの作成

ワークフローを最適化し、給紙エラーや画像不良などの問題を回避するためには、適切なアイテムの準備とスキャナへの設置が重要です。次の情報を参考にしてください。

Removing items from an envelope (封筒からアイテムを取り出す)

三つ折りにされていたアイテムは、上端と下端が浮き上がりがちです。3つ折りのアイテムを配置する前に、特に前のエッジに注目して端を平らにし、コンベアの折り目側を上にして配置します (図 3-28)

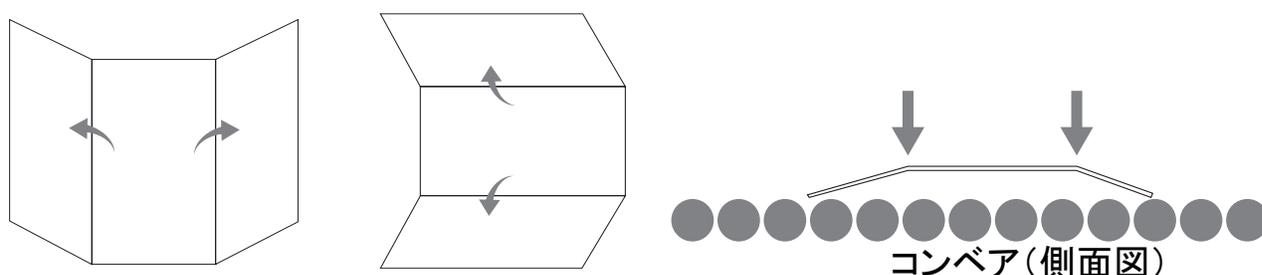
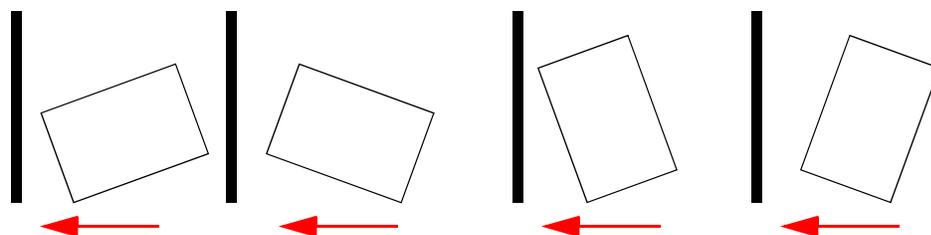


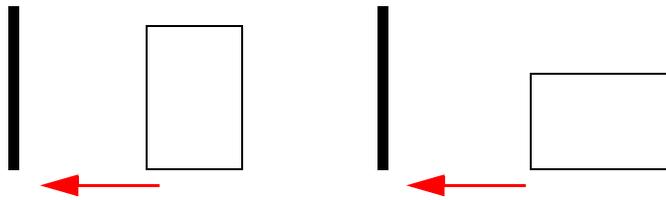
図 3-28 : 三つ折りのアイテム

アイテムがコンベア上に配置されたら、フィーダーに入る前に、アイテムをガイドレールに近づけます。コンベアローラーは、物品が配置される時に物品をガイドレールに支持するように角度が付けられています。コンベア上にアイテムを置く際は、コンベアローラーにアイテムを揃える時間を与えるために、十分に手前の位置に置いてください。フィーダー部に入るアイテムの端が揃っていないと、アイテムの傾きによりジャムが発生する場合があります。また、各アイテムの間には十分な間隔を開ける必要があります。画像を適切にキャプチャするには、アイテム間に少なくとも 1.3 cm (1/2 インチ) の間隔を開けてください。

例：アイテムをコンベア上に置く際は、アイテムの端を揃えるための十分な時間が必要です。太い線はフィーダーの投入口を表します。赤い矢印はアイテムのパス方向を表します。



WRONG (誤) - アイテムがフィーダーに近すぎて、揃えることができません



RIGHT (正) - コンベアガイドレールの近くにアイテムを置き、フィーダーから戻して位置を合わせます。

3.10.1. 傾き

傾きは、フィード時にアイテムの位置がずれている場合に識別するために使用されます。通常、アイテムが傾いているとスキャン画像が正確に認識されません。

アイテムの傾きは、アイテムがスキャナに入る角度によって決まります (図 3-29)。傾きの角度は LED の送信部と受信部のセットを用いて計算され、センサーの 1 つが遮蔽されていない状態がしばらく続くと、傾きとして検出されます。傾きの角度が 2 度を超える場合は、「傾き角度が大きすぎる」ためシステムは停止します。5 度以上の傾きで停止した場合は、OPEX の管理者に連絡してください。



図 3-29 : 傾きの例

3.10.2. アイテムをスキャンする

- 表面を上に向けてアイテムを送ります。
- レターサイズ 8-½ x 11 インチのアイテムは、縦向きと横向きのどちらでもスキャンできます。
- 小切手やスタブは、作業者が読むのと同じ方向で置きます。ページの幅や高さが独自のものである場合は他の横長ページも自動的に検出されます。

付箋のついた 1 枚のページなどの、2 つ以上のアイテムをスキャンするには、最初に **MFD Override** (MFD 無効化) ボタンを押します。これによりスキャナの超音波マルチフィード検出器が無効になり、エラー状態にならずにアイテムがスキャナを通過できます。

3.11. ジョブの実行とアイテムのスキャン

1. CertainScan にログインして、スキャンするアイテムに応じて実行するジョブを選択します。
2. 実行画面で **Go** (開始) ボタンを押します。コンベアローラーが回り始めます。
3. コンベア上に、最初のアイテムを図 3-30 のように置きます。アイテムがスキャナを通過すると、実行画面にサムネイル画像が表示され、画像ビューアウィンドウにはアイテムの拡大画像が表示されます。

アイテムを置く位置

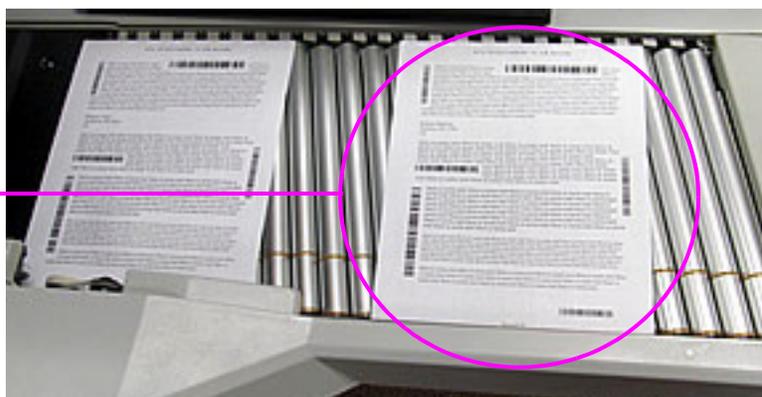


図 3-30 : 最適な配置位置

4. アイテムを続けてコンベアに置いていきます。スキャナは、設定したジョブパラメータに応じてアイテムをスキャンし、分類します。

3.11.1. Stack Feeding (アイテム積み重ねフィード)

コンベア上には約 2.7 センチ (1.1 インチ) まで積み重ねたアイテムを配置できます。コンベアローラーは積み重ねたアイテムをフィーダーまで運び、アイテムの束の一番上のアイテムから一枚ずつスキャナに送ります。フィーダーはアイテムの束の上から取り込み、最後のページが供給されるまで続けます。

アイテムの束を送り終わると、コンベアは束全体の給紙を停止します。停止したら、追加のアイテムの束をコンベアに配置できます。フィーダーはアイテムの束の上からアイテムを取り込むため、アイテムの束のリードシートが最初にフィーダーに到達することになります。アイテムの束の最後のページがフィーダーに最初に到達すると、給紙エラーが発生します。

注意: コンベアの動作は、以下の Feed Mode (送りモード) 設定により異なります。Normal (通常)、Stack (アイテムの束)、Passive (手動フィード) アイテムの束を送る際は、Stack (アイテムの束) モードまたは Normal (通常) モードを選んでください。高さセンサーは Stack (アイテムの束) モードで有効になります。

3.12. オペレータアカウントの管理

担当者またはマネージャーレベルのアクセス権があるオペレータは、追加、削除、変更等の機能で他のオペレータのアカウントを管理できます（図 3-31 参照）。

注意： 担当者が作成できるアカウントは、初心者、ユーザー、担当者のオペレータアカウントだけです。

ジョブへのグループ別アクセスを設定するためにグループを追加できます。オペレータが実行できるジョブは、アクセス権が割り当てられたグループに基づいて制限される場合があります。

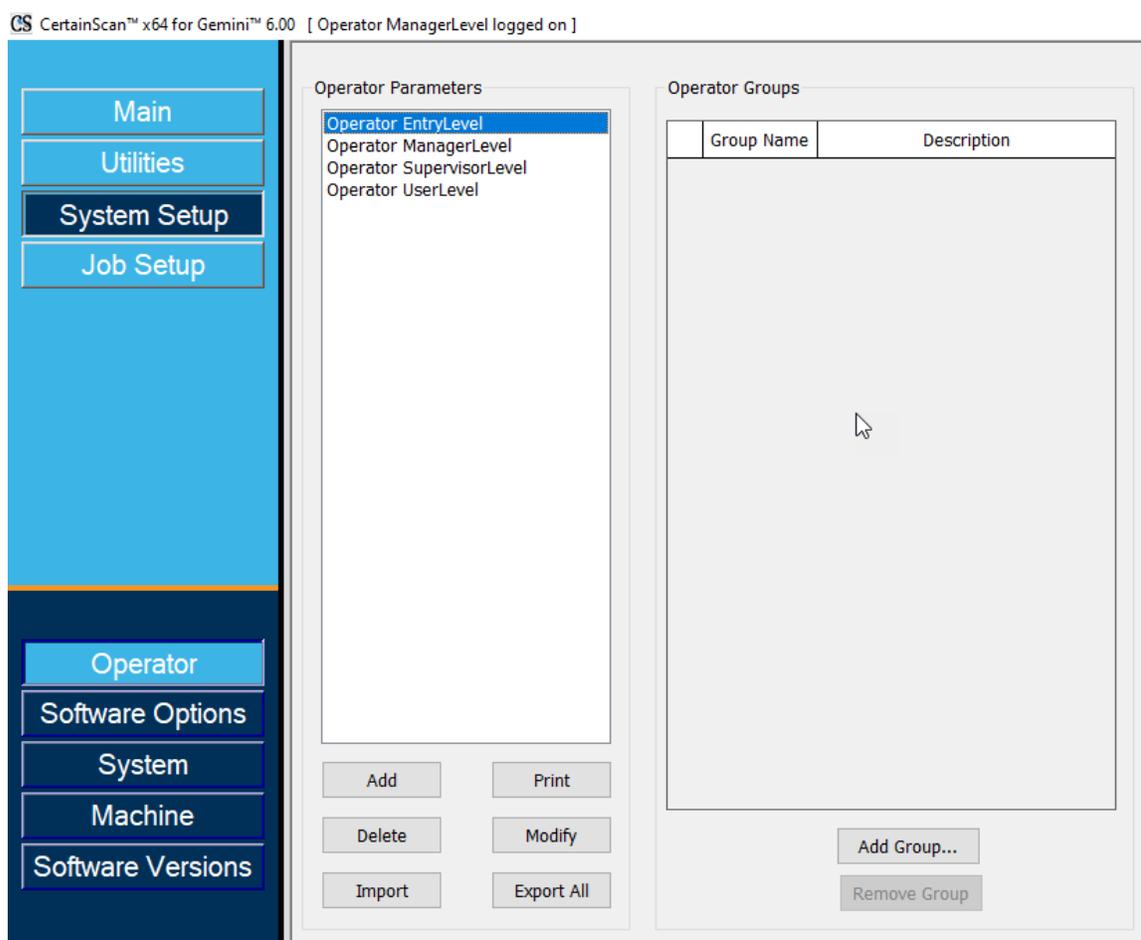


図 3-31 : オペレータアカウントの管理

- **Add（追加）**：グループが追加・設定されている場合は「New Display（新規表示）」をクリックして、オペレータ名、アクセスレベル、シフト、パスワード、言語を入力しグループに割り当てます。
- **Delete（削除）**：削除する単数または複数のオペレータを選択します。

- **Import**（インポート）：保存したオペレータファイル（.SCAN）のインポート先を参照します。
- **Print**（印刷）：オペレータリストを印刷するために、単数または複数のオペレータを選択します。
- **Modify**（変更）：現在の設定を変更するオペレータを選択します。
- **Export All**（すべてエクスポート）：場所を参照して、ファイル名と保存したオペレータファイル（.SCAN）を入力します。
- **Add Group**（グループの追加）：これは、ジョブへのグループ別アクセスの参照用です。グループ名を入力します。説明フィールドは、グループに関する追加情報を入力するためのフリーテキスト欄です。
- **Remove Group**（グループの削除）：削除するグループを選択します。これで、グループは確認なしで削除されます。

3.12.1. 新規オペレータの追加

ポップアップウィンドウ（図 3-32）から **Add**（追加）をクリックして、新規オペレータ情報を入力します。グループを利用できる場合は、オペレータグループのメンバーシップを提供するグループを選択します。**Save**（保存）をクリックして新規オペレータを保存するか、**Cancel**（取消）をクリックして保存しないで終了します。

既存の OPEX デフォルトとして、「Modify（変更）」を選択できます。

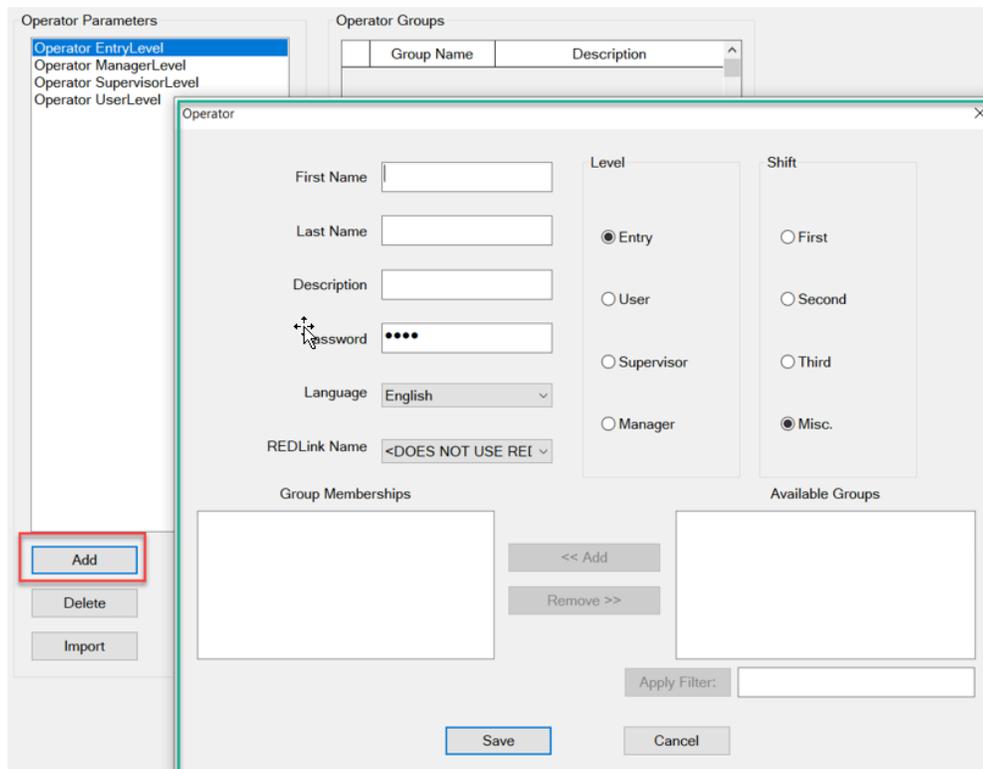


図 3-32 : オペレータの追加

注意： 必要なオペレータを設定した後は、OPEX のデフォルトオペレータを全て削除してください。

3.12.2. ジョブへのグループ別アクセス

この機能により、オペレータのグループ化、フォルダでのジョブ管理、ジョブを含むフォルダへのグループアクセスが可能になります。この機能を使用する場合、ジョブへのアクセスは、グループに割り当てられたオペレータに限定されず、全ジョブにアクセスする必要がある管理者や担当者などのオペレータは、すべてのジョブを含むフォルダへのアクセス権を持つグループに設定する必要があります。設定には、管理者によるログインが必要です。

3.12.2.1. 権限ファイルを設定する

注意： 権限ファイルは最初に設定する必要がありますが、設定は1度だけです。

1. フォルダパスを定義して、「Permissions.txt」という名前でファイルを作成して保存します。
 - **System Setup** (システム設定) > **System** (システム) > **General Settings** (基本設定) > **Folder Permissions Configuration File** (フォルダ権限設定ファイル) (図 3-33)の順に移動します。
2. ナビゲーションパスアイコンをクリックしてフォルダに移動し、テキストボックスに「Permissions.txt」と手動で入力してファイルを作成して挿入します。
3. **Open** (開く) をクリックしてファイルを保存します。
4. 設定したパラメータの横にある **Apply** (適用) ボタンをクリックして、保存します。
5. **Operator Management** (オペレータ管理) パラメータが **Legacy** (レガシー) に設定されているか確認します。
6. CertainScan を再起動します。

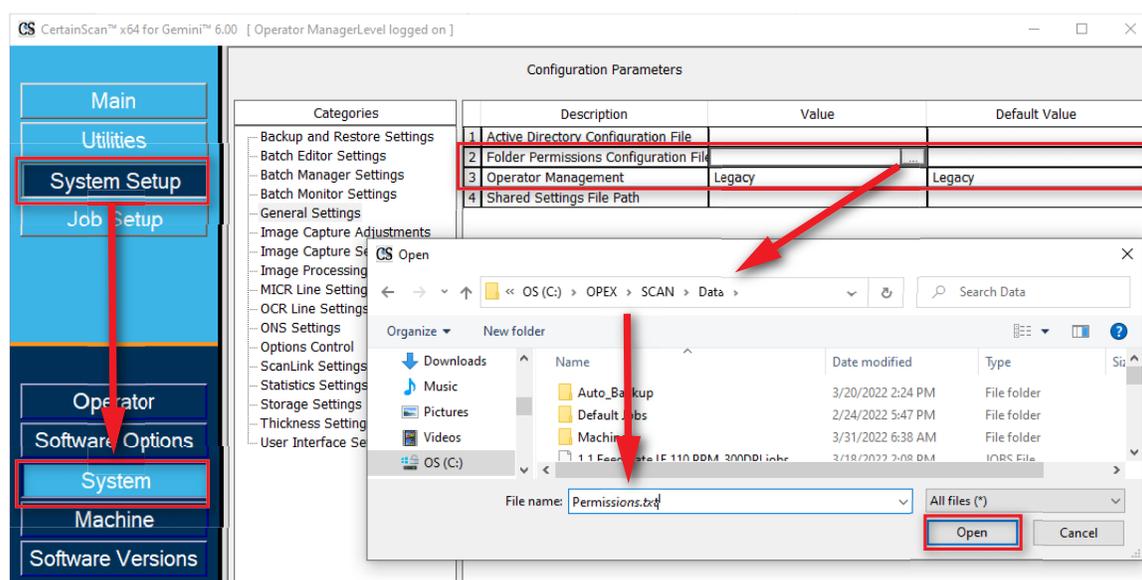


図 3-33 : 権限ファイルの作成

3.12.2.2. グループメンバーシップでのグループの追加とオペレータの変更

System Setup（システム設定）から **Operator**（オペレータ）に移動して、**Add Group**（グループの追加）をクリックして新しいグループ名を入力し、**OK** をクリックします（図 3-34）。**OK** をクリックすると、新しいグループ名が **Description**（説明）フィールドと一緒に表示されます。Description（説明）フィールドボックスをクリックして、補足情報を入力します。

例：

- グループ名 = First Shift
- 説明 = 銀行顧客のジョブ

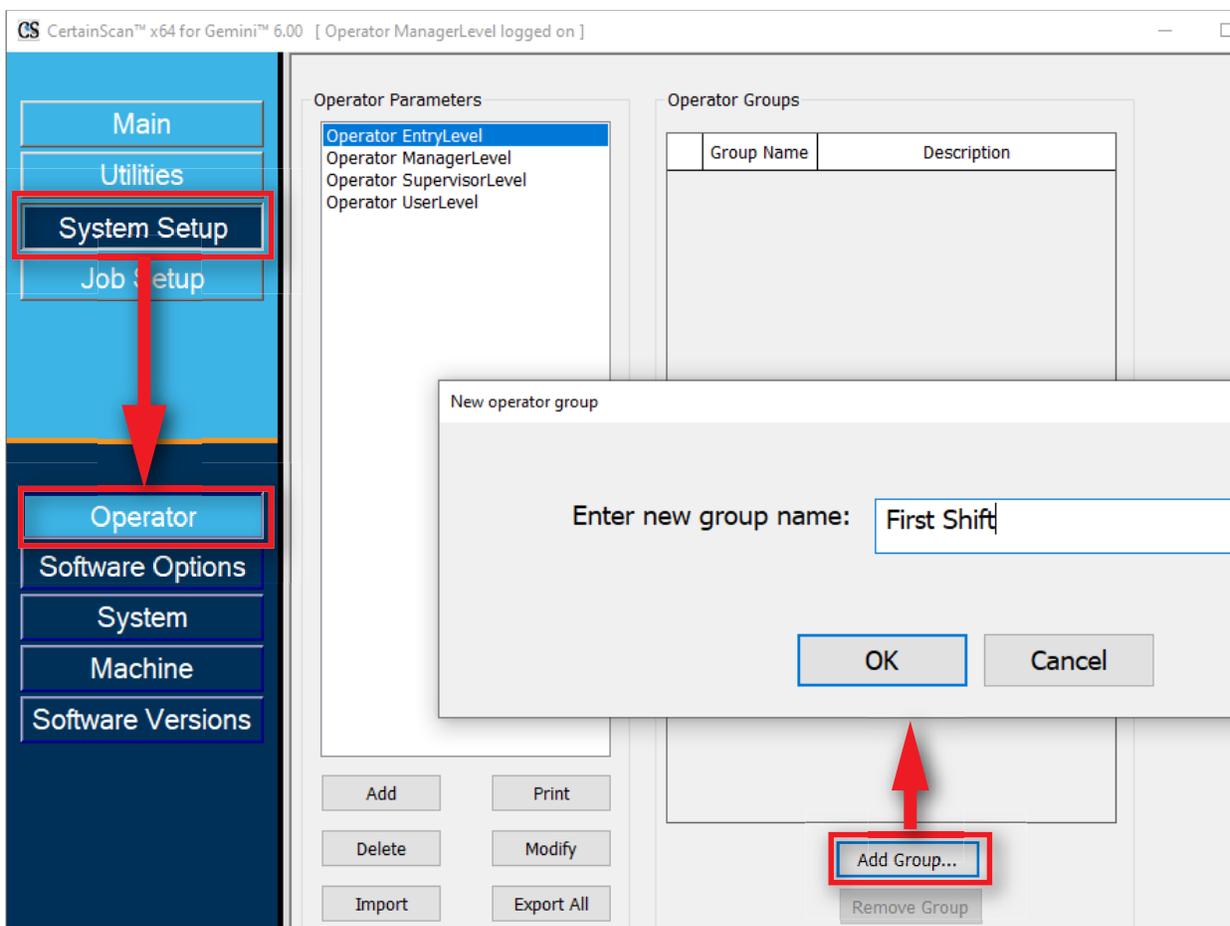


図 3-34 : グループの追加

オペレータグループを追加した後、オペレータを選択して **Modify** (変更) ボタンをクリックします。オペレータのディスプレイから **Available Groups** (選択可能なグループ) を選択して、**Add** (追加) ボタンをクリックします。完了したら、**Save** (保存) をクリックします (図 3-35)。

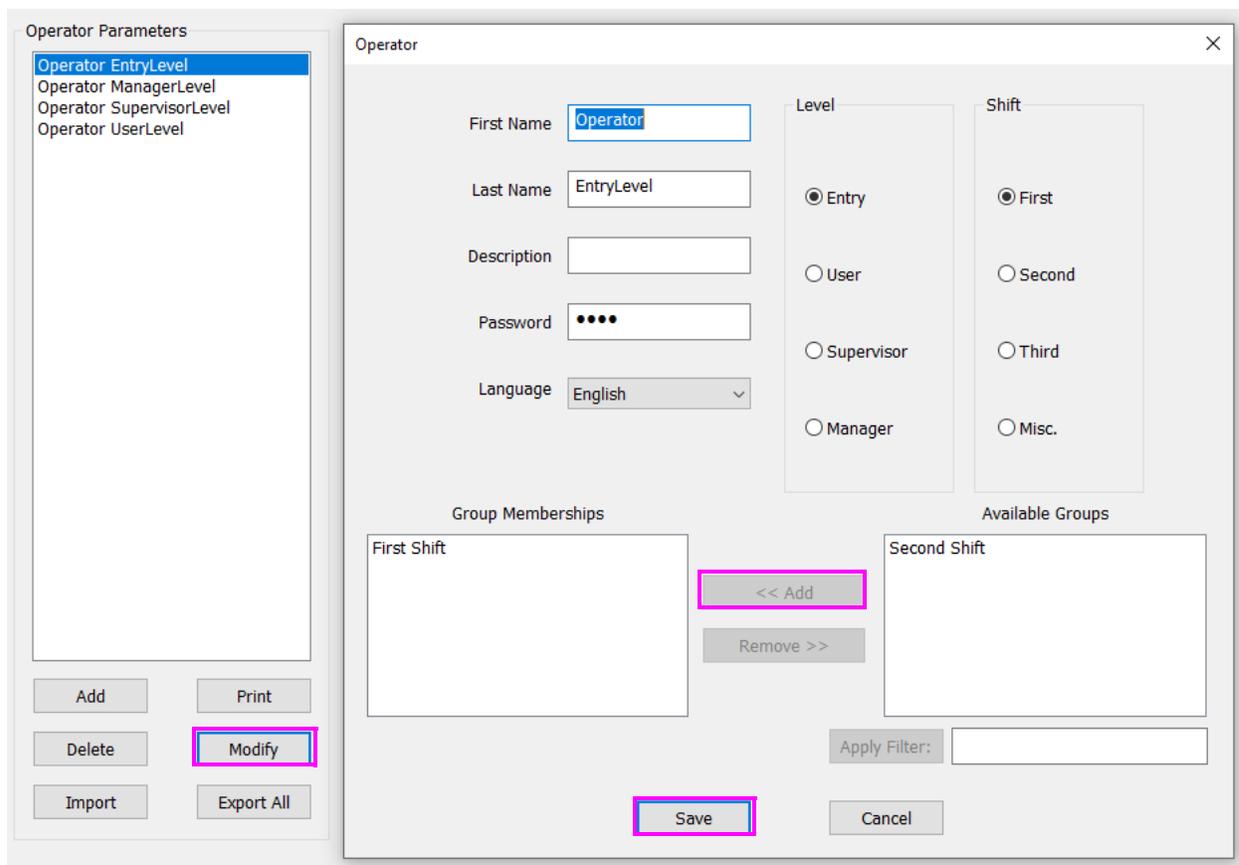


図 3-35 : グループへのオペレータの追加

3.12.2.3. フォルダへのジョブの追加とグループアクセスの追加

Job Setup（ジョブ設定）から **Folder**（フォルダ）に移動して、フォルダ名をクリックしてから **Insert**（挿入）ボタンをクリックしてグループにアクセス権を割り当てるフォルダにジョブを配置します。または新規フォルダを追加して、ジョブを挿入します。

次に **Available Group(s)**（選択可能なグループ）を選択して **Add**（追加）ボタンをクリックし、選択したフォルダに含まれるジョブにグループアクセスを配置します。

完了したら、CertainScan を再起動してグループ機能別にジョブアクセスを適用します。

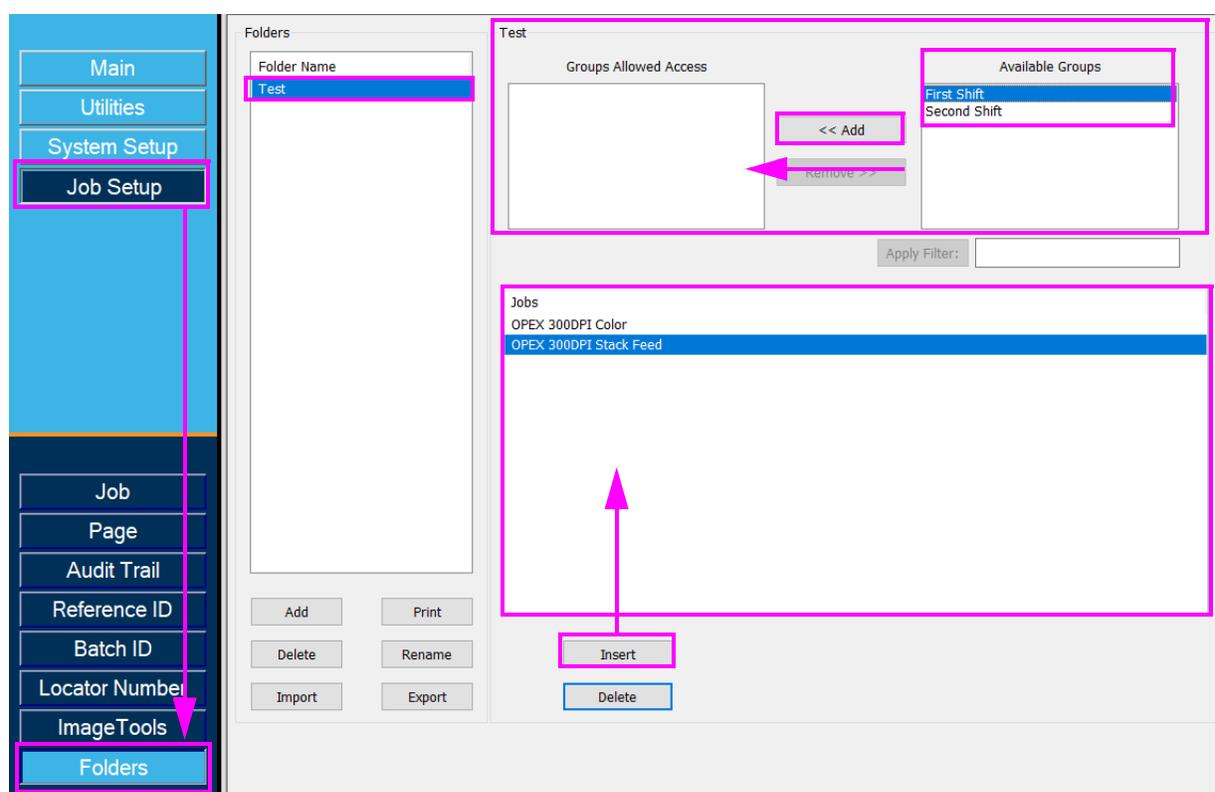


図 3-36 : フォルダへのジョブの追加

(このページは意図的に白紙にしています)

4. ジョブの実行

4.1. 概要	71
4.2. ルール化されたジョブとルール化されていないジョブ.....	71
4.3. ページタイプの割り当て	72
4.4. ページタイプのロック.....	73
4.5. ページサブタイプ	74
4.6. オペレータ/ジョブアイコンのサイズ	75
4.7. 画質の調整.....	77
4.7.1. 読み込みパラメータの調整画面のボタン	77
4.8. アイテムの再スキャン.....	79
4.9. バッチからアイテムを削除する	80
4.10. 新しいバッチを開始する.....	81
4.11. アイテムとセット/トランザクションの無効化	82
4.12. スキャン中のバッチの編集	84
4.13. 複数バッチの中断と再開.....	85
4.13.1. CertainScan に搭載されているバッチエディタ.....	86
4.13.2. バッチを閉じる	87
4.14. CertainScan 遅延ジョブ	88
4.14.1. ページタイプ選択ボタン.....	88
4.14.2. 実行画面のサムネイル.....	89
4.15. 再スキャンフィーダー	91
4.15.1. スキャナの一時停止と再スキャンフィーダーの使用	91
4.15.2. スキャン中止時の再スキャンフィーダーの使用.....	93
4.16. マルチフィード検出(MFD)	94
4.16.1. スキャン中の MFD 無効化	94

Gemini

オペレータマニュアル

4.16.2. スキャナの一時停止と MFD の無効化	95
4.16.3. スキャン中止時の MFD フィーダー経路の使用	95
4.17. ID Assist	96
4.17.1. ID Assist を使用する	96
4.18. マルチスロット ID Assist	97
4.19. Key Assist	99
4.20. 紙詰まりを解消する	100
4.21. トレイから文書を取り出す	102

4.1. 概要

CertainScan ソフトウェアは、様々なスキャン環境に対応しています。オペレータによる操作は、設定されたジョブやページタイプによって異なります。本章では、ジョブのタイプ、オペレータによるページタイプの操作、CertainScan の使用法について説明します。

4.2. ルール化されたジョブとルール化されていないジョブ

ルール化されていると設定されたジョブでは、オペレータはページタイプを順番にスキャンする必要があります。たとえば、ルール化されたジョブでは、CertainScan はオペレータに最初にバッチチケットをスキャンし、次いでスタブ、小切手やアイテム、そして最後にセットの終わりを示す封筒の順にスキャンすることを求めます。ページタイプが順番にスキャンされない場合、CertainScan はオペレータに警告を發します。

ルール化されていないと設定されたジョブでは、どのような順序でもページタイプをスキャンできます。唯一の制約事項として、境界（ほとんどの場合は封筒）をスキャンする必要があります。境界は、現在のセットが完了したことをシステムに伝え、次のセットを開始させます。

4.3. ページタイプの割り当て

ジョブでの設定時に適切な Page Type（ページタイプ）ボタンを押すことで、次のアイテムに手動でページタイプを割り当てます（図 4-1）。



図 4-1 : ページタイプボタンの例

ルール化されたジョブの場合、ページタイプの各ボタンは、次に来ると想定される文書のページタイプを通知します。たとえば、セットを開始する際にバッチチケットまたはスタブが来ると想定される場合は、対応するページタイプボタンが色で表示されます（図 4-2）。

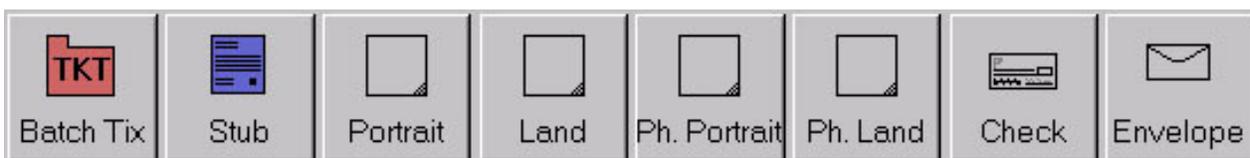


図 4-2 : ページタイプボタンの例（ルール化されたジョブの場合）

4.4. ページタイプのロック

ジョブでの設定時に、複数のアイテムにページタイプを適用します。**Page Type** (ページタイプ) ボタンを2回押して、ページタイプボタンを押したままロックします。ページタイプをロックすると、セット/トランザクションが終了するか、またはロックが解除されるまで、スキャンされた以降のアイテムはすべて同じページタイプとして分類されます。ページタイプボタンが赤枠で囲われている場合は、ロックがかかっていることを示します (図 4-3)。

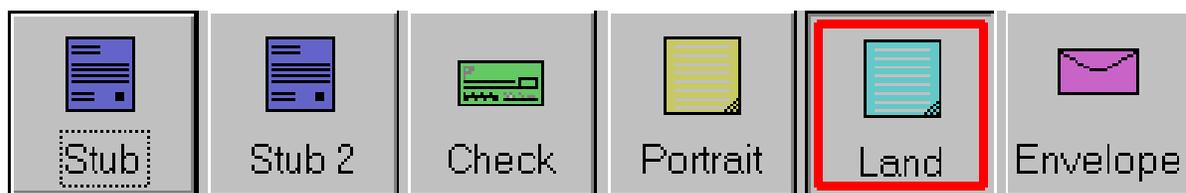


図 4-3 : ロックされたページタイプ

注意： この機能は仮想ページタイプでは使用できません。仮想ページタイプは、スキャンされず、保存された画像から挿入されるアイテムです。仮想ページタイプは、ボタンの周りに破線で表示され、ボタンをクリックすると挿入されます (図 4-4)。

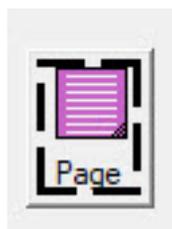


図 4-4 : 仮想ページタイプの例

4.5. ページサブタイプ

ページサブタイプはページタイプ内で設定されます。ジョブの1つ以上のページタイプにサブタイプが含まれている場合、スキャンの前にサブタイプのアイテムを割り当てる必要があります。

ページのサブタイプの割り当て方法：

1. ジョブを実行時に、ページサブタイプで設定されたページタイプボタンを押します。
2. ポップアップディスプレイから、関連するページサブタイプを選択します（図 4-5）。
3. ページサブタイプのアイテムのスキャンを続けます。

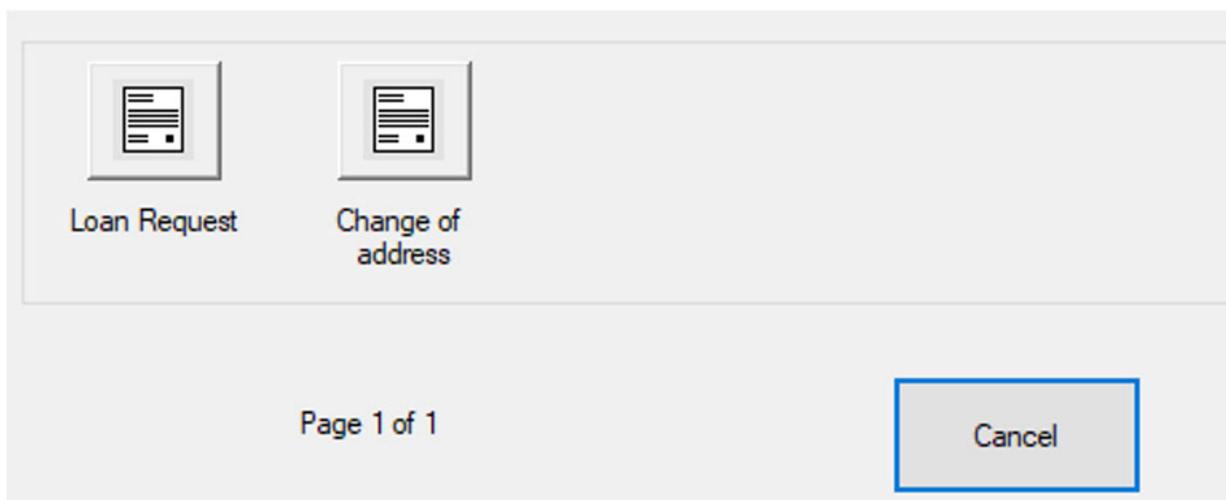


図 4-5 : ページサブタイプ

4.6. オペレータ / ジョブアイコンのサイズ

オペレータおよびジョブアイコンは、以下の4つの異なるサイズで実行画面に表示できます：

- 小型
- 中間
- 大型
- 特大

オペレータ / ジョブのアイコンサイズを設定するには

1. マネージャーレベルのアクセス権を使用してログオンし、以下の場所に移動します。**System Setup**（システム設定）> **System**（システム）> **User Interface Settings**（UI設定）。
2. **Operator/Job Icon Size**（オペレータ / ジョブアイコンのサイズ）ドロップダウンをクリックしてサイズを選択し、**Apply**（適用）ボタン（図4-6）をクリックします。

Categories	Description	Value	Default Value
1	Batch Image Viewer Can Show Full Res	No updates while system busy; never downsampled; navigation allowed when system n	No updates while system busy; never downsampled;
2	Customer Type	Service Bureau	Remittance
3	Default color for image display	0x0e07070	0x0e07070
4	Delay showing thumbnail and preview	No Delay - show preliminary thumbnail and preview images	No Delay - show preliminary thumbnail and preview i
5	Display restart waiting on system confi	No	No
6	Downsample bitonal images to screen	Yes	Yes
7	DownSampler pixel stride	2	2
8	Enable rotation button	Runscreen and Edit	Runscreen and Edit
9	Enable Transform Checkbox On Logon	No	No
10	Enable Virtual Keyboard	Yes	Yes
11	Font size for operator and job selection	10	10
12	Image display border in pixels	4	4
13	Indicate virtual items in demo mode	1	1
14	Keyassist Scheme	2	2
15	Logout Button Behavior	Quit if password specified on command line	Quit if password specified on command line
16	Native Language	English	English
17	Operator/Job Icon Size	Medium	Small
18	Run Screen Update Interval in MS	Small	1000
19	Run/Edit Screen Font Size	Medium	12
20	Run/Edit Screen Horizontal Image Cou	Large	8
21	Run/Edit Screen Vertical Image Count	Extra Large	8
22	ScanLink Custom Data Button Name OX		
23	Set Page Reference(Ds) to Default when	No	No
24	Show Calibration Button To Managers	No	No
25	Show Throttle Notification UI	1	<no default value available>
26	Sort jobs by run count checked by defa	0	0
27	Thumbnail border in pixels	1	1
28	Thumbnail highlight thickness in pixels	3	3

Operator/Job Icon Size Apply Medium

- Small
- Medium
- Large
- Extra Large

図 4-6 : オペレータ / ジョブアイコンのサイズのパラメータ

3. 選択したサイズに応じて、オペレータ（図 4-7）とジョブ（図 4-8）のアイコンが表示されます。

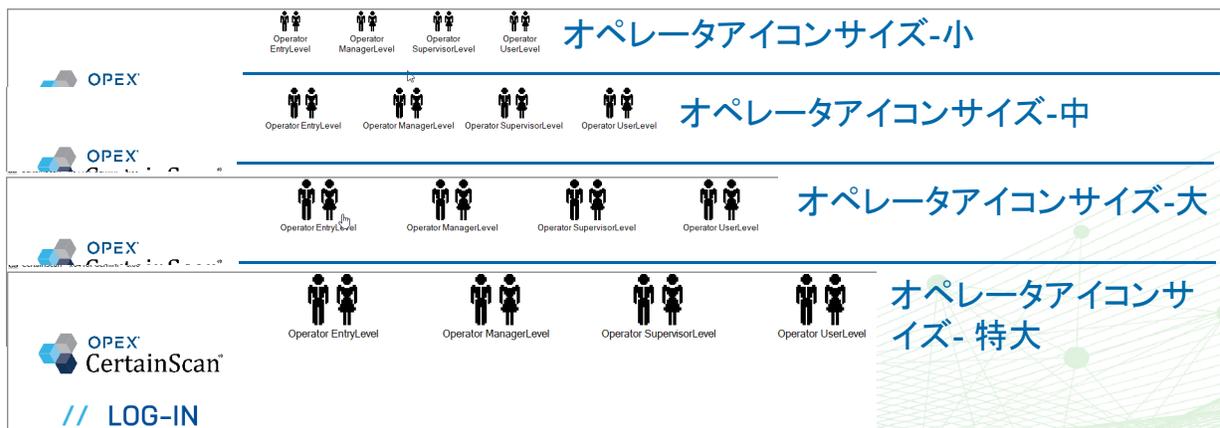


図 4-7 : オペレータアイコンサイズの例

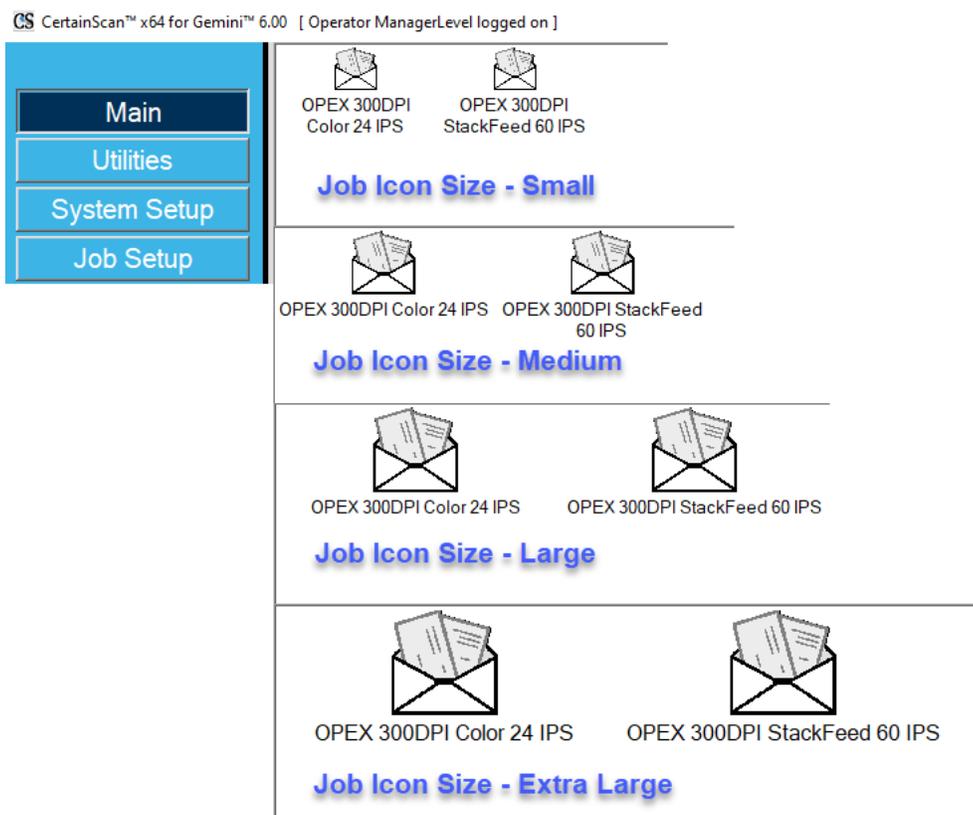


図 4-8 : ジョブアイコンサイズの例

- [ここ](#)をクリックすると、操作手順の「オペレータアイコンのサイズ」に戻ります。
- [ここ](#)をクリックすると、操作手順の「ジョブアイコンのサイズ」に戻ります。

4.7. 画質の調整

実行画面の **Adjust**（調整）ボタンをクリックして、全画像またはひとつの画像のガンマ、輝度、色の除去を変更します（図 4-9）。

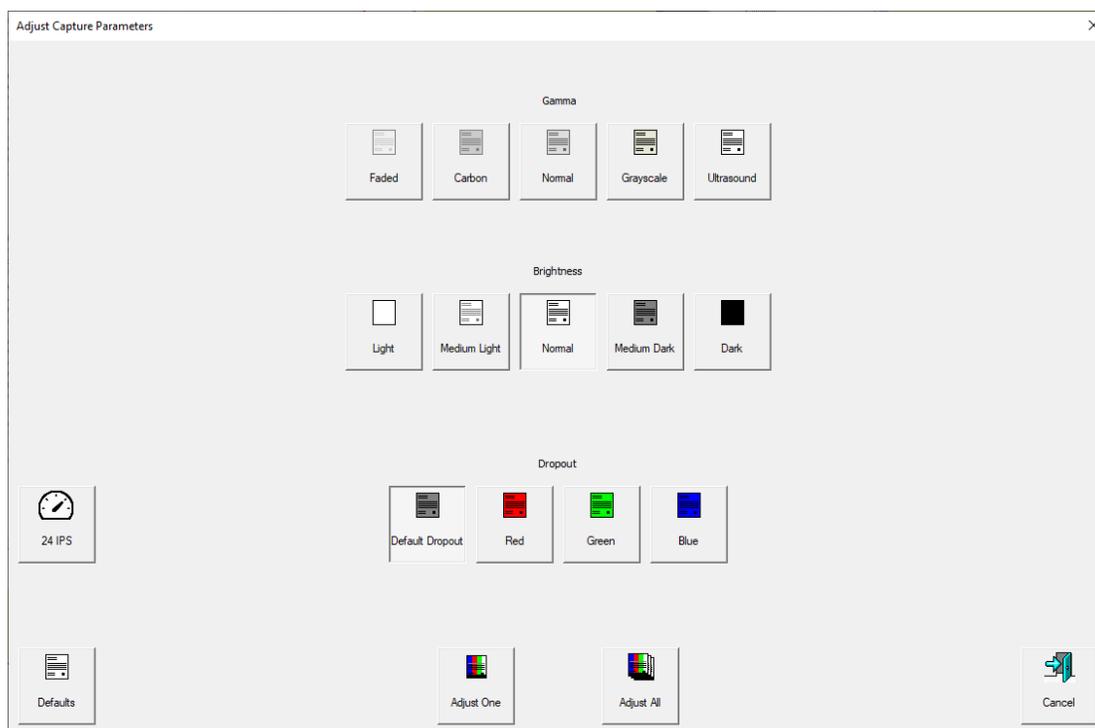


図 4-9 : 読み込みパラメータの調整

4.7.1. 読み込みパラメータの調整画面のボタン

表 4-1: *Adjust Capture Parameters*（読み込みパラメータの調整）画面のボタン

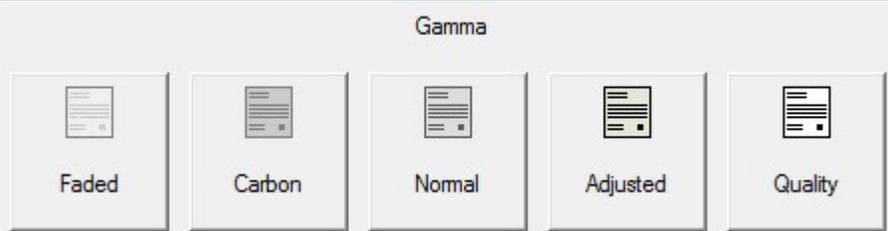
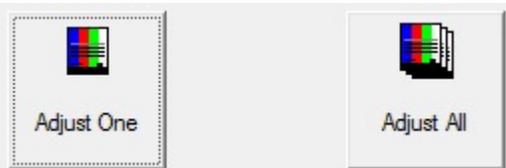
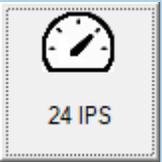
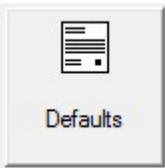
Gamma (ガンマ)	 <p>有効にすると、Gamma（ガンマ）ボタンで画像の明部と暗部のバランスを調整できます。</p>
----------------	--

表 4-1: Adjust Capture Parameters (読み込みパラメータの調整) 画面のボタン (続き)

<p>輝度</p>	 <p>アイテム画像の輝度を Light (明るい) から Dark (暗い) の間で調整できます。輝度はボタンを押して調整します。デフォルトは、Normal (通常) です。</p>
<p>ドロップアウト</p>	 <p>特定の色 (Red (赤)、Green (緑)、Blue (青)) をアイテム画像から除去します。</p> <p>注意: 色の除去は、設定された出力ファイルタイプがバイトーンまたはグレースケールに設定されているページタイプでのみ機能します。</p>
<p>Adjust All/ Adjust One (全文書/単一文書の調整)</p>	 <p>現在のジョブ内でこの変更を全アイテムに適用するには、Adjust All (全アイテムの調整) ボタンを押します。後続のアイテムにのみ適用する場合は、Adjust One (単一アイテムの調整) ボタンを押します。</p> <p>注意: これらのボタンは、代替トラックの速度には影響しません。</p>
<p>Alternate Track Speed mode (代替トラック速度モード)</p>	 <p>このボタンで、代替トラック速度モードへの切り替えが可能です。トラック速度を下げてスキャンする必要がある時や、内容が複雑なアイテムに役立ちます (長い処理時間が必要となるアイテムなど)。ボタンを押すたびに有効/無効が切り替わります。ボタンが選択されている状態では、代替トラック速度モードが有効になります。代替モードが不要になったら、ボタンの選択を解除して通常のトラック速度モードに戻す必要があります。</p>
<p>初期設定</p>	 <p>キャプチャパラメータをデフォルトに戻します。</p>

4.8. アイテムの再スキャン

ジョブで設定すると、CertainScan でジョブの実行中に画像を再スキャンできます。**Rescan**（再スキャン）ボタンにアクセスするには、実行画面（図 4-10）の **Actions**（実行）ボタンをクリックします。

1. アイテムのサムネイルを選択します。
2. 仕分けトレイからアイテムを取り出します。
3. バッチ内のアイテムを置換するには、実行画面の **Rescan**（再スキャン）ボタンを押します。
4. スキャンするアイテムをコンベアに置きます。

注意：初めてスキャンされたときに検査履歴が印刷された場合、**Rescan NP**（NP を再スキャン）（印刷不要）を押してバッチ内のアイテムを置き換えます。これにより、追加の検査履歴が印刷されることはありません。

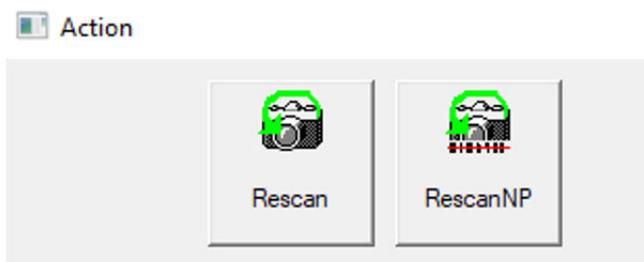


図 4-10 : Rescan Action（再スキャン実行）ボタン

4.9. バッチからアイテムを削除する

ジョブでの設定時に、バッチからアイテムを削除します。

スキャナが停止したら、**Delete**（削除）ボタンをクリックします。

- **Delete to End**（最後まで削除） - アイテムを選択し、選択したアイテムとそのアイテムの後にスキャンされたすべてのアイテムを削除します。
- **Delete**（削除） - CertainScan は最後にスキャンしたアイテムをバッチから削除します。

Delete to End（最後まで削除）ボタンを押すと、削除の確認ウィンドウ（図 4-11）が表示されます。

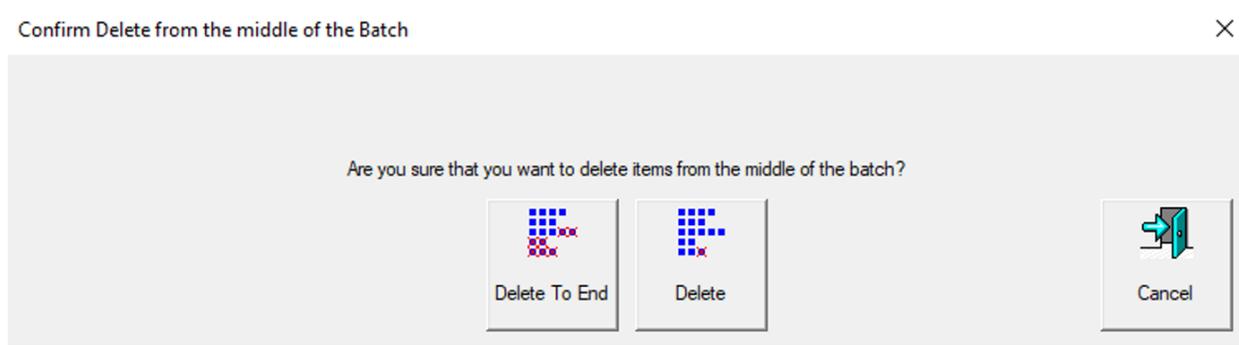


図 4-11 : 削除の確認ウィンドウ

4.10. 新しいバッチを開始する

(手動、自動、制限上のクローズ、パッチバッチパラメータ)

設定されたジョブに基づいてバッチを開始するには複数のオプションがあります。

- ジョブ実行中に、**Action** (実行) ボタンをクリックして **New Batch** (新規バッチ) を選択して、次にスキャンするアイテムで新規バッチを開始します (図 4-12)。

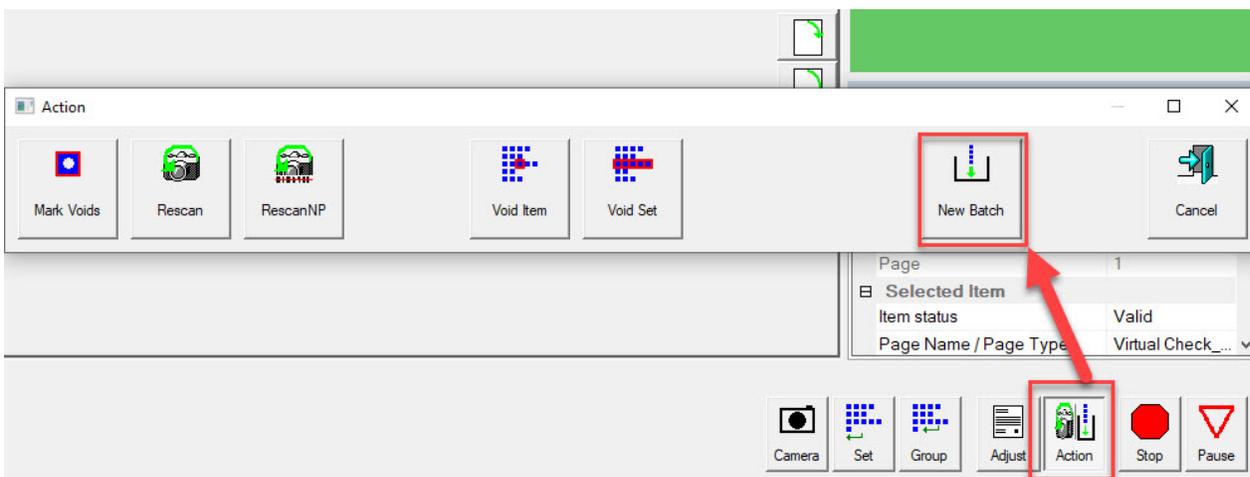


図 4-12 : Action (実行) - New Batch (新規バッチ)

- **Close Batch** (バッチを閉じる) ボタンを押して、新しいバッチチケットか、新規バッチの最初のアイテムをスキャンします。
- バッチチケットをスキャンして新規バッチを開始します。

4.11. アイテムとセット / トランザクションの無効化

ジョブ設定時に、無効化機能によりアイテム画像に VOID（無効）記号を挿入し、アイテムやセットが無効であることを伝えることができます。

アイテム画像に VOID（無効）記号を挿入する場合、アイテムのサムネイルを選択して、**Action**（実行）ボタンをクリックします。Action（実行）機能が表示されます（図 4-13）。**Void Item**（アイテムの無効化）を押して選択されたアイテムのみを無効化するか、**Void Set/Transaction**（セット / トランザクションの無効化）を押して選択されたアイテムとセットに含まれるその他全アイテムを無効化します。**Cancel**（キャンセル）ボタンは、何も実行しないで Action（実行）ウィンドウを閉じる時に使用します。

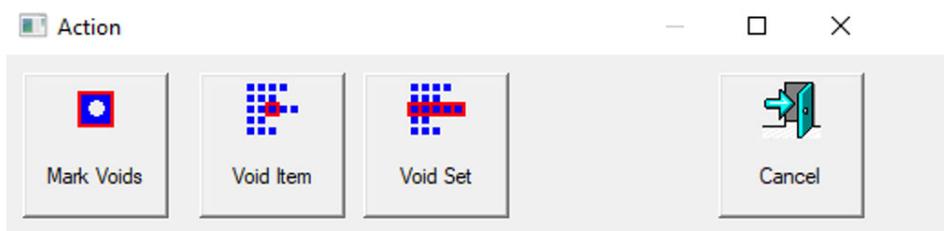


図 4-13 : Action Window（実行ウィンドウ）- Void Item（アイテムの無効化）

バッチパラメータ **Allow Void Batch**（バッチの無効化を許可）が **Yes with Marked Image**（マークされたイメージではい）に設定されている場合、VOID（無効）記号が実行画面上に表示され、アイテムはバッチファイル内で無効として指定されます（図 4-14）。

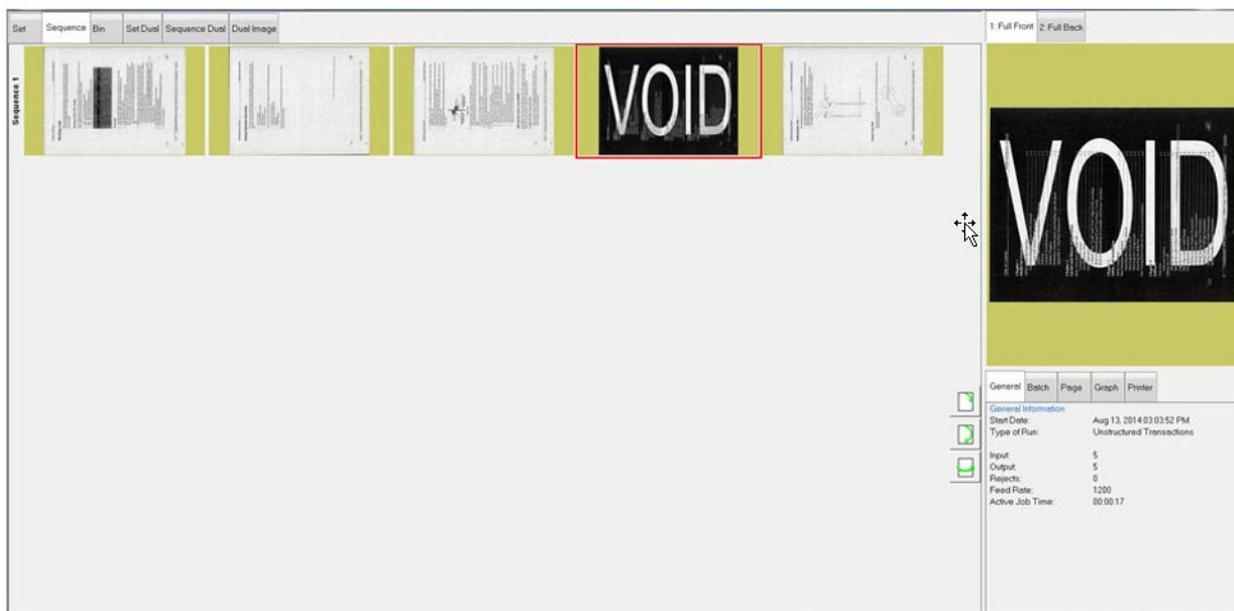


図 4-14 : 無効化記号が挿入されたアイテム画像

バッチパラメータの **Allow Void (Void を許可)** が **Yes without Marked Image** (マークされたイメージではい) に設定されている場合、VOID スタンプは実行画面のイメージの上に表示されますが、保存されているバッチファイル/フォルダ内のイメージの上には表示されません。アイテムは、出力ファイル (図 4-15) で Void (回避) ステータスで指定されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Batch FormatVersion="01.51" BaseMachine="AS3600_STANDALONE" ScanDevice="Gemini_x64" SoftwareVersion="06.00.11.00" SiteId="S
  <Transaction>
    <Group>
      <Page DocumentLocator="1" ScanSequence="1" ScanTime="2022-06-28 14:51:07" ItemStatus="VOID" IsVirtual
        <Image Index="1" RescanStatus="NOT_RESCAN" ScantimeFinalBlankAreaDecision="UNDETERMINED" Sca
        <Image Index="2" RescanStatus="NOT_RESCAN" ScantimeFinalBlankAreaDecision="UNDETERMINED" Sca
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_PageScanDate" Text="2022-06-28"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_PageScanTime" Text="14:51:07"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_SiteID" Text="SET SYSTEM::MACHINE IDENTIFICATION::LOCATION"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_JobName" Text="Virtual Test Job"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_BatchIdentifier" Text="000388"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_TransactionID" Text="1"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_TransactionSequence" Text="1"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_BatchSequence" Text="1"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_ScanSequence" Text="1"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_PageName" Text="Virtual Test Page"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_BatchProcessDate" Text="2022-06-28"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_BatchReceiveDate" Text="2022-06-28"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_OperatorName" Text="Operator ManagerLevel"/>
        <AuditTrailSubString Name="Bxf_TransactionID" Text="000000"/>
```

図 4-15 : XML バッチ出力ファイルの例

アイテム画像から VOID (無効) 記号を削除する場合、無効化を解除するアイテムを選択して、**Action (実行)** ボタンをクリックします。Action (実行) 機能が表示されます (図 4-16)。**UnVoid Item (アイテムの無効化を解除する)** ボタンを押して無効記号を削除するか、または **UnVoid Set (セットの無効化を解除する)** ボタンを押して、選択したアイテムとセットに含まれる他の全アイテムの無効記号を削除します。**Cancel (キャンセル)** ボタンは、何も実行しないで Action (実行) ウィンドウを閉じる時に使用します。

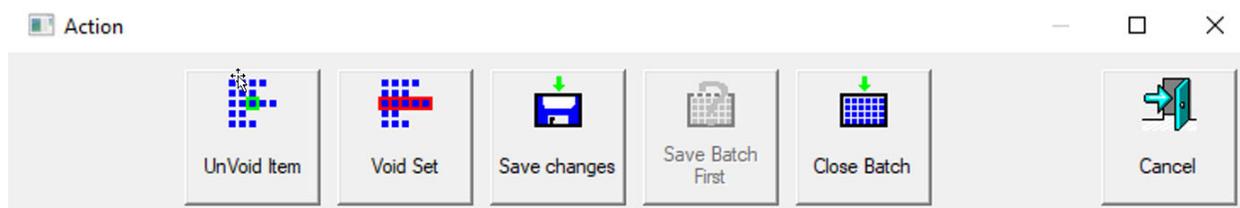


図 4-16 : Action Window (実行ウィンドウ) - Unvoid Item (アイテムの無効化を解除する)

4.12. スキャン中のバッチの編集

設定されたジョブに基づいて、CertainScan は 3 つのバッチ編集オプションを提供します。各オプションによって、編集機能の程度が異なります。必要に応じて、バッチは CertainScan Edit が搭載されたスタンドアロンのコンピュータ上で中断し、編集することができます。

- クリーンアップ編集のみ：中断されたバッチを回復するために必要な編集のみを許可します。バッチの中断は、コンピュータやスキャナのハードウェアまたはソフトウェアの故障時に発生します。
- メタデータのみ：ページ名、ページタイプや DLN の変更など、文書のメタデータのみ編集できます。
- 全高度編集：文書のメタデータの編集、文書の挿入、削除、移動、回転が可能です。

編集によってバッチに加えられた変更は、スキャナの画像処理では必ず処理されるとは限りませんが、既存のメタデータや出力画像、スニペットは、移動やコピー&ペーストの際に保存されます。

画像の再処理が行われないので文書仕分けのために ScanLink のプラグインが呼び出されず、挿入・貼り付けされた文書や画像に対して ImageTools のプラグインなどのスキャン後の画像処理も実施されません。

フィーダーやコンベアが動作している場合は、最初の編集で自動的に一時停止します。変更は蓄積され、オペレータが変更を適用するまでは元に戻すことができます。変更は、バッチを閉じるか中断するか、**Go** を押してスキャンを続行することによってコミットされます。

高度編集が有効になっている場合、文書のコピーや貼り付けができます。すべてのメタデータと画像は、指定された保存先に複製されます。

注意：画像をコピーすると、複数の画像に同じ DLN（ドキュメントロケータ番号）が付与されてしまう場合があります。監査証跡は再生成されませんが、OPEX Transform を使用して、新しいシーケンス番号またはその他の利用可能なバッチ変換オプションで監査証跡を再生成できます。

4.13. 複数バッチの中断と再開

CertainScan を使って、ジョブでの設定時に、ルール化されていないバッチの無制限の開放や中断、他のバッチが中断している間の別のバッチのスキャンが可能で、これには、主に次の2つの利点があります。

- ジョブを終了してバッチを再スキャンすることなく、ジョブおよびページタイプの各設定を作成・編集できます。
- 実行時間内に完了できないバッチは中断して、後で再開できます。

実行画面の終了時に、実行画面を終了する際にバッチを中断できるオプションが表示されます（図 4-17）。

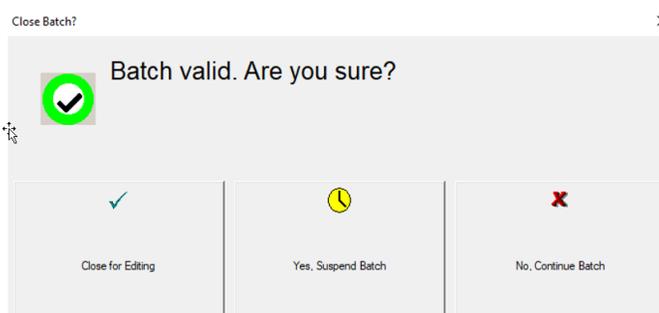
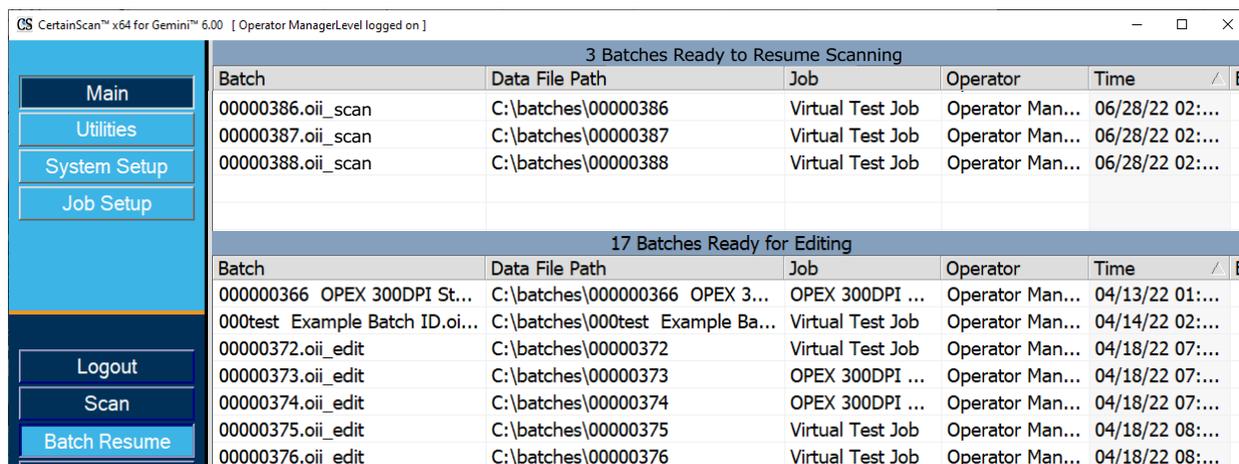


図 4-17 : バッチを中断する

メインメニューの **Batch Resume**（バッチを再開する）ボタンをクリックして、中断されたバッチのリストを表示します。バッチを選択して、スキャンを再開します（図 4-18）。



The screenshot shows the CertainScan software interface. On the left is a blue sidebar menu with buttons for "Main", "Utilities", "System Setup", "Job Setup", "Logout", "Scan", and "Batch Resume". The main window displays a table titled "3 Batches Ready to Resume Scanning" and "17 Batches Ready for Editing".

3 Batches Ready to Resume Scanning					
Batch	Data File Path	Job	Operator	Time	
00000386.oii_scan	C:\batches\00000386	Virtual Test Job	Operator Man...	06/28/22 02:...	
00000387.oii_scan	C:\batches\00000387	Virtual Test Job	Operator Man...	06/28/22 02:...	
00000388.oii_scan	C:\batches\00000388	Virtual Test Job	Operator Man...	06/28/22 02:...	

17 Batches Ready for Editing					
Batch	Data File Path	Job	Operator	Time	
00000366 OPEX 300DPI St...	C:\batches\00000366 OPEX 3...	OPEX 300DPI ...	Operator Man...	04/13/22 01:...	
000test Example Batch ID.o...	C:\batches\000test Example Ba...	Virtual Test Job	Operator Man...	04/14/22 02:...	
00000372.oii_edit	C:\batches\00000372	Virtual Test Job	Operator Man...	04/18/22 07:...	
00000373.oii_edit	C:\batches\00000373	OPEX 300DPI ...	Operator Man...	04/18/22 07:...	
00000374.oii_edit	C:\batches\00000374	OPEX 300DPI ...	Operator Man...	04/18/22 07:...	
00000375.oii_edit	C:\batches\00000375	Virtual Test Job	Operator Man...	04/18/22 08:...	
00000376.oii_edit	C:\batches\00000376	Virtual Test Job	Operator Man...	04/18/22 08:...	

図 4-18 : バッチを再開する

4.13.1. CertainScan に搭載されているバッチエディタ

スキャナに問題がある場合や、スキャン中に CertainScan が正常に終了されなかった場合は、バッチの終了と保存が正しく行われていないことがあります。この場合、CertainScan の再起動時に、バッチの一時ファイルが存在することが通知されます（図 4-19）。

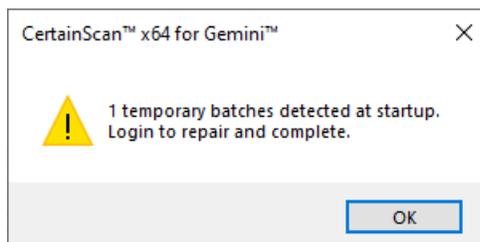


図 4-19 : 一時バッチエラー

続行するには **OK** ボタンをクリックし、システムにログインします。ログイン後、次のメッセージが表示されます（図 4-20）。

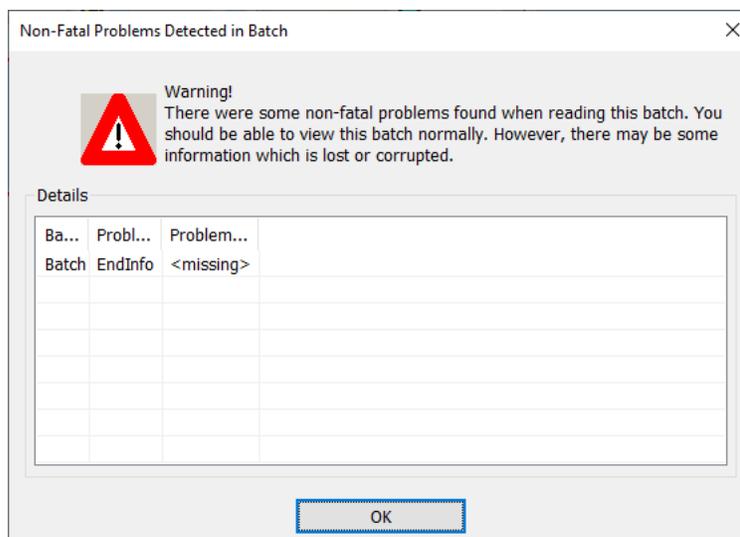


図 4-20 : エラーメッセージ : 致命的ではない問題がバッチで検出された

OK ボタンをクリックして続行します。バッチエディタが開き、別のエラーメッセージが表示されます。少なくとも 1 枚のアイテム画像（通常は最後にスキャンされたアイテム画像）を削除し、バッチを閉じて修復するように指示されます（図 4-21）。

アイテム画像を削除したら、**Exit**（終了）ボタンをクリックしてバッチエディタを閉じます。バッチが正しく修復されると、バッチが現在有効であることを通知するダイアログボックスが表示されます。

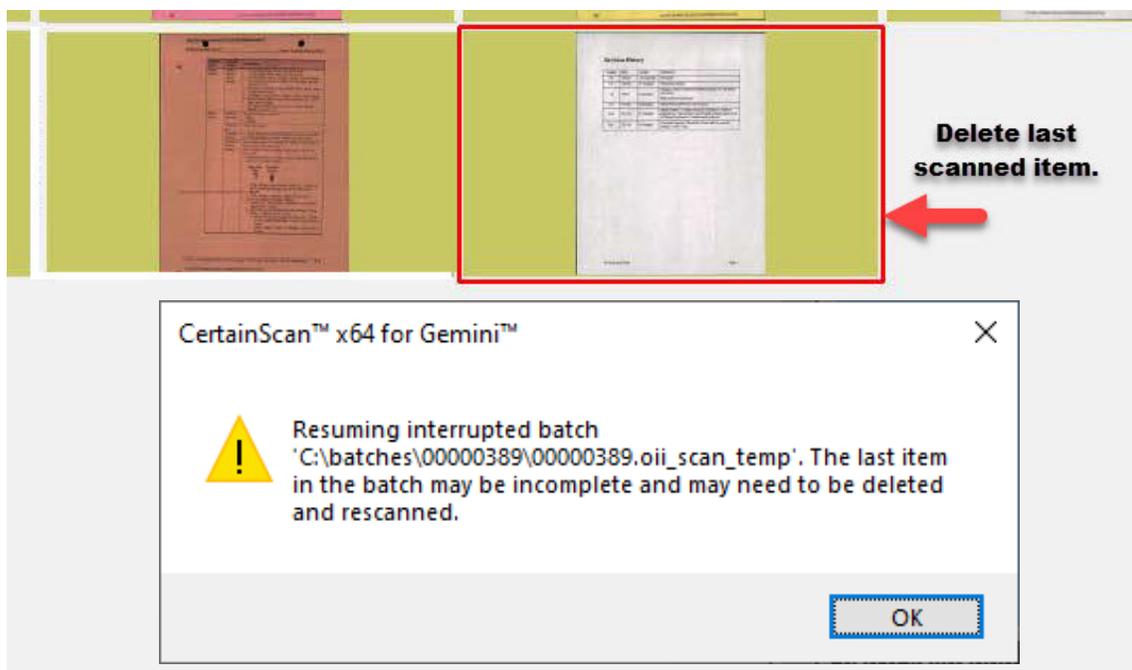


図 4-21 : 無効なバッチを修復する

4.13.2. バッチを閉じる

スキャンが終わったら、**Stop** (停止) ボタンを押してから、ポップアップディスプレイの **Exit** (終了) ボタンを押して、バッチを閉じます (図 4-22)。

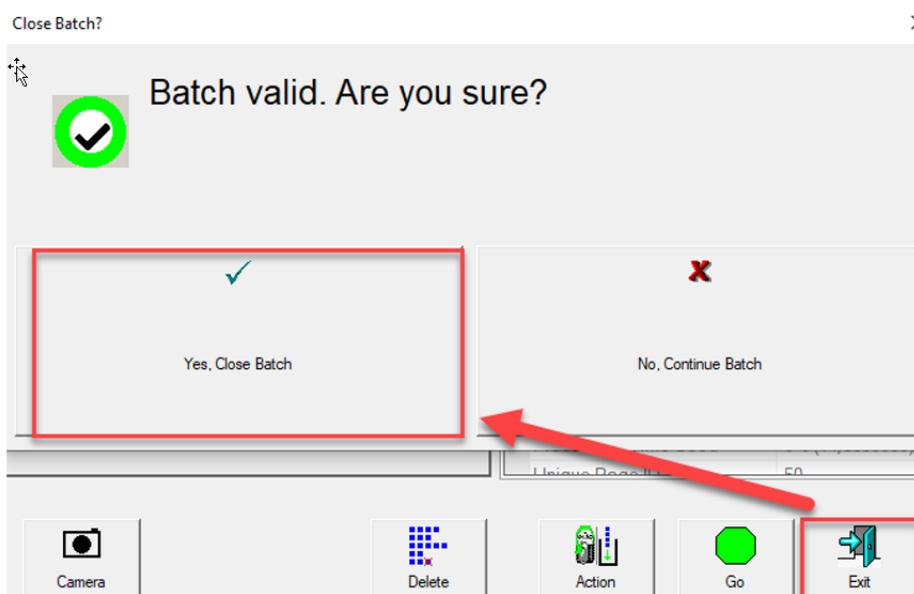


図 4-22 : バッチを閉じる

4.14. CertainScan 遅延ジョブ

これは、図 4-23 に示されているように、JobType が「遅延処理を伴う汎用」として構成される時です。

	Description	Value
1	Active	Yes
2	Job Type	Generic with Deferred Processing
3	Job Icon	Generic
4	RTF File Containing Job Instructions	WholesaleWorks Generic - Scanner Software displays dialogs
5	Page Types	WholesaleWorks Generic - Plug-in displays dialogs
6	Sets	WholesaleWorks Specific
7	Set Separator Item Criteria	Transactional WholesaleWorks - Scanner Software displays dialogs
8	Set Separator Item Criteria	Transactional WholesaleWorks - Plug-in displays dialogs
9	Groups	STS
10	Group Separator Item Criteria	Transport Mode
11	Group Separator Item Criteria	Generic with Deferred Processing
11	Group Separator Item Criteria	Not Applicable

図 4-23 : ジョブタイプの設定

4.14.1. ページタイプ選択ボタン

遅延ジョブを実行すると、遅延として構成されたページタイプには、表示されたページタイプボタン（図 4-24）内にクロックアイコンが含まれ、アイコンの上にカーソルを置くと「Deferred（遅延）」と表示されます。スキャンされたアイテムのみが処理され、バッチに挿入されたオフラインアイテム（外部カメラや仮想ページの種類など）は処理されません。

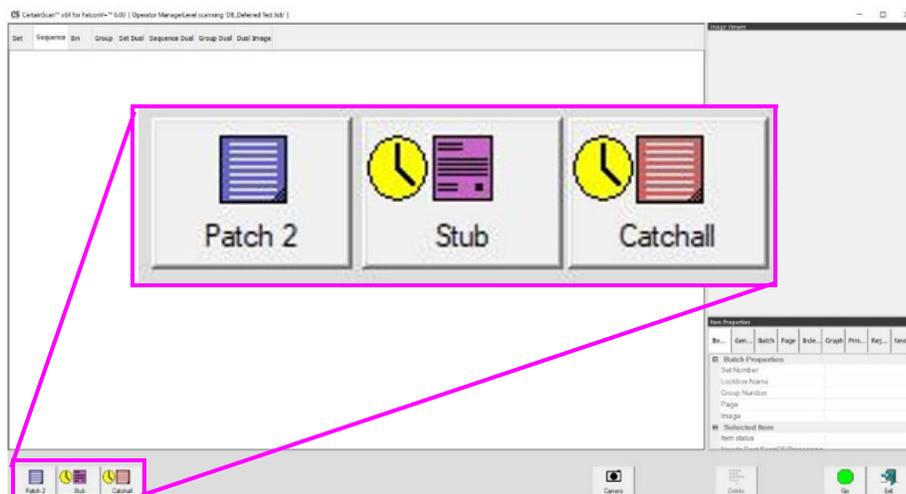


図 4-24 : ページタイプ選択ボタン

4.14.2. 実行画面のサムネイル

(図 4-25 参照)

- 「Deferred (遅延)」でないページタイプには、設定された実際の PageType カラーを持つストライプの背景パターンが適用されます。
- 「Deferred (遅延)」のページタイプには、黒色の固定ページタイプカラーを使用したストライプの背景パターンが適用されます。

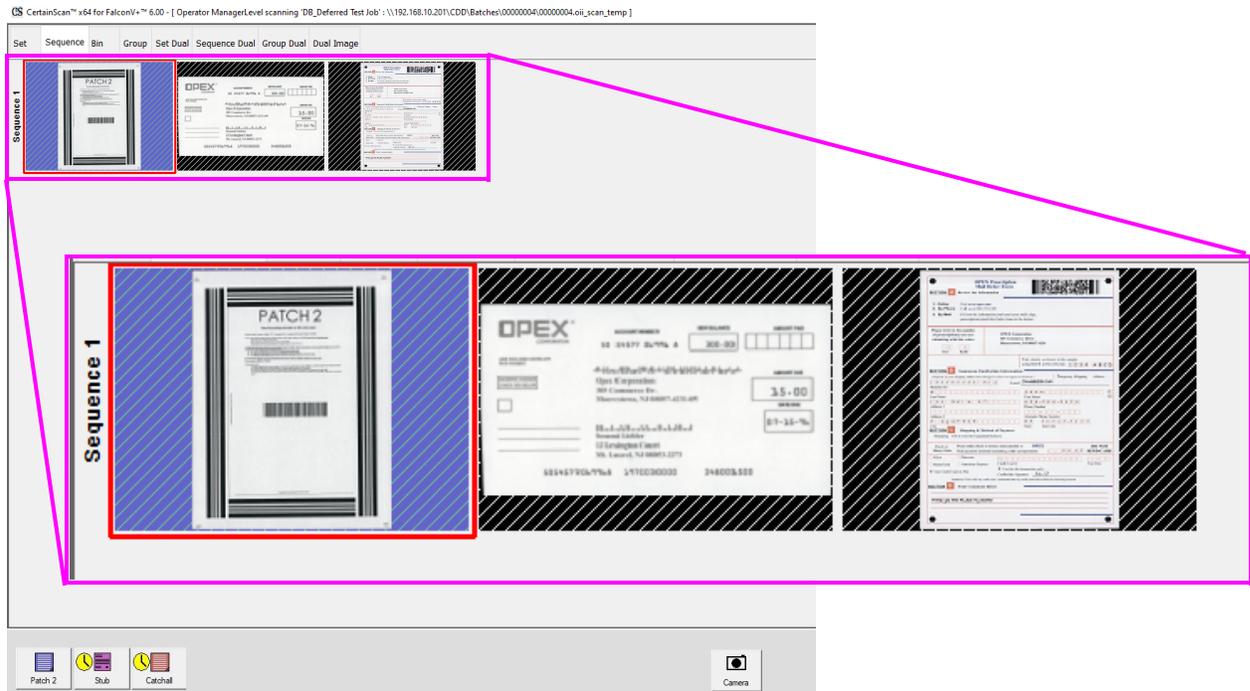


図 4-25 : Runscreen サムネイルの背景パターン

スキャンジョブの **Exit** (終了) をクリックすると、設定されたジョブ (図 4-26) に基づいてオペレータを選択するためのポップアップが表示されます。

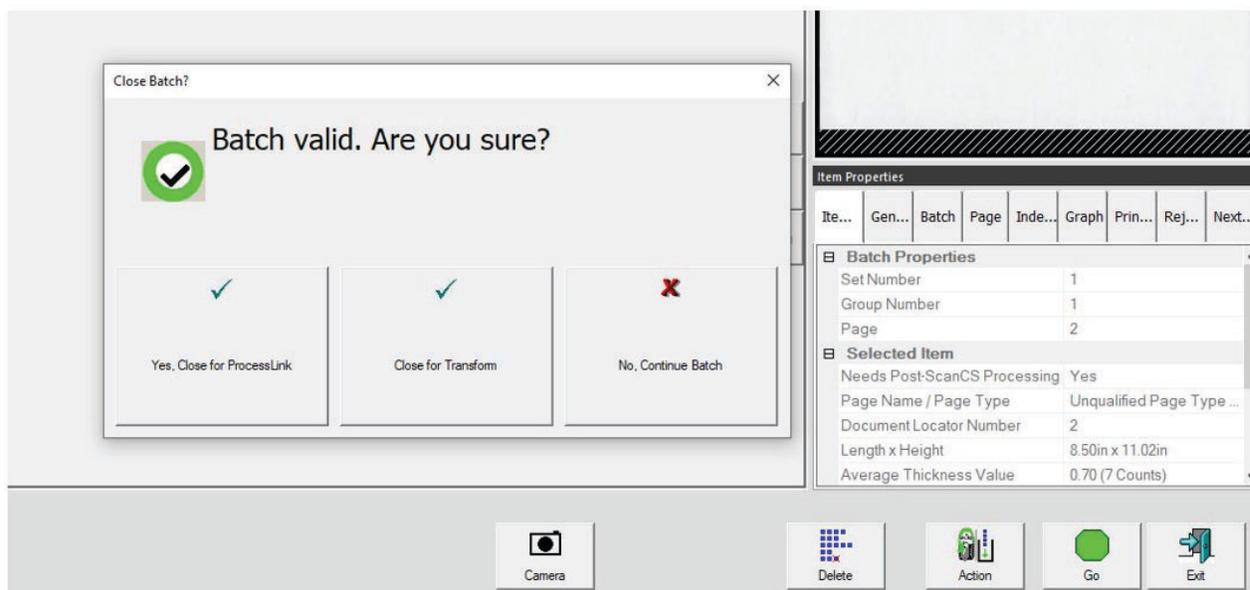


図 4-26 : バッチウィンドウを閉じるボタン

4.15. 再スキャンフィーダー

再スキャンフィーダーは、点灯するスキャンベッドカバーの溝付き投入口と、再スキャンフィーダーのオン/オフを切り替えるボタンから構成されています（図 4-27）。再スキャンフィーダーのボタンは、スキャナが一時停止またはスキャン中止状態にある時だけ有効です。

再スキャンフィーダーの投入口
Rescan Feeder(再スキャンフ
ィーダー)ボタン

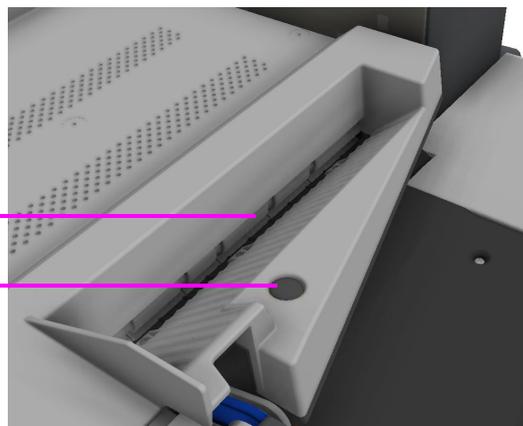


図 4-27 : 再スキャンフィーダー

4.15.1. スキャナの一時停止と再スキャンフィーダーの使用

実行画面で **Pause**（一時停止）を選択すると、再スキャンフィーダーの投入口が青く点滅します。これは、再スキャンフィーダーに単一または複数のアイテムが挿入される可能性があることをオペレータに警告するための点滅です。

一時停止状態で、マルチフィード検出を無効にして再スキャンフィーダーを使用する：

1. 実行画面（図 4-28）で **Pause**（一時停止）をクリックすると、スロットが青く点滅し始め、**Rescan Feeder**（再スキャンフィーダー）ボタンを押すと、スロットが青く点灯している状態になります。

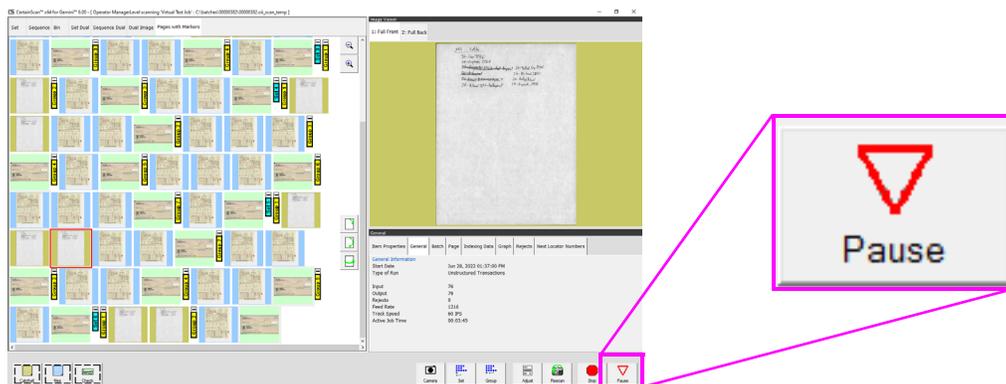


図 4-28 : 一時停止を選択

2. アイテムを 1 枚ずつ投入口に挿入します。
3. 終了したら、**Rescan Feeder**（再スキャンフィーダー）ボタンをもう一度押します。投入口の点灯が消え、自動フィーダーによる給紙が再開されます。

一時停止状態で、マルチフィード検出を有効にして再スキャンフィーダーを使用する：

1. 実行画面で **Pause**（一時停止）を選択して、再スキャンフィーダーの投入口が青く点滅したら、再スキャンフィーダーの投入口がチカチカと点滅を始めるまで **Rescan Feeder**（再スキャンフィーダー）ボタンを押し続けます。
2. アイテムを 1 枚ずつ投入口に挿入します。
3. 終了したら、**Rescan Feeder**（再スキャンフィーダー）ボタンをもう一度押します。投入口の点灯が消え、自動フィーダーによる給紙が再開されます。

4.15.2. スキャン中止時の再スキャンフィーダーの使用

スキャン中止状態になると、実行画面に状況（図 4-29）が表示され、再スキャンフィーダーの投入口が青く点滅します。オペレータは、再スキャンフィーダーを使わずに続行するか、再スキャンフィーダーボタンを押して再スキャンフィーダーを使用するか選択できます。再スキャンボタンを押すと、表示されていた実行画面の状態が終了します。**Cancel**（取消）を押すと、実行中のジョブが停止します。



図 4-29 : スキャン中止状況の例

スキャン中止状態で、マルチフィード検出を無効にして再スキャンフィーダーを使用する：

1. 再スキャンフィーダーの投入口が点滅している間に、**Rescan Feeder**（再スキャンフィーダー）ボタンを押すと、実行画面ダイアログが閉じて、投入口は青く点灯した状態になります。
2. アイテムを 1 枚ずつ投入口に挿入します。
3. 終了したら、**Rescan Feeder**（再スキャンフィーダー）ボタンをもう一度押します。投入口の点灯が消え、自動フィーダーによる給紙が再開されます。

スキャン中止状態で、マルチフィード検出を有効にして再スキャンフィーダーを使用する：

1. 再スキャンフィーダーの投入口が点滅している時に、再スキャンフィーダーの投入口が速い点滅に変わるまで **Rescan Feeder**（再スキャンフィーダー）ボタンを押し続けます。実行画面ダイアログが閉じます。
2. アイテムを 1 枚ずつ投入口に挿入します。
3. 終了したら、**Rescan Feeder**（再スキャンフィーダー）ボタンをもう一度押します。投入口の点灯が消え、自動フィーダーによる給紙が再開されます。

4.16. マルチフィード検出 (MFD)

MFD は、フィードベルトのすぐ右に配置された左右のプレフィードホイールと、MFD 無効化 LED と、MFD 無効化ボタンで構成されています (図 4-30 参照)。

MFD では、スキャン時に超音波マルチフィード検出器を無効にすることで、付箋付きアイテムやラミネート紙など、厚さが異なる単一アイテムの給紙が可能です。このフィード経路は、再スキャンフィーダーのドロップスロットの代わりに使用できます。

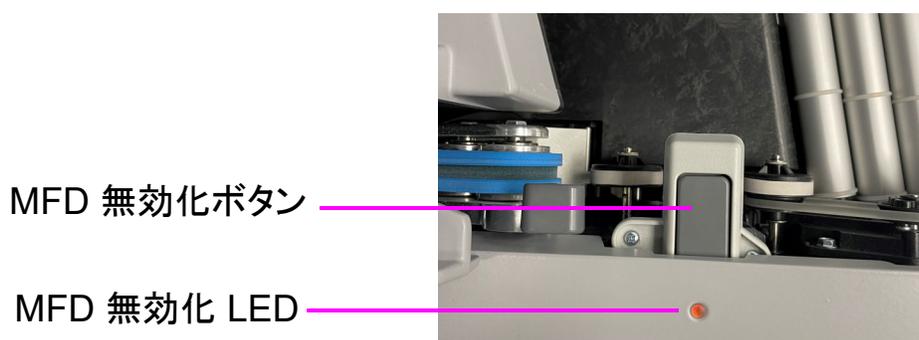


図 4-30 : プレフィード MFD 無効化ボタン

4.16.1. スキャン中の MFD 無効化

1. 厚さが異なるアイテムをスキャンする前に、**MFD override (MFD 無効化)** ボタンを押して、超音波マルチフィード検出器を無効にします。
2. LED が赤で表示されます。
3. スキャンする単一アイテムを、プレフィーダーの投入口の前のコンベアに置きます。
4. アイテムはマルチフィードとして検出されずにスキャンされます。
5. MFD 無効化 LED が消灯して、スキャンを再開します。

注意：複数のアイテムを次々とスキャンする場合、**MFD Override (MFD 無効化)** ボタンを長押しすると、LED が赤色に点滅します。複数のアイテムのスキャンが終了したら、**MFD override (MFD 無効化)** ボタンをもう一度押すと MFD が消灯してスキャンが再開されます。

4.16.2. スキャナの一時停止と MFD の無効化

1. 実行画面で **Pause**（一時停止）を選択します。MFD 無効化 LED が緑色に点滅して、コンベアローラーが停止します。
2. スキャンするアイテムを、フィーダーの投入口の前のコンベアに置きます。
3. **MFD override**（MFD 無効化）ボタンを押します。LED が赤と黄色に点滅して、マルチフィード検出が有効になっていないことを示します。
4. 実行画面の **Resume**（再開）ボタンを押します。
5. アイテムがスキャンされ、LED が消灯してスキャンが再開されます。

4.16.3. スキャン中止時の MFD フィーダー経路の使用

1. スキャン中止状況では、実行画面にエラーが表示され（図 4-31）、スキャンが自動的に停止します。
2. LED は緑色に点滅します。
3. 再スキャンフィーダーのドロップスロットの代わりに、コンベアに再スキャンするアイテムを置きます。
4. **MFD Override**（MFD 無効化）ボタンを押すと、LED が赤と黄色に点滅します。
5. 実行画面の **Continue**（続行）ボタンを押してアイテムを再スキャンします。
6. アイテムがスキャンされ、LED が消灯してスキャンが再開されます。

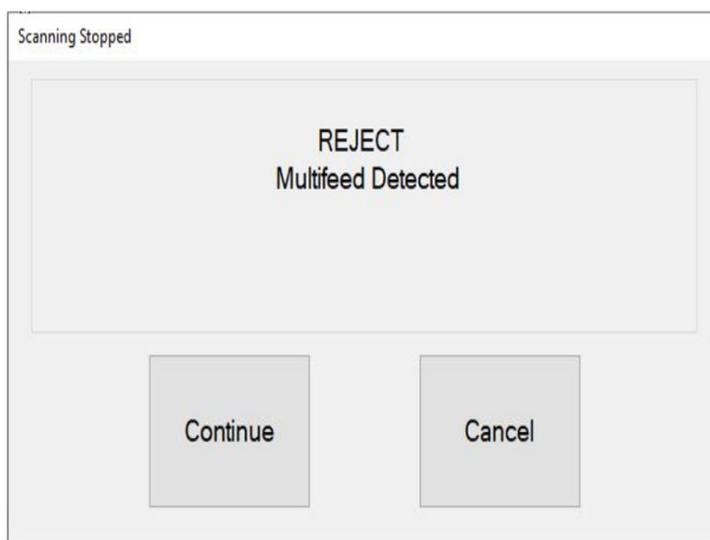


図 4-31 : スキャン中止状況

4.17. ID Assist

ジョブおよびページタイプごとに設定された ID Assist は、スキャン中のアイテムを識別して、アクションを実行するための追加の方法を提供します。ID Assist はスタックフィードモードでは機能しません。

ID Assist は、3 個の全通ビームセンサーを使用します。ID Assist 機能を起動するには、ID Assist 1 と ID Assist Verify を併用します。ID Assist 2 は、ID Assist を起動した後にコンベア上に置かれたアイテムを追跡するために使用します。

4.17.1. ID Assist を使用する

ID Assist を起動するには、ID Assist Verify と ID Assist 1 センサーの前で左から右にアイテムをスワイプしてから（図 4-32）、アイテムをコンベアでリリースします。ID Assist Verify センサーは、ID Assist 機能を有効にして、アイテムを右に移動させたまま ID Assist 1 をブロックします。アイテムが右に完全にスワイプされない場合、ID Assist は起動しません。

ID Assist を使用するジョブが実行されると、ID Assist インジケータ LED が点灯します。ID Assist が起動すると、インジケータ LED が点滅して起動したことを通知します。アイテムがスキャンされると、ID Assist LED は消灯します。

左から右に完全にスワイプしてもアイテムをリリースしない場合、またはリリースした後にコンベアからアイテムを取りあげた場合は、センサーがタイムアウトして ID Assist 機能が適用されなくなります。

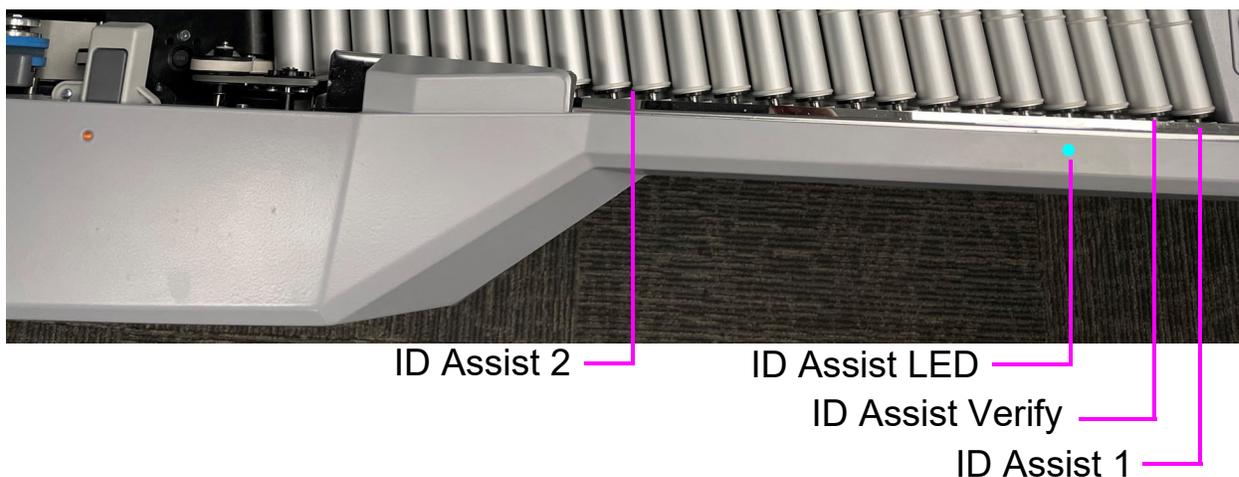


図 4-32 : ID Assist

4.18. マルチスロット ID Assist

オプションのマルチスロット ID Assist 機能は ID Assist と同じ機能ですが、ジョブごとに最大 9 種類の事前割り当て機能を利用できます (図 4-33)。ジョブでマルチスロット ID Assist が設定されている場合、ID Assist は無効になります。

注意： 本機能は高速モードでは機能しません。

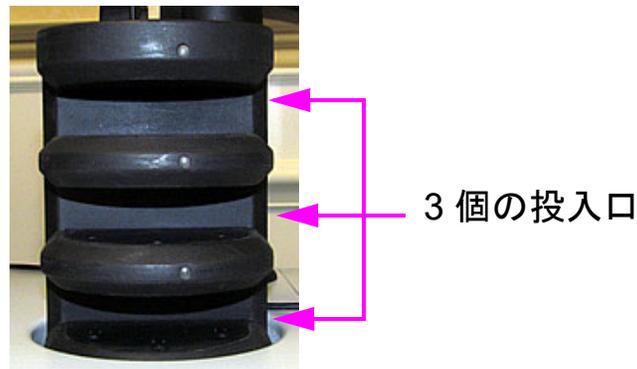


図 4-33 : マルチスロット ID Assist タワー

マルチスロット ID Assist タワーには 3 個の投入口があり、それぞれ 3 つの機能を選択できます。各機能には、それぞれ起動に使われるスワイプ方法があります。下記の 3 つのスワイプ方法を使って、スロット別に各機能を選択できます。

- 投入口内でアイテムを左から右にスライドさせる
- 投入口内でアイテムを右から左にスライドさせる
- アイテムをまっすぐ差し込み、まっすぐ引き出す

注意： ワイヤレスマルチスロット ID Assist タワーでは、スワイプ方法が検出されるまで、タワーの LED ライトはオフのままです。これは、バッテリーの寿命を保つためです。ワイヤレスマルチスロット ID Assist タワーは CR 123 A 3 ボルト電池を使用しています。

スキャン中に、オペレータのためのマルチスロット Assist の説明が情報ウィンドウに表示されます。アイテムのスイープ方向が色と矢印でグラフィック画像が表示されるようになりました (図 4-34)。

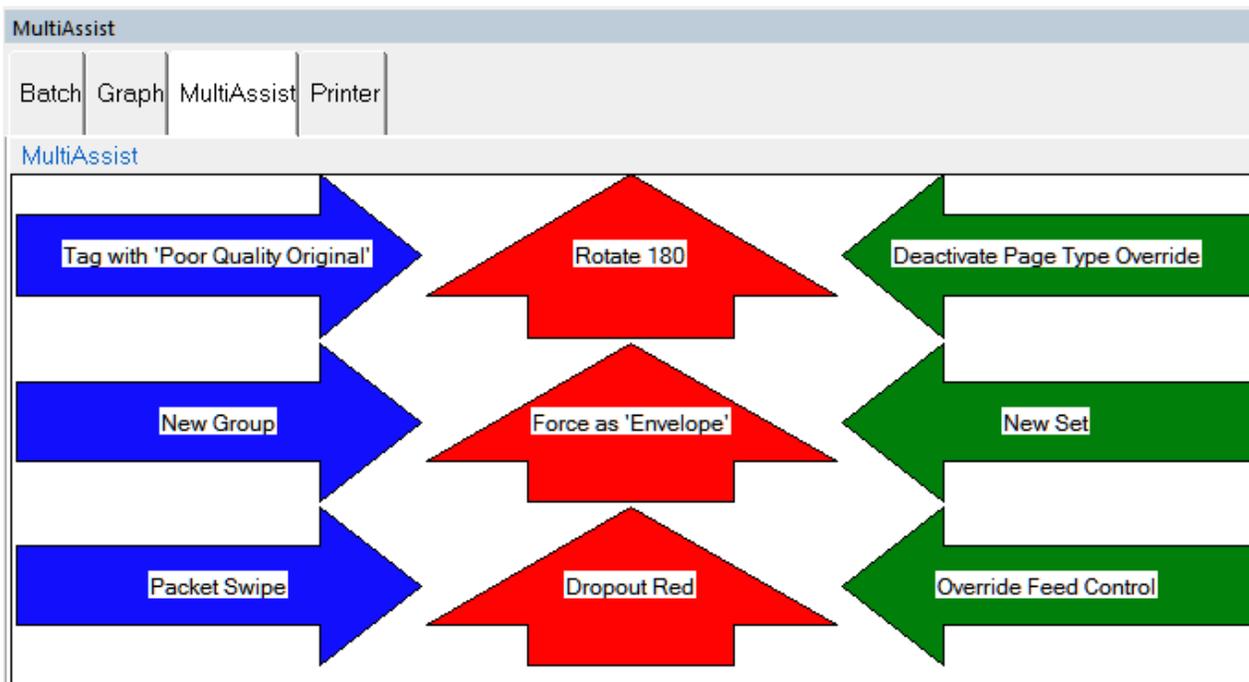


図 4-34 : マルチスロット ID Assist を使用したジョブにおける情報ウィンドウの例

4.19. Key Assist

オプションの Key Assist により、ページタイプの選択、ジョブの開始と停止、画像の回転など実行画面で特定の機能を実行する外部キーパッドを使用できます（図 4-35）。モニターをタッチする代わりに、この機能を使用できます。

Key Assist のキーマッピングはジョブタイプに応じてハードコードされています。マッピングは、以下の 2 つの形式があります。

- マッピング形式 1：オリジナルの Key Assist 形式は、8 種類のページタイプに対応していますが、新規グループキー機能には対応していません。
- マッピング形式 2：ダブルキーを組み合わせることで 12 種類のページタイプと新規グループボタンに対応しています。New Transaction（新規トランザクション）および Solicit Custom Data（ユーザーデータを挿入）では、2 つのキーを素早く順に押すとマッピングが変更されます。

Key Assist 機能は、ルール化されたジョブや参照 ID のあるジョブでは動作しません。参照 ID にはキーボード入力が必要です。

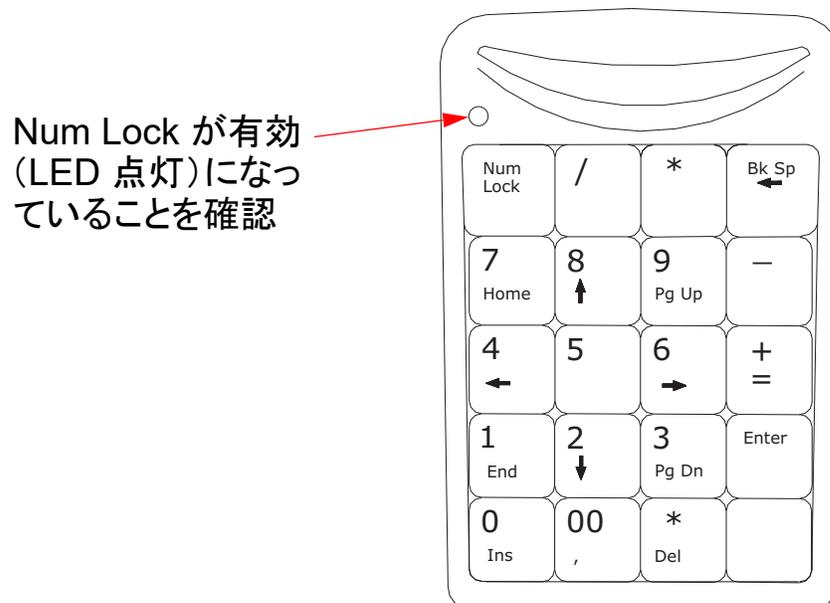


図 4-35：外部キーパッド

4.20. 紙詰まりを解消する

スキャナへのアクセス：

1. ラッチを反時計方向に回して、スキャナカバーを外します。スキャナカバーを開位置になるまで回します（図 4-36）。

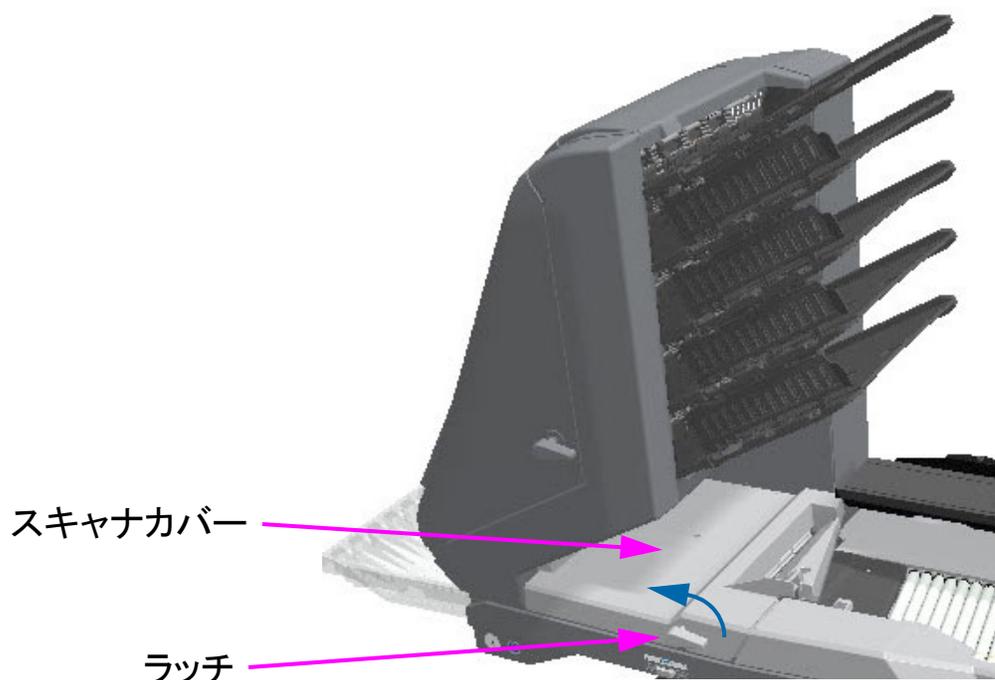


図 4-36 : スキャナへのアクセス

2. 詰まった紙や紙片を取り除きます。
3. スキャナカバーを閉じるには、ラッチを持ちカバーをゆっくりと引きます。
4. カバーが閉位置に届いたら、カチッと固定されるまでラッチを時計回りに回します。

注記

スキャナカバーを下に強く押し込むと、画像センサーが損傷する危険があります。

搬送部へのアクセス：

1. 搬送ラッチを反時計方向に回し、搬送カバーを引きながらスキャナから取り外します（図 4-37 参照）。

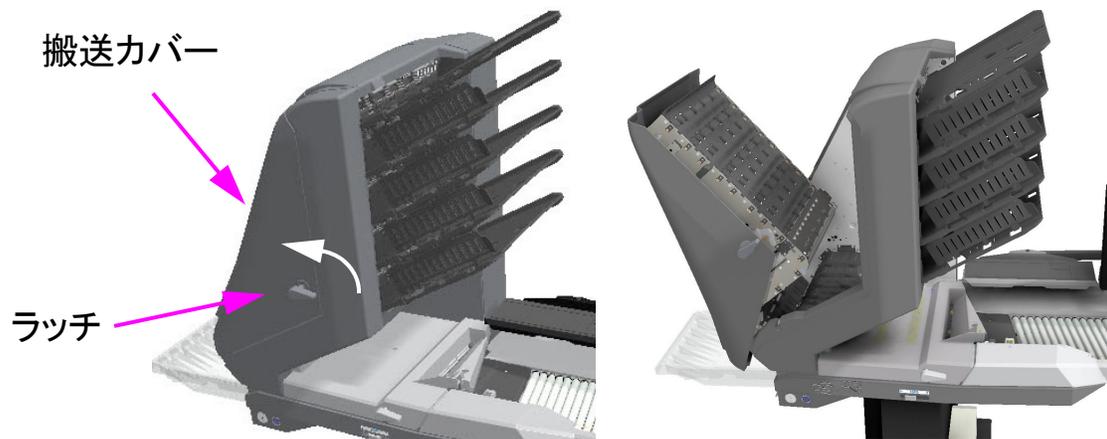


図 4-37：搬送カバーを開く

2. 搬送部に残った紙や紙片を取り除きます。
3. 搬送カバーを閉じるには、ラッチを持ちドアをゆっくりと引きます。
4. カバーが閉位置に届いたら、カチッと固定されるまでラッチを時計回りに回します。

4.21. トレイから文書を取り出す

排紙トレイから用紙を取り出す時は、排紙トレイの横または前からアイテムを引き出すことができます（図 4-38）。トレイは、最も小さなページにアクセスできるように設計されており、ヒンジ付きの側壁を採用して、商品が箱から落ちないようにしています。



図 4-38 : トレイから文書を取り出す

トレイの切り欠きは、アイテムの除去を助けます（図 4-39）。

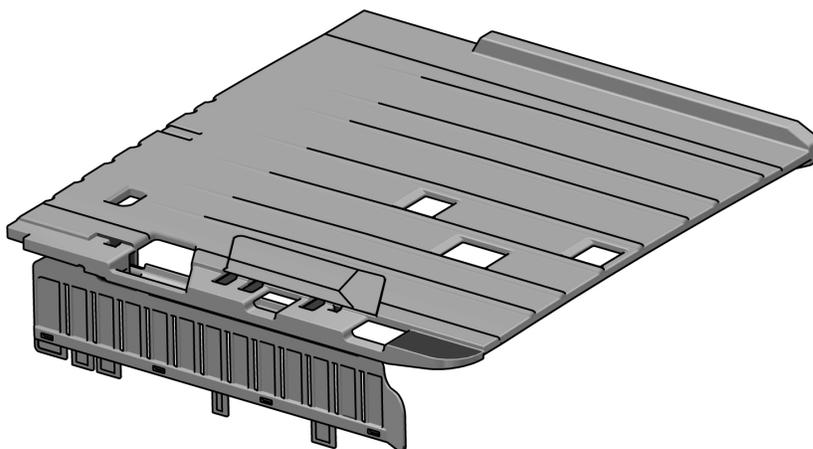


図 4-39 : トレイスロット

5. メンテナンス

5.1. タッチスクリーンモニターの較正	104
5.2. プリンタカートリッジの取り外し/交換	105
5.2.1. バックプリンタカートリッジの取り外し/交換	105
5.2.2. フロントプリンタカートリッジの取り外し/交換	107
5.3. トレイ.....	108
5.4. スキャナの清掃	109
5.4.1. コンベアと搬送アセンブリ	109
5.4.2. コンタクトイメージセンサー(CIS).....	110
5.4.3. フィードアセンブリ.....	111

Gemini

オペレータマニュアル

5.1. タッチスクリーンモニターの較正

Gemini は ViewSonic[®] タッチスクリーンモニター（OPEX # 2887800）を使用します。この 22 インチの LED バックライト付きタッチスクリーンモニターには 3 センサー光学タッチスクリーンが搭載されていて、OPEX から出荷される前にタッチ感度が調整されています。

モニターの較正手順

1. タブレット PC 設定 ウィンドウを開きます。検索フィールドに **Calibrate the screen for pen or touch input**（ペンまたはタッチ入力用に画面を調整する）と入力し、**Enter** を押します。
2. **Tablet PC Settings**（タブレット PC 設定）ウィンドウの **Display**（ディスプレイ）タブで、ドロップダウンメニューから調整するモニターの名前を確認します（図 5-1 参照）。

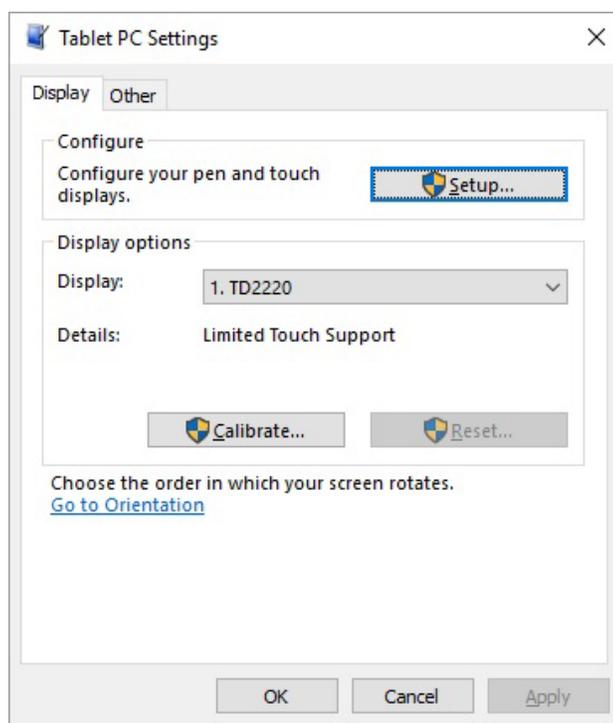


図 5-1 : ディスプレイの選択

3. **Calibrate...**（調整）ボタンをクリックし、画面上の指示に従います。

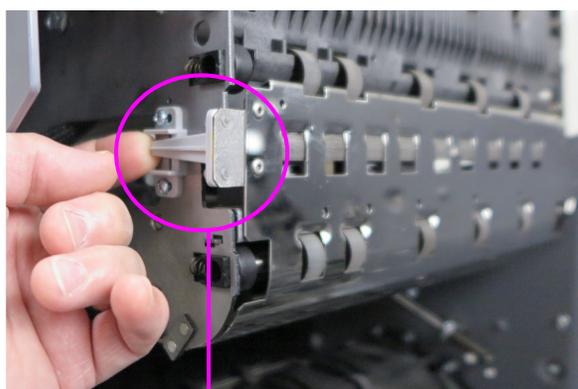
5.2. プリンタカートリッジの取り外し / 交換

プリンタアセンブリは、Gemini のトランスポートセクション内に設置されています。インクカートリッジを取り外す時は、カートリッジの位置や向きに注意して、正しく交換してください。

新しいプリンタカートリッジを取り付ける時は、新しいカートリッジの有効期限が切れていないか確認してください。密閉容器に収納されたプリンタカートリッジの使用期限は、製造日から 2 年間です。交換用プリンタカートリッジは HP Q2344A (OPEX 部品番号 3730510)。

5.2.1. バックプリンタカートリッジの取り外し / 交換

1. ラッチハンドルを外して搬送用ドアを開けます。
2. タブ（図 5-2 をご参照）をゆっくりと持ち上げ、ペーパーガイドをスイングして開き、プリンタアセンブリを露出させます。



リフトタブ

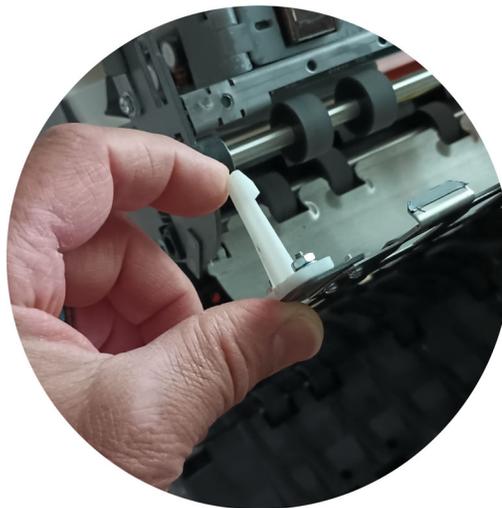


図 5-2 : バックプリンタへのアクセス

3. 図 5-3 に図示されているネジを緩めます。

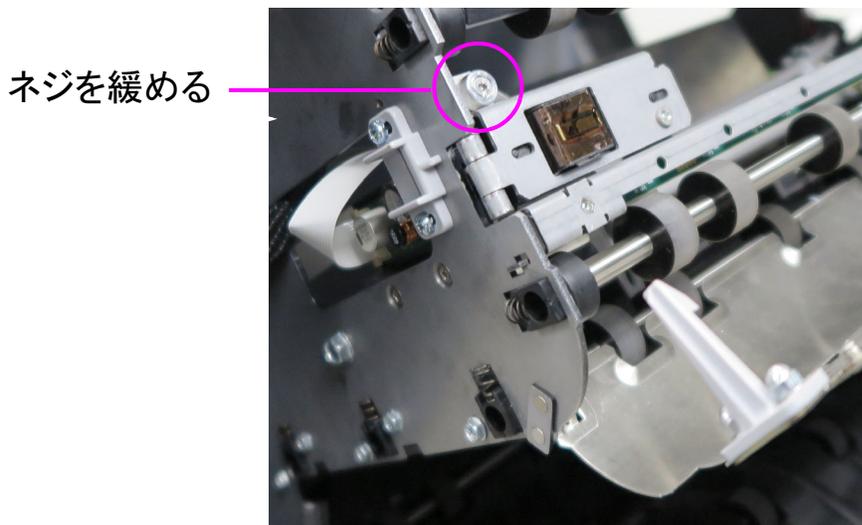


図 5-3 : ネジの位置

4. プリンタ本体を手前に倒すと、緑色のレバーが現れますので、これを開きます (図 5-4)。



図 5-4 : 緑色のレバー

5. プリンタカートリッジの裏面にあるつまみを引き、外側に回転させます。
6. 新しいカートリッジを挿入する時は最初にカートリッジの前端を押し込み、「カチッ」と音がするまでカートリッジの後部を押し込みます。
7. **Diagnostics > Printer** (診断 > プリンタ) を開き、**Replace Ink Cartridge** (インクカートリッジの交換) を選択し、インク残量表示をリセットします。
8. この手順を逆の順序で実施したら完了です。

5.2.2. フロントプリンタカートリッジの取り外し / 交換

1. ソートトレイの下にあるヒンジ式カバーを押します（図 5-5）。カバーを開けると、プリンタ本体が見えます。

ヒンジ付きのペーパーガイドをここに押し込む

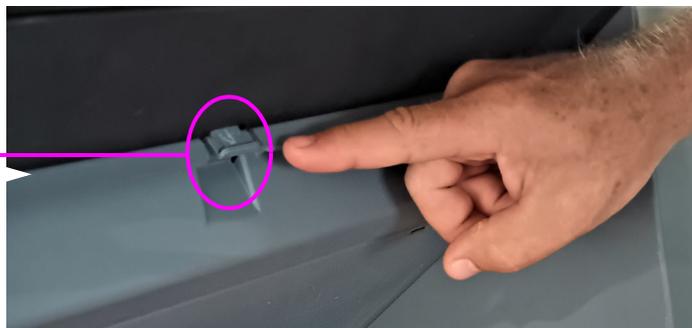


図 5-5 : フロントプリンタへのアクセス

2. 緑色のレバーを持ち上げて、プリンタカートリッジを取り出します（図 5-6）。

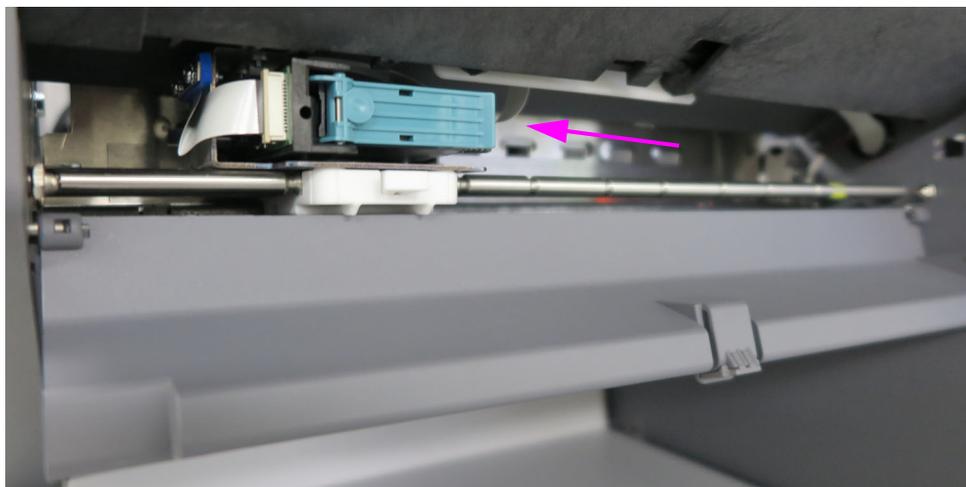


図 5-6 : フロントプリンタアセンブリ

3. プリンタカートリッジの裏面にあるつまみを引き、外側に回転させます。
4. 新しいカートリッジを挿入する時は最初にカートリッジの前端を押し込み、「カチッ」と音がするまでカートリッジの後部を押し込みます。
5. **Diagnostics > Printer**（診断 > プリンタ）を開き、**Replace Ink Cartridge**（インクカートリッジの交換）を選択し、インク残量表示をリセットします。
6. この手順を逆の順序で実施したら完了です。

5.3. トレイ

ソートトレイを挿入します（図 5-7 をご参照）。トレイの位置は以下のとおりです：

- 上段（4 箇所）：トレイの下部に側壁ガイドがヒンジで取り付けられています。
- 下段：側壁ガイドがありません。



図 5-7 : ソートトレイ

5.4. スキャナの清掃

メンテナンスにより、Gemini は効率的に稼働し続けます。しかし、時間の経過に伴いホコリや汚れが蓄積すると性能が低下して、原稿の傾き、複数ページのフィード、詰まりなどの問題を引き起こします。コンベア、スタッカーアセンブリ、フィードアセンブリ、CIS は定期的な清掃が必要です。

メンテナンスを定期的実施することにより、Gemini はダウンタイムを最小限に抑え、最大限の効率で機能し続けます。メンテナンスでは、ホコリやゴミの除去と、全般的な清掃を行います。



注意

クリーナーを使用する際は注意が必要です。クリーナーを含ませた布などは、稼働部を清掃する際には決して使用しないでください。例えば、モーターの動作中はベルトやローラーを清掃しないでください。布きれなどを可動部に使用すると、深刻な怪我につながるおそれがあります。ベルト、ローラー、プーリーなどの部品は、手で回しながら掃除するか、静止している間に掃除してください。

5.4.1. コンベアと搬送アセンブリ

1. 全ての作業を中止して、スキャナの電源を切ります。
2. 搬送部は、毎回の勤務シフトごとに点検してください。スキャナのカバーを開けて、紙くずやほこりや封筒の切り屑などを除去します。
3. スタッカートレイから、必要に応じてゴミやホコリを掃除機で吸出します。
4. コンベアローラーから、必要に応じてゴミやホコリを掃除機で吸出します。

5.4.2. コンタクトイメージセンサー（CIS）

ガラスのコンタクトイメージセンサーは、各シフトの開始時または終了時、あるいは必要に応じて清掃することをお勧めします。実行画面の画像プレビューに線が出る場合は、コンタクトイメージセンサーのガラスにトナー、修正液、紙、糊などが付着している可能性があります。コンタクトイメージセンサーのガラスを糸くずの出ない布か Windex などのガラスクリーナーで拭きます。コンタクトイメージセンサーの上部と下部も清掃してください。コンタクトイメージセンサーは搬送ドアの下に設置されています（図 5-8）。



図 5-8 : コンタクトイメージセンサー

5.4.3. フィードアセンブリ

フィードアセンブリのタブを持ち上げ、下側のリタードパッドを清掃します (図 5-9)。フィーダーに給紙する送りローラーも同時に清掃してください。Formula 409 などのクリーナーを使用して、フィードのメカを毎週または必要に応じて清掃してください。

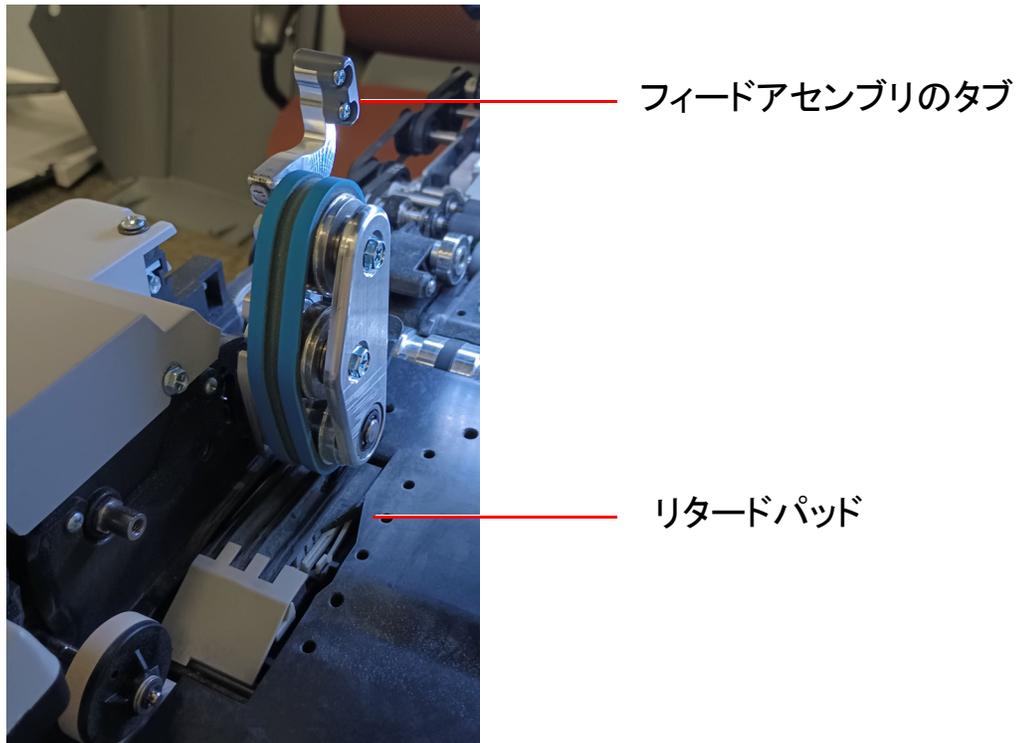


図 5-9 : フィードアセンブリ

(このページは意図的に白紙にしています)

6. 統計とバッチ出力 ファイル拡張子

6.1. Gemini の統計情報	114
6.1.1. 統計レポートの作成	114
6.1.2. General Information (一般情報)	116
6.1.3. 全体的なシステム性能評価	117
6.1.4. Performance Details (パフォーマンスの詳細)	118
6.1.5. リジェクト条件	119
6.1.6. 詰まった回数	122
6.1.7. Stops (停止)	129
6.2. バッチ出力ファイル拡張子	131
6.2.1. 拡張子:	131

Gemini

オペレータマニュアル

6.1. Gemini の統計情報

管理者、担当者、ユーザーレベルのオペレータは、下記のレポート機能にアクセスできます。

- 統計レポートの作成
- 統計情報のバックアップ
- 統計情報の復元

統計レポートを使用して、ジョブの稼働効率を評価できます。Gemini では、下記のレポートを作成できます。

- 個別レポート：各実行ジョブに関する情報が掲載されています。個別レポートを作成するために選択した条件に一致するジョブが複数見つかった場合は、ジョブごとに個別レポートが作成されます。
- 要約レポート：「Statistics Reports Criteria」（統計レポートの基準）ウィンドウで定義された範囲のジョブについての情報が掲載されています。

上記 2 種類のレポートには、いずれも次のセクションが含まれます。

- General Information（一般情報）
- Overall System Performance Measures（全体的なシステム性能評価）
- パフォーマンスの詳細

6.1.1. 統計レポートの作成

1. メインメニューから、**Statistics**（統計情報）を選択します。
2. **Statistics Reports Criteria**（統計レポートの基準）ウィンドウで、レポートのパラメータを設定します。
 - **ジョブ数**：ジョブを選択します。個別、複数、全部から選択します。
 - **オペレータ**：オペレータ、シフト、または全オペレータから選択します。
 - **日付**：ドロップダウンで開始日と終了日を設定します。
 - **時刻**：ドロップダウンで開始時刻と終了時刻を設定します。
 - **Job/Operator Lists**（ジョブ / オペレータリスト）：次のラジオボタンのいずれかを選択します。
 - 現在のジョブ / オペレータ：ジョブとオペレータリスト内のセットとして使用します。
 - 過去の実行数の読み取り：現行のジョブとオペレータのリストから削除されたジョブを検索します。ジョブは削除されても統計情報ファイルにまだ保存されています。このラジオボタンを選択してアクセスし、**Refill**（再充填）ボタンをクリックするとフィールドが再入力されます。

3. **Summary (概要)** セクションで、次のいずれかのラジオボタンを選択します。
 - **全部** : 選択した条件に該当するジョブのすべての統計レポートを作成します。
 - **ジョブ数** : ジョブ名で分類された統計レポートを作成します。
 - **オペレータ** : オペレータ名で分類された統計レポートを作成します。
OPEX 技術者によって生成されたジョブを統計レポートから除外するには、このボックスにチェックを入れます。
4. **Matching Runs (条件に一致するジョブの実行回数)** ボタンをクリックすると、上記で選択した条件に一致するジョブの実行回数を確認できます。
 - N/A (非該当) がボタンの右側に表示されている場合、基準に一致するジョブはありません。検索条件を変更してください。
 - Matching Runs (条件に一致するジョブの実行回数) ボタンの後に数字が表示された場合は、次のステップに進みます。
5. 画面下部にある **Summary Report (概要レポート)** ボタンをクリックします。

Statistics Report (統計レポート) の下部にあるツールバーには、次の情報が表示されます。

- **左右の矢印** : レポート内でコンテンツを移動するために使用します。
- **プリンターボタン** : クリックすると、プリンターダイアログウィンドウが開き、レポートが印刷されます。
- **エクスポートボタン E** : クリックすると、**System Setup > System > Statistics Settings > Statistics Report Export Filename** パラメータで指定された場所にレポートが自動的にバックアップされます。
- **終了ボタン X** : クリックすると、Statistics Report (統計レポート) ウィンドウが閉じます。

6.1.2. General Information（一般情報）

表 6-1 に、統計レポートの General Information（一般情報）セクションに表示される用語を示します。

表 6-1: General Information（一般情報）の用語

用語	定義
ジョブ名	レポート作成対象のジョブの名前です。2 つ以上のジョブについて作成する要約レポートでは、 All（すべて） がこのフィールドに表示されます。
オペレータ	レポートに含まれるオペレータの名前です。2 人以上のオペレータの要約レポートを作成する場合、 All（すべて） がこのフィールドに表示されます。
実行タイプ	Default Batch Type（デフォルトのバッチタイプ） のバッチパラメータで設定された実行タイプです： <ul style="list-style-type: none">• シングル• マルチ• スタブのみ• チェックのみ• ページ付きマルチ• ルール化されていないトランザクション（取引処理）• ページのみ• ルール化されたトランザクション（取引処理）• ミックス Default Batch Type（デフォルトのバッチタイプ） のパラメータは、 Prompt Operator for Process & Recv Dates（プロセスと受領日についてオペレータに確認画面を表示する） のバッチパラメータが Yes（はい） に設定されている場合、ジョブの初回実行時に表示される Modify Batch Information（バッチ情報の変更） ウィンドウにて設定できます。
Start Time（開始時刻）	指定された時間枠内で最初のジョブが開始された時刻です。
End Time（終了時刻）	指定された時間枠内で最後のジョブが停止した時刻です。
Jobs Included（含まれるジョブ）	（要約レポートでのみ表示）レポートに含まれるジョブ数の一覧です。
Jobs Ended（終了ジョブ）	（要約レポートでのみ表示）指定された時間枠で終了したジョブ数の一覧です。

6.1.3. 全体的なシステム性能評価

表 6-2 に、統計レポートの全体的なシステム性能評価の条件を示します。

表 6-2: Overall System Performance Measures (全体的なシステム性能指標) における用語

用語	定義
Input (給紙枚数)	装置にフィードされたアイテムの枚数です。
Output (処理枚数)	装置によって正常に処理されたアイテムの枚数です。この数値は、投入枚数からスキャンを中止した数を差し引いたものです。
Jam Rate (詰まり率)	ジョブ 1 回あたりの詰まり回数です。詰まり率は次のように計算されます。 $\text{詰まり率} = \frac{\text{入力}}{\text{詰まった回数}}$
Rejects (スキャン中止数)	スキャン中止アイテムの枚数です。
Feed Rate (フィード速度)	Gemini の現在の 1 時間当たりのフィード枚数。送り速度の計算式： $\text{フィード速度} = \frac{\text{入力} * 3600}{\text{ジョブのアクティブ時間(秒)}}$
Output Rate (出力率)	Gemini の現在の 1 時間あたりの処理枚数。出力率の式は以下のとおりです： $\text{出力率} = \frac{\text{出力} * 3600}{\text{ジョブのアクティブ時間(秒)}}$
Jam Clear Time (詰まり解消対応時間)	オペレータが詰まり解消対応している間に Gemini が停止した平均時間。詰まり解消対応時間の計算式は以下のとおりです： $\text{詰まり解消対応時間(秒)} = \frac{\text{詰まった時間(秒)}}{\text{詰まった回数}}$

表 6-2: Overall System Performance Measures (全体的なシステム性能指標) における用語 (続き)

用語	定義
Reference Feed Rate (基準フィード率)	Gemini に 1 時間あたりに給紙されたアイテムの枚数。基準フィード率は次のように計算されます。 $\frac{\text{入力} * 3600}{\text{実行時間(秒)} + \text{詰まった回数} * \text{基準。詰まり解消対応時間(秒)}}$
Reference Output Rate (基準出力率)	Gemini によって処理された処理枚数。基準出力率の式は以下のとおりです： $\frac{\text{出力} * 3600}{\text{実行時間(秒)} + \text{詰まった回数} * \text{基準。詰まり解消対応時間(秒)}}$
Reference Jam Clear Time (基準詰まり解消対応時間)	詰まり解消対応に要する推定時間です。この値は 20 秒に固定されています。

6.1.4. Performance Details (パフォーマンスの詳細)

表 6-3 に、統計レポートの Performance Details (パフォーマンスの詳細) セクションに表示される用語を示します。

注意： 表内の数式における時間単位は、すべて秒です。例えば、Active Job Time (ジョブのアクティブ時間) が 00:01:49 であれば、1 分 (60 秒) + 49 秒 = 109 秒を意味します。

表 6-3: Performance Details (システム性能の詳細) の用語

用語	定義
ジョブ時間	Gemini がアクティブに実行されていたか、紙詰まりのために停止した時刻。アクティブな時間は、次のように分類されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 実行時間 • 詰まった時間
Run Time (実行時間)	実行処理の合計時間です。
Jam Time (詰まった時間)	Gemini が紙詰まりのために停止した合計時間。

表 6-3: Performance Details (システム性能の詳細) の用語 (続き)

用語	定義
アイドル時間	オペレータがジョブの実行ウィンドウを操作しており、かつ Gemini によるスキャン処理が行われていなかった時間です。

6.1.5. リジェクト条件

「Rejects (スキャン中止)」セクションには、アイテムのスキャン中止の理由と、各中止毎の枚数が表示されます。

表 6-4: アイテムスキャン中止の理由

Length Too Long (長過ぎ)	スキャン可能サイズよりも長いアイテムや、仕分け設定でスキャン中止と指定した最大長さよりも長いアイテムの場合。
Length Too Short (短すぎ)	仕分け設定でスキャン中止と指定した最小寸法よりも短いアイテムの場合
Gap Too Small (間隔が狭すぎ)	アイテム間の間隔が、スキャナのパラメータで定義された最小フィード間隔よりも短い場合。
Too Thin (薄すぎ)	アウトソートが、定義された最小許容厚さより薄い用紙をスキャン中止するように設定されている場合の結果。
Too Thick (厚すぎ)	アウトソートが、定義された最大許容厚さよりも厚い用紙をスキャン中止するように設定されている場合の結果。
Unable to Capture Image (画像の読み取りに失敗)	イメージャが予想される時間内にイメージを読み込めない場合の結果。
Unable to Process Image (画像の処理に失敗)	処理時間の不足以外の障害によってイメージが処理されない場合の結果。
Blank Image Detected (空白原稿の検出)	ジョブ設定で空白原稿をスキャン中止に指定し、またアイテムがブランクだと検出された場合。
Does Not Match Expected Page Types (想定されたページタイプに不一致)	アイテムが、特定ジョブ内で設定されたページタイプのいずれにも一致しない場合。
Bad MICR Read (無効な MICR 読み取り結果)	結合された MICR 読み取りに十分な有効文字または有効なチェックサムがない場合の結果。

表 6-4: アイテムスキャン中止の理由 (続き)

Batch Ticket Expected (バッチチケットを想定)	バッチチケットが想定されている際に、バッチチケット以外のアイテムが確認された場合。
Stub Expected (スタブを想定)	スタブが想定されている際に、スタブ以外のアイテムが検出された場合。
Check Expected (小切手を想定)	小切手が想定されている際に、小切手以外のアイテムが検出された場合。
Page Expected (ページを想定)	ページが想定されている際に、ページ以外のアイテムが検出された場合。
Envelope Expected (封筒を想定)	封筒が想定されている際に、封筒以外のアイテムが検出された場合。
Money Order Expected (郵便為替を想定)	郵便為替が想定されている際に、郵便為替以外のアイテムが検出された場合。
Cash Expected (現金を想定)	現金が想定されている際に、現金以外のアイテムが検出された場合。
Check Listing Expected (小切手リストを想定)	小切手リストが想定されている際に、小切手リスト以外のアイテムが検出された場合。
Batch Limit Detected (バッチ限度数の検出)	(バッチパラメータで定義されている) 最大トランザクション、用紙、スタブまたはチェックに達した場合の結果。
Last Transaction Not Complete (最後のトランザクションが未完了)	現在のトランザクションが定義されたトランザクションの基準と一致しておらず、アイテムは新しいトランザクションを開始するページタイプとして識別された場合。
Current Transaction Already Complete (現在のトランザクションは既に完了済み)	トランザクションは定義された基準を満たしているが、新しいトランザクションを開始することを定義しないアイテムが新たに認識された場合。
Batch Ticket Not Expected (想定外のバッチチケット)	有効なバッチチケットがバッチにすでに含まれているにも関わらず、別のアイテムがバッチチケットとして認識された場合 (自動バッチモードの使用時を除く)。
Ran Out of Time Processing Image (画像処理のタイムアウト)	ソフトウェアが問題の画像を処理する際に、許容時間を使い切った場合です。許容時間はトラック速度によって変わります。

表 6-4: アイテムスキャン中止の理由 (続き)

Could Not Detect Document Edges (アイテム端の検出に失敗)	画像処理時にスキャンされたアイテム端を検出できなかった場合。
No Page Sub-Type Selected (ページサブタイプが未選択)	ページサブタイプを含む原アイテムが検出されたものが、デフォルトのページサブタイプが指定されておらず、オペレータもページサブタイプの選択を行なわなかった場合。
ScanLink Plug-in Requested a Reject (ScanLink プラグインがスキャン中止を要求)	ScanLink プラグインがアイテムのスキャン中止を要求した場合
ScanLink Plug-in Timed Out (ScanLink プラグインのタイムアウト)	ホストが ScanLink プラグインから応答を所定時間内に受信しなかった場合。
Could Not Create a Batch (バッチの作成に失敗)	システム内で新規ファイルを開いて書き込みできないために、あるいはシステム内のエラーにより、ソフトウェアがバッチを作成できなかった場合。
Detected a Duplicate Batch (重複バッチが検出)	使用されたバッチリスト内に、またはバッチディレクトリ内に同じバッチ番号を持つバッチが検出された場合。
Failed Saving Image (画像の保存に失敗)	バッチ内でアイテムの追加または再スキャンを試みた際に、エラーが発生した場合
Magnetic MICR Response Missing (磁気 MICR が未応答)	磁気 MICR からの応答が想定されている際に、応答が受信されなかった場合
Cannot Process Printer Data (プリンタデータの処理に失敗)	監査証跡をプリンタ - に送信する時にエラーが発生した場合の結果。
Required Item Expected (必要アイテムを想定)	トランザクション内の現在の場所でスキャンするアイテムの優先順位が正しくない場合の結果 (ルール化されたバッチのみ)。
Only One Item of this Type Expected (唯一の特定タイプのアイテムを想定)	スキャンされたアイテムの優先度の 1 つのアイテムのみが許可され、その必要なアイテムがバッチ内にすでに存在する場合の結果 (ルール化されたバッチのみ)。

表 6-4: アイテムスキャン中止の理由 (続き)

New Transaction Required (新規トランザクションが必要)	このアイテムをバッチに追加するために新しいトランザクションを開始する必要がある場合の結果 (ルール化されたバッチのみ)。
Jamsorts (詰まりソート)	ジョブパラメータ「スキャンを中止するために機械を停止する」が「No (いいえ)」以外の場合、スキャン中止直後のすべての入力用紙に対して、スキャン中止がクリアされるまで表示されます。また、詰まった直後のすべての入力用紙についても、詰まりが解消されるまで表示されます。
使用可能なトレイがない	トレイのフルセンサーが、ソートトレイがその容量に達したことを検出した場合の結果。

6.1.6. 詰まった回数

「Jams (詰まった回数)」セクションには、詰まった原因が表示されます。

表 6-5: 詰まった原因

Duplicate Batch Detected (重複するバッチを検出)	同じ名前のバッチがすでに存在するため、バッチを開始できませんでした。
Too Many Consecutive Rejects (連続したスキャンの中止が多すぎる)	連続スキャン中止発生数が、スキャナパラメータで設定された許容回数を超えている場合
Software Problem Detected (ソフトウェア問題検出)	コントローラがホストから無効な情報を受信した場合、またはコントローラ内で問題または例外が発生した場合の結果。
Vertical Turn Sensor Missing (垂直回転センサーの検出に失敗)	コントローラが垂直回転センサーのそばを通過すると予想していても、予想される時間内に通過しなかった場合の結果。
Stacker Entry Sensor Missing (スタッカー投入口センサーが検出せず)	コントローラがスタッカー投入口センサーのそばを通過することを予想していても、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。
Bin 2 Gate Sensor Missing (トレイ 2 用ゲートセンサーの検出に失敗)	コントローラがトレイ 2 ゲートセンサーのそばを通過することを予想していても、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。
Feed Entry Multifeed Sensor Blocked (フィード投入口のマルチフィード検知センサーがブロック)	フィード投入口のマルチフィード検知センサーがブロックされている場合。

表 6-5: 詰まった原因 (続き)

Feed Input Multifeed Sensor Blocked (フィード入力のマルチフィード検知センサーがブロック)	フィード入力のマルチフィード検知センサーがブロックされている場合。
Unexpected Piece at Stacker Entry Sensor (スタッカー投入口センサーで想定外のアイテム)	スタッカー投入口センサーにより、ソフトウェアにとって想定外のアイテムが検出された場合です。通常はスタッカーのバイパストレイに排紙される予定だったアイテムが時間内に正常な処理が出来なかったことが原因です。ゲートが適切に作動しなかったことが原因の場合もあります。
Unexpected Piece at Bin 2 Sensor (トレイ 2 用センサーで想定外のアイテム)	トレイ 2 用センサーにより、ソフトウェアが想定外のアイテムを検出した場合です。ゲートが適切に作動しなかったことが原因です。
Invalid Piece Complete Response (原稿完了時の応答が無効)	アイテムの処理終了時に、無効なアイテム ID をホストから受信した場合。
Piece Thickness Sensor Null Below Minimum (アイテム厚みセンサーの検出値が最小 Null 値以下)	アイテム厚みセンサーの検出値が、スキャナパラメータで定義された最小 NULL 値を下回った場合。
Piece Thickness Sensor Null Above Maximum (アイテム厚みセンサーの検出値が最大 Null 値以上)	アイテム厚みセンサーの検出値が、スキャナパラメータで定義された最大 NULL 値を上回った場合。
Piece Thickness Sensor Runout Problem (アイテム厚みセンサーの測定範囲問題)	原稿厚みセンサーの測定範囲が、スキャナパラメータで定義された最大測定範囲値を上回った場合。
Missing Piece at Straight Through Path (ストレートパスでアイテムが未検出)	スタッカーバイパストレイに排紙される予定だったアイテムが、他のトレイに排紙された場合。
Batch Manager has an Internal Error (バッチマネージャーで内部エラーが発生)	Batch Manager 内で内部エラーが発生した場合。
Detected a File Write Error (ファイル書き込みエラー)	指定されたディレクトリーに画像ファイルまたはバッチファイルを書き込む際に、ソフトウェアが問題を検出した場合。
ScanLink Plug-in Failed (ScanLink プラグインの異常)	ScanLink プラグインへの情報送信に失敗した場合。
ScanLink Plug-in Requested a Jam (ScanLink プラグインが詰まりを要求)	ScanLink のプラグインから詰まりが要求された場合。

表 6-5: 詰まった原因 (続き)

<p>Host to Controller Report Missing (ホストから Controller へのレポートの未検出)</p>	<p>Controller ではホストからアイテム情報が送られることを想定していましたが、想定時間内に情報を受信できなかった場合です。システムの処理能力が限界付近にて使用された場合や、何らかの理由によりシステムが同期できない場合に発生します。</p>
<p>Jam Caused by Reject (アイテムスキャン中止による詰まり)</p>	<p>Jamsorts (停止原因アイテム以降のアイテム) 以外のスキャンが中止された場合です。Jamsorts (停止原因アイテム以降のアイテム) 以外のスキャン中止発生回数は、すべてこのカテゴリとして数えられます。装置を停止させるには、「Stop Machines for Rejects (アイテムスキャン中止時に装置を停止する)」のジョブパラメータを「No (いいえ)」以外に設定する必要があります。No (いいえ) 以外に設定した場合、スキャン中止アイテムは中止トレイに送られ、スキャン処理は続行されます。</p>
<p>Double Detected (複数ページの検出)</p>	<p>マルチフィード検知センサーが、2 枚のアイテムがフィードされたことを通知します。</p>
<p>MFD Skew Angle Exceeded Sensor Blocked (MFD 傾斜角検出センサーのブロック)</p>	<p>MFD 傾斜角検出センサーがブロックされています。</p>
<p>MFD Skew Damage Exceeded Sensor Blocked (MFD 傾斜損傷検出センサーのブロック)</p>	<p>MFD 傾斜損傷検出センサーがブロックされています。</p>
<p>Out Of Bounds Sensor Blocked (スキャン可能範囲センサーのブロック)</p>	<p>スキャン可能範囲センサーがブロックされています。</p>
<p>Out of Bounds Detected (スキャン可能範囲検出)</p>	<p>スキャン可能範囲に対して、アイテムが長すぎます。</p>
<p>Justification Sensor Blocked (アイテム整列センサーのブロック)</p>	<p>アイテム整列センサーがブロックされています。</p>
<p>Feed Singulation Defeat Button Stuck (フィード無効化ボタンが復帰せず)</p>	<p>フィードコントロール無効化ボタンが押下状態のまま戻りません。</p>
<p>Skew 9 Sensor Blocked (傾きセンサー 9 のブロック)</p>	<p>傾きセンサー 9 がブロックされています。</p>
<p>Skew 8 Sensor Blocked (傾きセンサー 8 のブロック)</p>	<p>傾きセンサー 8 がブロックされています。</p>
<p>Skew 7 Sensor Blocked (傾きセンサー 7 のブロック)</p>	<p>傾きセンサー 7 がブロックされています。</p>

表 6-5: 詰まった原因 (続き)

Skew 6 Sensor Blocked (傾きセンサー 6 のブロック)	傾きセンサー 6 がブロックされています。
Skew 5 Sensor Blocked (傾きセンサー 5 のブロック)	傾きセンサー 5 がブロックされています。
Skew 4 Sensor Blocked (傾きセンサー 4 のブロック)	傾きセンサー 4 がブロックされています。
Post Feed MFD Trail Sensor Blocked (ポストフィード MFD 追跡センサーのブロック)	ポストフィード MFD 追跡センサーがブロックされています。
Stepper Stall Detected (ステッパ停止の検出)	ステッピングモーターが停止しました。
Pre Crush Roller Sensor Blocked (プレクラッシュローラーセンサーのブロック)	プレクラッシュローラーセンサーがブロックされています。
Feed Entry RX Present Sensor Blocked (フィード投入口 RX 検出センサーのブロック)	フィード投入口 RX 検出センサーがブロックされています。
Fan Failure Detected (ファン異常の検出)	ファンの動作が停止しました。
Roller Bed Motor Fault Detected (ローラーベッドモーター異常の検出)	ローラーベッドモーターのジョブ起動中に、機能停止、過電流、過小電流、過熱警告、または過熱遮断がステッピングコントローラーによって検出されたときに稼働します。
Feeder Motor Fault Detected (フィーダーモーターの異常検出)	フィーダーモーターのジョブ起動中に、機能停止、過電流、過小電流、過熱警告、または過熱遮断がステッピングコントローラーによって検出されたときに稼働します。
Scan Bed Motor Fault Detected (スキャンベッドモーター異常の検出)	スキャンベッドモーターのジョブ起動中に、機能停止、過電流、過小電流、過熱警告、または過熱遮断がステッピングコントローラーによって検出されたときに稼働します。
Stacker Motor Fault Detected (スタッカーモーター異常の検出)	スタッカーモーターのジョブ起動中に、機能停止、過電流、過小電流、過熱警告、または過熱遮断がステッピングコントローラーによって検出されたときに稼働します。
ID1 Assist Verify Jammed (ID1 アシスト詰まりの確認)	ID1 ASSIST VERIFY センサーが調整可能な許容時間よりも長くブロックされたときに稼働します。ここでのタイムアウト時間は、 id assist sensor jammed time (5000) (ID アシストセンサーによる詰まり時間 (5000)) のスキャナパラメータで設定します。デフォルトは 5000 ミリ秒 (= 5 秒) です。

表 6-5: 詰まった原因 (続き)

<p>Servo Fuse 1 Fault Detected (サーボヒューズ 1 異常の検出)</p>	<p>上流または右側のプレフィードアームを制御するサーボモータ用ヒューズがオープンになっている場合か切れたことを検出した場合に稼働します。</p>
<p>Servo Fuse 2 Fault Detected (サーボヒューズ 2 異常の検出)</p>	<p>下流または左側のプレフィードアームを制御するサーボモータ用ヒューズがオープンになっている場合か切れたことを検出した場合に稼働します。</p>
<p>Roller Bed Fan Fault Detected (ローラーベッドファン異常の検出)</p>	<p>ローラーベッドモーター用ファンの動作を検出できないときに稼働します。</p>
<p>Feeder Fan Fault Detected (フィーダーファン異常の検出)</p>	<p>フィーダー用モーターのファンの動作を検出できないときに稼働します。</p>
<p>IO Link Down Detected (IO リンクダウンの検出)</p>	<p>IO ステッパボードと OPEX IO リンクポート間の RJ45 ケーブルが抜かれている場合、および IO ステッパボードの電源がオフのときに稼働します。これらの条件のいずれかに該当し、スキャナが動作している場合、Controller が IO Link Down Detected (IO リンクダウン検出) 詰まりを通知します。CertainScan では停止ダイアログ画面が表示され、「リンクがダウンしています。ケーブルと電源を確認してください」とのメッセージが出ます。</p> <p>このイベントには、Machine Parameter (スキャナのパラメータ) > Module Disable Parameters (モジュール無効化パラメータ) > disable io link down detection (IO Link 検出の無効化) の設定と連携しております。disable io link down detection (IO Link ダウン検出の無効化) を 0 (デフォルト) に設定している場合、前述のように、このイベントが検出され、必要に応じて停止されます。disable io link detection (IO Link 検出の無効化) がされている場合、イベントは検出されません。</p>
<p>Imager Error Detected (画像エラーの検出)</p>	<p>画像キャプチャの準備ができていないことが検出されたにも関わらず、装置のジョブが開始されたときに稼働します。</p>
<p>Unexpected Piece detected at Drop Slot (ドロップスロットで想定外のアイテムが検出)</p>	<p>ドロップスロットが作動していない時に、アイテムが「システムエントリ」センサーで検出されると発生します。</p>

表 6-5: 詰まった原因 (続き)

<p>Reduced TMD accuracy has been detected (TMD 精度低下の検出)</p>	<p>Gemini の TMD が保守点検を必要としている際に、技術者に通知する目的があります。</p> <p>直近 2 週間で TMD DAC の自動設定に狂いが 3 回以上検出された場合、保守点検が必要だと判断されます。自動設定が狂う大半の原因は、TMD マグネットやセンサーチップの周囲に蓄積しているホッチキスの針です。</p> <p>TMD DAC の自動設定の履歴は、TMD_DAC_Settings_Log.dat ファイルに記録されます。TMD の修理点検後にこのエラーメッセージが表示されることを防ぐため、C:\OPEX ディレクトリーからログファイルを削除することをお勧めします。</p>
<p>Bin 1 Gate Sensor Blocked (トレイ 1 用ゲートセンサブロック)</p>	<p>トレイ 1 のゲートセンサーがブロックされている。</p>
<p>Bin 1 Exit Sensor Blocked (トレイ 1 の出口センサブロック)</p>	<p>トレイ 1 の出口センサーがブロックされています。</p>
<p>Bin 2 Exit Sensor Blocked (トレイ 2 の出口センサブロック)</p>	<p>トレイ 2 の出口センサーがブロックされています。</p>
<p>Bin 3 Exit Sensor Blocked (トレイ 3 の出口センサブロック)</p>	<p>トレイ 3 の出口センサーがブロックされています。</p>
<p>Bin 4 Exit Sensor Blocked (トレイ 4 の出口センサブロック)</p>	<p>トレイ 4 の出口センサーがブロックされています。</p>
<p>Bin 5 Exit Sensor Blocked (トレイ 5 の出口センサブロック)</p>	<p>トレイ 5 の出口センサーがブロックされています。</p>
<p>Stacker Entry Sensor Missing (下部のイメージ投入口センサーがない)</p>	<p>コントローラが下部のイメージ投入口センサーによって用紙が通過することを予想しているが、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。</p>
<p>MICR Entry Sensor Missing (MICR の投入口センサーが見つからない)</p>	<p>コントローラが MICR の投入口センサーによって用紙の通過を確認することを期待しているが、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。</p>
<p>Bin 0 Entry Sensor Missing (トレイ 0 の投入口センサーがない)</p>	<p>コントローラがトレイ 0 の投入口センサーによって用紙の通過を確認することを期待しているが、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。</p>
<p>Bin 1 Gate Sensor Missing (トレイ 1 用ゲートセンサーの検出に失敗)</p>	<p>コントローラがトレイ 1 ゲートセンサーのそばを通過することを予期していても、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。</p>

表 6-5: 詰まった原因 (続き)

<p>Bin 1 Exit Sensor Missing (トレイ 1 の出口センサーがない)</p>	<p>コントローラがトレイ 1 の出口センサーによって用紙の通過を確認することを期待しているが、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。</p>
<p>Bin 2 Exit Sensor Missing (トレイ 2 の出口センサーがない)</p>	<p>コントローラがトレイ 2 の出口センサーによって用紙の通過を確認することを期待しているが、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。</p>
<p>Bin 3 Exit Sensor Missing (トレイ 3 の出口センサーがない)</p>	<p>コントローラがトレイ 3 の出口センサーによって用紙の通過を確認することを期待しているが、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。</p>
<p>Bin 4 Exit Sensor Missing (トレイ 4 の出口センサーがない)</p>	<p>コントローラがトレイ 4 の出口センサーによって用紙の通過を確認することを期待しているが、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。</p>
<p>Bin 5 Exit Sensor Missing (トレイ 5 の出口センサーがない)</p>	<p>コントローラがトレイ 5 の出口センサーによって用紙の通過を確認することを期待しているが、予想される期間内に通過しなかった場合の結果。</p>
<p>Back Printer Door Open (背面プリンタドアが開いている)</p>	<p>プリンタの背面ドアが完全に閉じていない場合の結果。</p>
<p>ドロップスロット ACK タイムアウト</p>	<p>ドロップスロットが高速スキャンで有効になっている時に、すべてのタイミング機能が同期できなかった場合の結果。</p>

6.1.7. Stops (停止)

Stops (停止) セクションには、以下の停止理由が記載されます。

Table 7: 停止の理由

Feeder Jammed (詰まりが発生したフィーダー)	下側の傾き検出センサーが指定時間にブロックされた場合。この指定時間は、詰まり時間とフィード稼働時間の両方によって決まります。
Upper Skew Detect Sensor Blocked (上部傾き検出センサーのブロック)	システムの起動時に、上部傾き検出センサーにてブロックされた場合。
Middle Skew Detect Sensor Blocked (中部傾き検出センサーのブロック)	システムの起動時に、中部傾き検出センサーがブロックされた場合。
Lower Skew Detect Sensor Blocked (下部傾き検出センサーのブロック)	システムの起動時に、下部傾き検出センサーがブロックされた場合。
System Entry Sensor Blocked (システム投入口センサーのブロック)	システムの起動時に、システム投入口センサーがブロックされた場合。
Vertical Turn Sensor Blocked (垂直回転センサーのブロック)	システムの起動時に、垂直回転センサーがブロックされた場合。
Stacker Entry Sensor Blocked (スタッカー投入口センサーのブロック)	システムの起動時に、スタッカー投入口センサーがブロックされた場合。
Bin 2 Gate Sensor Blocked (トレイ2用ゲートセンサーのブロック)	システムの起動時に、トレイ2用ゲートセンサーがブロックされた場合。
Stacker Door Open (スタッカードアが開いた)	スキャン中またはシステムの起動時に、スタッカードアの開いた状態が検出された場合。
Transport Door Open (搬送ドアが開いた)	スキャン中またはシステムの起動時に、搬送ドアの開いた状態が検出された場合。

Table 7: 停止の理由 (続き)

<p>ScanLink Plug-in Requested a Stoppage (ScanLink プラグインが停止を要求)</p>	<p>ScanLink のプラグインから停止を要求された場合。</p>
<p>Too Skewed (傾斜が大きすぎる)</p>	<p>アイテムの傾きが大きすぎてスキャナを安全に通過できない場合。</p>
<p>Stacker Entry Sensor Missing (下部のイメージ投入口センサーがブロックされた)</p>	<p>システムが起動しようとしている時に、下部イメージ投入口センサーが何かによってブロックされた場合の結果。</p>
<p>MICR Entry Sensor Blocked (MICR 投入口センサーブロック)</p>	<p>システムが起動しようとした時に、MICR 投入口センサーが何かによってブロックされた場合の結果。</p>
<p>Bin 0 Entry Sensor Blocked (トレイ 0 の投入口センサーブロック)</p>	<p>システムが起動しようとした時に、トレイ 0 の投入口センサーが何かによってブロックされた場合の結果。</p>
<p>Bin is Unavailable (トレイが使用できない)</p>	<p>設定されたジョブトレイが利用できない場合、5トレイ (Gemini、FalconV) または 3トレイ (Falcon)、もしくはジョブ用にトレイが設定されているが機械パラメータによって無効になっている場合に結果が表示されます。この停止は上書きできます。</p>
<p>Bin 1-5 Is Not Empty (トレイ 1 ~ 5 は空ではありません)</p>	<p>ジョブの開始時に、空を確認するためにトレイがポーリングされます。これは、見つかったトレイが空でない場合に発生します。この停止は上書きできます。</p>
<p>Front Printer Door Open (フロントプリンタドアが開いている)</p>	<p>実行中にフロントプリンタのドアが開いていることが検出された場合、またはシステムが起動しようとした場合の結果。</p>

6.2. バッチ出力ファイル拡張子

OPEX アプリケーション（CertainScan、CertainScan Edit、OPEX Transform）間のバッチの受け渡しには、OII（OPEX Interchange Interface）と呼ばれる内部バッチファイルフォーマットが使用されます。これにより、途中で変更を加え、最終的なアウトプット（OXI、ODI、カスタム）を作成してバックエンドユーザーに提供できます。OII バッチファイルでは、拡張子「.oii」を使用します。CertainScan バッチパラメータの設定が、OII ファイルを使ったバッチ処理の方法やタイミングに影響を与える可能性があります。

6.2.1. 拡張子 :

バッチの状態はファイル拡張子で表されます。ODI、OXI、OII は次の状態に対応します。

- **Final** : *.odi、*.oxi、*.oii
- **Suspended Scanning** : *.odi_scan、*.oxi_scan、*.oii_scan

この拡張子は、次のバッチパラメータの設定に基づいて表示されます。

- 画像とバッチの編集を要求 = いいえ
- オペレータにバッチを中断するよう指示 = はい

- **Suspended Editing** : *.odi_edit、*.oxi_edit、*.oii_edit

この拡張子は、編集のためにバッチが閉じられているときに表示されます。

- **Suspended Transform** : *.odi_transform、*.oxi_transform、*.oii_transform

この拡張子は、変換のためにバッチが閉じられているときに表示されます。

- **Temp Scanning** : *.odi_scan_temp、*.oxi_scan_temp、*.oii_scan_temp

この拡張子は、バッチが最初に表示されるときに一瞬だけ表示されます。

- **Temp Editing** : *.odi_edit_temp、*.oxi_edit_temp、*.oii_edit_temp

この拡張子は、CertainScan Edit でバッチを開いているときに表示されます。

- **Corrupt** : *.odx、*.oxx、*.oix

注意 : これは、サポートされているすべての形式のリストですが、すべての形式が使用されているわけではありません。

(このページは意図的に白紙にしています)

OPEX Corporation 企業情報

OPEX Corporation では機械メーカーの枠組みを超えて、お客様の未来のために常にテクノロジーを再構築しています。

弊社では革新的な手法により、お客様が現在および将来の差し迫ったビジネス課題を解決するための独自の自動化ソリューションを設計しています。拡張性に優れた弊社の倉庫、アイテム、メール自動化ソリューションは、ワークフローを改善し、変革を加速させ、インフラの効率化を促進します。

弊社は家族経営の組織で、1,200 人以上の献身的な社員が日々産業の変革に貢献する製品の革新、製造、設置、サービスに従事しています。弊社はお客様の声に耳を傾け、お互いを尊重し、自動化ソリューションによって未来を再構築するために力を合わせています。

OPEX は次世代のオートメーションそのものを体現した企業です。

GEMINI

OPEX[®]

OPEX Corporation | 305 Commerce Drive | Moorestown, NJ 08057-4234 | USA

<http://www.opex.com>